

アップグレード

Sibelius 6

6.1 版
July 2009

Daniel Spreadbury 著作

この小冊子をよりよいものにしていくために、皆様よりご意見を「最新情報とテクニカルヘルプ」に掲載されているテクニカルヘルプサポートまでご連絡いただければ幸いです。

本製品はソフトウェア使用許諾契約の条件に従って使用されるものとします。

Sibelius の著作権 © Avid Technology, Inc. とそのライセンス供与者 1987–2009

Sibelius 6 アップグレードの著作権 © Avid Technology, Inc. 2009

発行：Avid Technology, Inc., The Old Toy Factory, 20–23 City North, Fonthill Road, London N4 3HF, UK

不許複製。この小冊子は、発行者による書面での事前の許可なくして、その一部または全部を、電子的方法、記録的方法、機械的方向、写真複写的方法、あるいはその他のいかなる方法によっても、それを複製したり検索システムに保存したりあるいは転送することを禁じます。この『リファレンス』の作成に際しては十分な注意を払いましたが、誤記あるいは欠落に起因するいかなる損失または損傷に対しても、発行者および著者は責任を負わないものとします。

Sibelius、Sibelius ロゴ、Scorch、Flexi-time、Espressivo、Rubato、Rhythmic feel、Arrange、ManuScript、Virtual Manuscript Paper、House Style、SoundStage、Opus、Inkpen2、Helsinki、Reprise、magnetic、multicopy、Optical、Dynamic parts、SoundWorld、Panorama、青と白の音符のロゴおよび二重螺旋のロゴ、SibeliusMusic.com、SibeliusEducation.com、「The fastest、smartest、easiest way to write music」および「99% inspiration、1% perspiration」はすべて、米国、英国、およびその他の諸国での Avid Technology, Inc. の商標または登録商標です。その他すべての商標はそれぞれの所有者に帰属します。

目次

はじめに.....	4
インストレーション	5
Windows でのアップグレード.....	6
Mac でのアップグレード.....	11
Sibelius の最初の起動.....	16
旧バージョンのファイルを開く.....	17
Sibelius Sounds 製品のアップグレード.....	20
新機能	21
マグネティック レイアウト.....	22
再生.....	26
ライブテンポ.....	29
バージョン.....	35
キーボードウィンドウとフレットボードウィンドウ.....	40
コード記号.....	42
ルック&フィール.....	46
その他の改良と修正.....	50
付録	79
付録 A : Sibelius5.2.5 までの改良.....	80
付録 B : メニューの変更.....	85
付録 C : キーボードショートカット.....	86

はじめに

世界中で愛されている楽譜ソフトウェアの最新バージョン Sibelius 6 へアップグレードして頂きまして誠にありがとうございます。みなさまのご要望に応え、楽譜の作成、演奏、教授、学習、出版のための様々な機能を追加しました。その多くは、これまでの記譜ソフトウェアにはなかったものです。

仕事として、教育現場で、または趣味として Sibelius を使うすべてのみなさまに、Sibelius 6 が記譜ソフトウェアの大きな進歩であることがお分かりいただけたと思います。

この小冊子について

この小冊子では、Sibelius の新しいバージョンのインストール方法を説明し、主な新機能を紹介します。その他の機能改善については、詳細が参照できるように、Sibelius リファレンスに記載されている順序に従って要約します。

この小冊子は、新しいバージョンの新機能と機能改善のすべてを説明するものではありません。詳細のすべてについては Sibelius リファレンス（下記）を参照してください。

アップグレードを使用する前に、この小冊子全体に目を通すことをお勧めします。少なくとも、次の数ページのアップグレード方法に従ってアップグレードを行ってください。

[Sibelius リファレンス] - Sibelius リファレンスを表示します。

Sibelius 6 の文書は 2 種類あります。ソフトウェアのインストール方法と基本的な機能について説明した『ハンドブック』と、このプログラムのすべての機能について詳しく説明した『リファレンス』です。『Sibelius 6 ハンドブック』は必要ないため、このアップグレードには付属していません。

『リファレンス』は Sibelius 6 から画面に表示できます。[ヘルプ] ▶ [ドキュメント] ▶ [Sibelius リファレンス]（ショートカットは **F1** または **⌘?**）を選択すると、リファレンスが Adobe Reader (Windows)、またはプレビュー (Mac) で開きます。

『Sibelius リファレンス』には印刷版もあります。印刷版を購入されたい方は、www.sibelius.jp をご覧ください。

Sibelius 5 以降の『Sibelius リファレンス』への追加と変更は次のとおりです。

- 5.11 プラグインは、**プラグインメニュー**のサブメニューごと**にトピックを持つ新しい章 6. プラグイン**へ移行しました。
- 新機能は新しいトピックで、機能改善は既存のトピックを大幅に改訂して説明しています。どのトピックを指すかは、この小冊子の該当箇所です。

アップグレードパックの内容

この小冊子以外に次の物が同梱されていることをご確認ください。

- Sibelius 6 DVD-ROM
- 最新情報とテクニカルヘルプシート
- リファレンス冊子（アップグレードと共に購入した場合）

インストラクション

Windows でのアップグレード

始める前に

Sibelius の旧バージョンがあるコンピュータにアップグレードをインストールする場合は、旧バージョンをアンインストールする必要はありません。

Sibelius 6 を新しいコンピュータにインストールする場合は、その新しいコンピュータに旧バージョンをインストールする必要はありません。

システム必要条件

Sibelius 6 のみのシステム必要条件：

Windows XP 32ビット SP2以降、Windows Vista 32ビット SP1以降、Windows 7 32ビットまたは64ビット、512MB+ RAM、ハードディスク容量 550MB、DVD-ROM ドライブ

Sibelius Sounds Essentials を使用する場合の推奨：

Intel Core Duo または AMD Turion 以降、物理 RAM 合計 1GB+ (2GB 推奨)、ハードディスク容量合計 3.5GB、ASIO 対応サウンドカード

コンピュータが推奨必要条件を満たしていても、Sibelius Sounds Essentials を使用できませんが、多くのサウンドを同時に使えない場合があります。

Sibelius 6 のインストールと起動には、Windows XP Service Pack 2 以降が必要です。Windows 95、Windows 98、Windows Me、Windows 2000、Windows NT 4.x を使用している場合は、Windows オペレーティングシステムの最新バージョンを購入する必要があります。

Windows XP SP2 または SP3 を使用しているかどうかを調べる方法

使用している Windows XP が SP2 または SP3 か不確かな場合は：

- [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行...] を選択します。
- 開いたボックスに「winver」を入力し、Return キー（メインキーボード）を押します。
- 次のような単純なウィンドウが表示されます。



テキストの2行目の最後に **Service Pack 2** または **Service Pack 3** があるはずですが、そうでない場合はアップデートする必要があります。一番簡単なアップデート方法は、[スタート] メニューから

[Windows Update] を選択して、自動的にダウンロードすることです。Sibelius を実行したいコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、CD-ROM の Windows XP Service Pack 2 を入手するか、他の場所でダウンロードしたものを CD に焼き、コンピュータで使用します。詳しくは、<http://www.microsoft.com/japan/windows/products/windowsxp/sp3/default.mspx> を参照してください。

複数のコピーとサイトのライセンス

Sibelius の 5 パックのように同じシリアル番号を使用して複数のコピーをインストールする場合は、2 番目の登録またはラップトップコピーの際に、同じ手順に従います。

複数の Sibelius シリアル番号（たとえば、2 組の 5 パックなど）をお持ちの場合は、そのコンピュータで使用された Sibelius シリアル番号を使用して、各コンピュータのアップグレード手順に従ってください。どのコンピュータにどのシリアル番号が使われているか分からない場合は、旧バージョンを起動し、[ヘルプ] ▶ [Sibelius について] を選択してください。ウィンドウの一番下にシリアル番号が表示されます。

Sibelius のネットワーク ライセンスをお持ちの場合は、アップグレードパックに同梱の『Sibelius 6 ライセンス サーバー ユーザー ガイド』をお読みください。

管理者権限

コンピュータの管理者権限を持つユーザーアカウントを使用して、Sibelius をインストールする必要があります。インストール後に Sibelius を登録するために、管理者ユーザーアカウントを使用するか、求めに応じて管理者ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。

そのため、Sibelius 6 のインストール後、管理者ユーザーとして起動し、登録するようにしてください。

ソフトウェアの登録後、他のアプリケーションと同様に一般ユーザーとして Sibelius を起動し、システムのセキュリティを確保します。

自分がコンピュータを使用する唯一のユーザーであるか、コンピュータのユーザーアカウントや管理者権限について何も知らない場合は、上記の内容を無視し、通常どおりにソフトウェアをインストールしてかまいません。

アップグレードのインストール

- 起動しているすべてのプログラムを終了します。起動時に自動でロードされるウイルス対策やスパイウェア対策のプログラムも終了しておいた方がよいでしょう。
- Sibelius DVD-ROM をケースから取り出し、コンピュータの DVD-ROM ドライブに挿入して（ラベルが印刷された側を上）、ドライブスロットを閉じます。
- 数秒後、DVD-ROM ドライブが作動し、ダイアログが画面に表示されます（しばらく何も起きない場合は、[スタート] メニューをクリックして [ファイル名を指定して実行...] を選択し、「D:\autorun」と入力します。この D は、DVD-ROM のドライブ名です。それから、メインキーボードの Return キーを押します）。
- Windows Vista または Windows 7 では、小さな [自動再生] ウィンドウが表示されます。[プログラムのインストール / 実行] の下の、[autorun.exe の実行] をクリックします。
- メインインストールウィンドウで、[Sibelius 6 をインストール] をクリックすると、Sibelius のアップグレードが開始します。
- Windows Vista または Windows 7 では、画面が暗くなることがあり、それから [ユーザーアカウント制御] ウィンドウが表示されます。インストールの作業を進めていい場合は、[続行] をクリックします。

インストール

- Windows XP では、Microsoft Windows Installer がコンピュータにインストールされていない場合は、インストールするよう求められます。[インストール] をクリックし、Windows Installer キットがインストールされるのを待ちます。数分かかることがあります。
- 同様に、Windows XP を使用していて Microsoft .NET Framework 2.0 がコンピュータにインストールされていない場合は、インストールするよう求められます。[インストール] をクリックすると、使用許諾契約を読むように求められます。[同意する] をクリックして表示された使用許諾契約を承諾し、.NET Framework がインストールされるのを待ちます。数分かかることがあります。
- しばらくすると、[Sibelius 6 セットアップ] ウィンドウが表示されます。[次へ] をクリックします。
- Sibelius 使用許諾契約に目を通してください（リファレンスの最後にも記載されています）。[同意します] ラジオボタンを選択し、[次へ] をクリックします。
- インストール先のパス（コンピュータ内の場所）を確認するダイアログが表示されますが、Sibelius が参照する場所を指定する特別な理由があり、設定を変更する方法を知っている場合を除き、このままにしておきます。[次へ] をクリックします。
- 「インストール準備完了」の旨のメッセージが表示されます。[インストール] をクリックします。
- プログラムのインストールが始まり、数分間、インストールの進行を示す画面表示が移り変わっていきます。
- インストーラが終了し、[完了] をクリックすると、最初に DVD-ROM を挿入したときに表示されたウィンドウに戻ります。

Sibelius 6 を起動する前に、Sibelius 6 DVD-ROM から他のアプリケーションをインストールするかどうか決めてください。

Sibelius Sounds Essentials のインストール

Sibelius Sounds Essentials は Sibelius の使用する高音質のサウンドライブラリです。Sibelius 5 をお持ちで、Sibelius 5 に付属の Sibelius Sounds Essentials をすでにインストールしている場合も、Sibelius 6 の DVD-ROM から新しいバージョンをインストールしてください。インストール手順は次のとおりです。

- メインインストールウィンドウで、[Sibelius Sounds Essentials をインストール] をクリックします。
- しばらくするとインストーラが起動します。
- Windows Vista または Windows 7 では、画面が暗くなることもあり、それから [ユーザーアカウント制御] ウィンドウが表示されます。インストールの作業を進めていい場合は、[続行] をクリックします。
- [Welcome to the Sibelius Sounds Essentials for Sibelius 6 Setup Wizard] ウィンドウが表示されます。[Next] をクリックします。
- 使用許諾契約の画面が表示されます。[I accept the agreement] ラジオボタンを選択し、[Next] をクリックします。
- インストール先のパス（コンピュータ内の場所）を確認するダイアログが表示されますが、参照する場所を指定する特別な理由があり、設定を変更する方法を知っている場合を除き、このままにしておきます。[Next] をクリックします。
- 「Sibelius Sounds Essentials インストール準備完了」の旨のメッセージが表示されます。[Install] をクリックします。
- プログラムのインストールが始まります。これには数分かかりますので、しばらくお待ちください。
- インストーラが完了したら、[Finish] をクリックします。

PhotoScore Lite のインストール

アップグレードとともに PhotoScore Ultimate を購入したか、すでに PhotoScore Ultimate (または PhotoScore Professional の旧バージョン) をインストールしていない限り、ここで Sibelius 6 DVD-ROM から PhotoScore Lite の最新バージョンをインストールする必要があります。

- メインインストールウィンドウで、**[PhotoScore Lite をインストール]** をクリックします。
- Windows Vista では、画面が暗くなることもあり、それから **[ユーザーアカウント制御]** ウィンドウが表示されます。インストールの作業を進めていい場合は、**[続行]** をクリックします。
- **[Next]** をクリックすると、PhotoScore Lite の使用許諾契約の画面が表示されますので、お読みいただいた上で、**[Next]** をクリックします。
- 以下の情報を入力するように求められます。**[Name]** を入力します。**[Product ID]** は、自動的に入力されています。入力が完了したら、**[Next]** をクリックします。
- PhotoScore Lite のプログラムファイルの格納位置についてのメッセージが表示されます。必要に応じて、場所を変更できます。変更しない場合は、**[Next]** をクリックします。
- もう一度 **[Next]** をクリックすると、PhotoScore Lite がインストールされます。それから **[Finish]** をクリックします。

AudioScore Lite のインストール

AudioScore Lite は、PhotoScore を開発した Neuratron のアプリケーションで、マイクを使った歌やアコースティック楽器の演奏を自動的に楽譜にし、Sibelius での編集を可能にします。

アップグレードとともに AudioScore Ultimate を購入したか、すでに AudioScore Ultimate (または AudioScore Professional の旧バージョン) をインストールしていない限り、ここで Sibelius 6 DVD-ROM から AudioScore Lite の最新バージョンをインストールする必要があります。

- メインインストールウィンドウで、**[Install AudioScore Lite]** をクリックします。
- Windows Vista では、画面が暗くなることもあり、それから **[ユーザーアカウント制御]** ウィンドウが表示されます。インストールの作業を進めていい場合は、**[続行]** をクリックします。
- **[Next]** をクリックすると、AudioScore の使用許諾契約の画面が表示されますので、お読みいただいた上で、**[Next]** をクリックします。
- 以下の情報を入力するように求められます。**[Name]** を入力します。**[Product ID]** は、自動的に入力されています。入力が完了したら、**[Next]** をクリックします。
- AudioScore Lite のプログラムファイルの格納位置についてのメッセージが表示されます。必要に応じて、場所を変更できます。変更しない場合は、**[Next]** をクリックします。
- もう一度 **[Next]** をクリックすると、PhotoScore Lite がインストールされます。それから **[Finish]** をクリックします。

Sibelius Scorch のインストール

ここで、最新バージョンの Sibelius Scorch をインストールする必要があります。Scorch は、インターネットで Sibelius のスコアの表示、再生、移調、印刷などを行うためのプラグインの無料ウェブブラウザです。

- まず、起動しているウェブブラウザをすべて終了します。
- メインインストールウィンドウで、**[Install Scorch]** をクリックします。

インストーラ

- Scorch のインストーラが起動するまで数分かかる場合がありますので、しばらくお待ちください。**[Welcome to the Sibelius Scorch (all browsers) Setup Wizard]** ウィンドウが開きます。**[Next]** をクリックします。
- Scorch 使用許諾契約に目を通してください。読んだら、**[I Agree]** ラジオボタンをクリックし、それから **[Next]** をクリックします。
- Scorch のインストールフォルダを選択するように求められます。再び、**[Next]** をクリックします。
- Scorch のインストールの準備が整ったことが表示されます。**[Next]** をクリックします。
- Windows Vista または Windows 7 では、画面が暗くなることもあり、それから **[ユーザーアカウント制御]** ウィンドウが表示されます。インストールの作業を進めていい場合は、**[続行]** をクリックします。
- Scorch のインストール中に画面の物が光り飛び交います。それほど時間はかかりません。
- インストーラが完了したら、**[Close]** をクリックします。

初めての起動

これで Sibelius 6 を起動する準備ができました（16 ページの Sibelius の最初の起動参照）。

旧バージョンの Sibelius のアンインストール

コンピュータにインストールされている Sibelius の旧バージョンは、Sibelius 6 へのアップグレードに影響されず、使い続けることができます。ただし Sibelius 6 へのアップグレード後は、旧バージョンをオンラインで登録することはできず、旧バージョンを別のコンピュータへ移動することはできません（必要な場合はテクニカルサポートにご相談ください）。

Sibelius 6 で削除された機能のいずれか（Finale、SCORE、Acorn Sibelius のファイルのインポートなど）を使う必要がなければ、旧バージョンをアンインストールすることをお勧めします。Sibelius をアンインストールするには、**[スタート]** ▶ **[コントロール パネル]** を選択し、**[プログラムの追加と削除]**（Windows XP）または **[プログラムと機能]**（Windows Vista または Windows 7）をダブルクリックします。

Sibelius の旧バージョン（**Sibelius 5** など）が一覧の中に表示されます。旧バージョンを選択し、**[変更 / 削除]**（Windows XP）または **[アンインストール]**（Windows Vista または Windows 7）をクリックします。**[Sibelius 6]** を選択してはいけません。選択すると新しいバージョンが削除されてしまいます。次に、画面の指示に従い、旧バージョンをアンインストールします。

Mac でのアップグレード

重要

Sibelius の旧バージョンがあるコンピュータにアップグレードをインストールする場合は、旧バージョンをアンインストールする必要はありません。

Sibelius 6 を新しいコンピュータにインストールする場合は、その新しいコンピュータに旧バージョンをインストールする必要はありません。

システム必要条件

Sibelius 6 のみのシステム必要条件：

Mac OS X 10.4.11 以降、Mac OS X 10.5.7 以降、または Mac OS X 10.6、512MB+ RAM、ハードディスク容量 550MB、DVD-ROM ドライブ

Sibelius Sounds Essentials を使用する場合の推奨：

Intel Core Duo 以上、物理 RAM 合計 1GB+ (2GB 推奨)、ハードディスク容量合計 3.5GB

コンピュータが推奨必要条件を満たしていても、Sibelius Sounds Essentials を使用できませんが、多くのサウンドを同時に使えない場合があります。

Mac OS X 10.4 より前のバージョンの Mac OS X を実行している場合は、Sibelius をインストールできません。有料ですが、Mac OS X をアップグレードしてください。詳しくは、www.apple.com/jp を参照してください。

Sibelius を使用する際には Mac OS X の最新バージョンを実行してください。[システム環境設定] の [ソフトウェア・アップデート] パネルで最新バージョンをしていることを確認してください。

Mac OS X 10.4 Tiger 以降を使用しているかどうかを調べる方法

Apple メニューから [この Mac について] を選択します。次のような単純なウィンドウが表示されません。



「Mac OS X」の大きなテキストの下に、「バージョン 10.4.11」のようなテキストがあります。この数字が「10.4」以上で始まっている場合は、Mac OS X 10.4 Tiger 以降の Mac OS X が実行されており、Sibelius 6 をインストールして起動できます。

複数のコピーとサイトライセンス

Sibelius の 5 パックのように同じシリアル番号を使用して複数のコピーをインストールする場合は、2 番目の登録またはラップトップコピーの際に、同じ手順に従います。

複数の Sibelius シリアル番号（たとえば、2 組の 5 パックなど）をお持ちの場合は、そのコンピュータで使用された Sibelius シリアル番号を使用して、各コンピュータのアップグレード手順に従ってください。どのコンピュータにどのシリアル番号が使われているか分からない場合は、旧バージョンを起動し、**[Sibelius]** ▶ **[Sibelius について]** を選択してください。ウィンドウの一番下にシリアル番号が表示されます。

Sibelius のネットワーク ライセンスをお持ちの場合は、アップグレード パックに同梱の『Sibelius 6 ライセンス サーバー ユーザー ガイド』をお読みください。

管理者権限

Sibelius 6 を正しくインストールして登録するには、管理者のパスワードが必要です。

ソフトウェアの登録後、他のアプリケーションと同様に一般ユーザーとして Sibelius を起動し、システムのセキュリティを確保します。

自分がコンピュータを使用する唯一のユーザーであるか、コンピュータのユーザーアカウントや管理者権限について何も知らない場合は、上記の内容を無視し、通常どおりにソフトウェアをインストールしてかまいません。

アップグレードのインストール

- Sibelius DVD-ROM をケースから取り出し、コンピュータの DVD-ROM ドライブに挿入して（ラベルの貼られた側が上）、ドライブスロットを閉じます。
- 数秒後、**[Sibelius 6]** のラベルの DVD アイコンがデスクトップに表示されたら、ウィンドウが自動的に開きます。開かない場合は **[Sibelius 6]** アイコンをダブルクリックします。
- 表示されたウィンドウの中の **Install Sibelius 6** アイコンをダブルクリックすると、インストールーションが始まります。
- **[ようこそ Sibelius 6 インストーラへ]** というタイトルのウィンドウが表示されます。**[続ける]** をクリックしてください。
- Sibelius 使用許諾契約に目を通してください（リファレンスの最後にも記載されています）。お読みいただいた上で、**[続ける]** をクリックし、**[同意する]** をクリックしてください。
- Sibelius 6 のインストールに必要なディスク容量が表示されます（Sibelius 6 を再インストールする場合は、ほとんどディスク容量が必要ないことが示されます）。Sibelius は Mac の起動ディスクにインストールする必要がありますので、**[インストール先を変更]** をクリックしないでください。**[インストール]** をクリックします。
- 管理者のパスワードが求められます。入力し、**[OK]** をクリックします。
- インストールが始まり、進捗バーが表示されます。これには数分かかる場合があります。
- インストールーションが成功したことを示すメッセージが表示されます。**[閉じる]** をクリックします。

Sibelius 6 を起動する前に、Sibelius 6 DVD-ROM から他のアプリケーションをインストールするかどうか決めてください。

Sibelius Sounds Essentials のインストール

Sibelius Sounds Essentials は Sibelius の使用する高音質のサウンドライブラリです。Sibelius 5 をお持ちで、Sibelius 5 に付属の Sibelius Sounds Essentials をすでにインストールしている場合も、Sibelius 6 の DVD-ROM から新しいバージョンをインストールしてください。インストール手順は次のとおりです。

- **[Install Sibelius Sounds Essentials]** をダブルクリックして、インストールを開始します。
- **[ようこそ Sibelius Sounds Essentials for Sibelius 6 インストーラへ]** というタイトルのウィンドウが表示されます。**[続ける]** をクリックしてください。
- 使用許諾契約の画面が表示されます。お読みいただいた上で、**[続ける]** をクリックし、**[Agree]** をクリックしてください。
- Sibelius Sounds Essentials は Mac の起動ディスクにインストールする必要がありますので(必要であれば後で移動できます。下記の Sibelius Sounds Essentials を移動する参照)、**[インストール先を変更]** をクリックしないでください。**[インストール]** をクリックします。
- 管理者のパスワードが求められます。入力し、**[OK]** をクリックします。
- インストールが始まり、進捗バーが表示されます。これには数分かかる場合があります。
- インストールが成功したことを示すメッセージが表示されます。**[閉じる]** をクリックします。

Scorch のインストール

ここで、最新バージョンの Sibelius Scorch をインストールする必要があります。Scorch は、インターネットで Sibelius のスコアの表示、再生、移調、印刷などを行うためのものです。

- まず、起動しているウェブ ブラウザをすべて終了します。
- **[Install Sibelius Scorch]** をダブルクリックして、インストールを開始します。
- **[ようこそ Sibelius Scorch インストーラへ]** というタイトルのウィンドウが表示されます。**[Continue]** をクリックしてください。
- 使用許諾契約の画面が表示されます。お読みいただいた上で、**[続ける]** をクリックし、**[同意する]** をクリックしてください。
- Scorch は Mac の起動ディスクにインストールする必要がありますので、**[インストール先を変更]** をクリックしないでください。**[インストール]** をクリックします。
- コンピュータの管理者のパスワードを入力するよう求められます。入力し、**[OK]** をクリックします。
- 進行状況を示すバーが画面に表示され、インストールの完了を示すメッセージが表示されます。**[閉じる]** をクリックします。

PhotoScore Lite のインストール

アップグレードとともに PhotoScore Ultimate を購入したか、すでに PhotoScore Ultimate (または PhotoScore Professional の旧バージョン) をインストールしていない限り、ここで PhotoScore Lite の最新バージョンをインストールする必要があります。

- **[Install PhotoScore Lite]** をダブルクリックして、インストールを開始します。
- **[ようこそ PhotoScore Lite インストーラへ]** というタイトルのウィンドウが表示されます。**[続ける]** をクリックしてください。

インストール

- 表示された PhotoScore Lite の使用許諾に目を通し、**[同意する]** をクリックします。
- 次の画面で、**[インストール]** をクリックします。
- コンピュータの管理者のパスワードを入力するよう求められます。入力し、**[OK]** をクリックします。
- 進行状況を示すバーが画面に表示され、インストールの完了を示すメッセージが表示されます。**[閉じる]** をクリックします。

AudioScore Lite のインストール

AudioScore Lite は、PhotoScore を開発した Neuratron のアプリケーションで、マイクを使った歌やアコースティック楽器の演奏を自動的に楽譜にし、Sibelius での編集を可能にします。

アップグレードとともに AudioScore Ultimate を購入したか、すでに AudioScore Ultimate (または AudioScore Professional の旧バージョン) をインストールしていない限り、ここで Sibelius 6 DVD-ROM から AudioScore Lite の最新バージョンをインストールする必要があります。

- **[Install AudioScore Lite]** をダブルクリックして、インストールを開始します。
- [Welcome to the AudioScore Lite Installer] というタイトルのウィンドウが表示されます。**[続ける]** をクリックしてください。
- 表示された AudioScore の使用許諾に目を通し、**[続ける]** をクリックし、**[同意する]** をクリックします。
- 次の画面で Mac の起動ディスクを選択し、**[続ける]** をクリックします。
- インストールに必要なディスク容量が表示されます。**[インストール]** をクリックします。
- コンピュータの管理者のパスワードを入力するよう求められます。入力し、**[OK]** をクリックします。
- 進行状況を示すバーが画面に表示され、インストールの完了を示すメッセージが表示されます。**[閉じる]** をクリックします。

初めての起動

これで Sibelius 6 を起動する準備はできました (16 ページの Sibelius の最初の起動参照)。

Sibelius Sounds Essentials を移動する

インストレーションの後で、Sibelius Sounds Essentials を別のボリューム (外付けハードディスクなど) へ移動するには：

- 実行している場合は Sibelius を終了します。
- Finder で、**/ライブラリ /Application Support/Sibelius Software/Sibelius Sounds** へ移動します。
- 少なくとも以下の 2 つのフォルダが表示されます。**Essentials for Sibelius 6** と **Libraries** です。
- **Essentials for Sibelius 6** フォルダを任意の場所へドラッグします。**Libraries** フォルダは移動しないでください。
- Sibelius を再び起動します。Essentials サウンドライブラリが見つからないというメッセージが表示されます。**[はい]** をクリックし、新しい場所を選択して **[選択]** をクリックします。管理者のパスワードが求められますので、入力して **[OK]** をクリックします。

旧バージョンの Sibelius のアンインストール

コンピュータにインストールされている Sibelius の旧バージョンは、Sibelius 6 へのアップグレードに影響されず、使い続けることができます。ただし Sibelius 6 へのアップグレード後は、旧バージョンをオンラインで登録することはできず、旧バージョンを別のコンピュータへ移動することはできません（必要な場合はテクニカルサポートにご相談ください）。

Sibelius 6 で削除された機能のいずれか（Finale、SCORE、Acorn Sibelius のファイルのインポートなど）を使う必要がなければ、旧バージョンをアンインストールすることをお薦めします。

Sibelius 2 からアップグレードするユーザーへの注意

Sibelius 2 からアップグレードした場合は、すでに作成したスコアの標準設定の保存場所は、**Sibelius 2** プログラムフォルダにある **Scores** フォルダですのでご注意ください。そのため、Sibelius 2 をアンインストールする前に、**Scores** フォルダを **Sibelius 2** プログラムフォルダの外へ移動し、楽譜をすべて削除してしまわないようにしてください。

旧フォルダ（**Sibelius 2** または **Sibelius 3**）、**Sibelius 4**、または **Sibelius 5** のアプリケーションアイコンを見つけ、ゴミ箱へドラッグします。

Sibelius の最初の起動

デスクトップ (Windows) または [アプリケーション] フォルダ (Mac) の [Sibelius 6] アイコンをダブルクリックして Sibelius 6 を起動します。次に、以下の手順に従います。

- 初めて Sibelius 6 を起動するときは、管理者アカウントを使うよう促されます。[OK] をクリックしてください。
 - Windows Vista または Windows 7 では、画面が暗くなることもあり、それから [ユーザーアカウント制御] ウィンドウが表示されます。問題がなければ [続ける] をクリックし、必要に応じて管理者のパスワードを入力します。
 - Windows XP では管理者のパスワードが求められる場合がありますので、その場合はパスワードを入力します。
 - Mac では管理者のパスワードが求められます。入力し、[OK] をクリックします。
- シリアル番号を入力するよう求められます。シリアル番号は Sibelius のオリジナルバージョンに付随する CD ケースの裏にあり、S で始まります。入力し、[OK] をクリックします。
- 次に、Sibelius を登録するよう求められます。ここで必ず登録してください。[このコンピュータのインターネット接続を使って登録] ラジオボタンを選択して、[次へ] をクリックし、画面の指示に従います。ご使用のコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、[別のコンピュータのインターネット接続を使って登録] ラジオボタンを選択し、画面の指示に従います。Mac の場合は、ここでもう一度管理者のパスワードが求められる場合がありますので、そのときはパスワードを入力してください。
- [完了] をクリックします。Sibelius が正常に登録されたことがメッセージで表示されます。
- Sibelius 6 のスプラッシュ画面が表示され、音楽が流れます。
- Sibelius を起動すると、[クイックスタート] ダイアログが表示されます。このダイアログを起動時に表示させたくない場合は、[Sibelius 起動時に毎回表示する] をオフにします。

Sibelius のインストールし終わったら、Sibelius 6 の DVD-ROM を旧バージョンの CD ケースへ収納します。新しい DVD は必ず旧バージョンのケースにしまってください。このケースの裏にシリアル番号があるからです。

旧バージョンのファイルを開く

旧バージョンの Sibelius で保存したスコアを Sibelius 6 で初めて開くと、**[スコアのアップデート]** ダイアログが表示されます。このダイアログでスコアのオプションをオンにし、外観を改善して、新機能を有効にすることができます。**[キャンセル]** をクリックすると、ファイルは開きません。**[OK]** をクリックすると、選択したオプションが適用された状態でファイルが開きます。

[スコアのアップデート] ダイアログのオプションについて詳しくは、『Sibelius リファレンス』の  9.7 旧バージョンのファイルを開くをお読みください。

自動変更

スコアが最後に保存された Sibelius のバージョンによって、Sibelius 6 が一部を自動的に変更しますが、これらは選択できないため **[スコアのアップデート]** ダイアログには表示されません。

- スコアが最後に保存されたのが Sibelius 4 の場合は、すべての譜表タイプが変更され、移調が変更され、再生サウンドの変更を実行するテキスト（「To Flute」など）が楽器変更へ変換されます。これは Sibelius 5 で追加された機能で、以前の譜表タイプの変更と移調変更オブジェクトを1つのオブジェクトへ組み合わせたものです。
- スコアが最後に保存されたのが Sibelius 3 の場合は：
 - まだ存在しない場合は、さまざまなテキストスタイルが作成されます（単純テキスト、譜表上の歌詞、歌詞（コーラス）、拍子記号（1つの譜表のみ）、リピート（D.C./D.S./To Coda）、ブロック歌詞、タイムコード、ヒットポイント、スコアの経過時間、運指テキストスタイルなど）。
 - まだ存在しない場合は、スコア内のさまざまなラインスタイルが作成されます（すべての rit./ accel. ラインを含む）。
- スコアが最後に保存されたのが Sibelius 2 の場合は、既存のコーダ記号とセーニョ記号が大譜表シンボルへ変換され、反復が正しく再生されるようになります。これは、各大譜表に複数の行の大譜表オブジェクトが表示される場合にのみ、スコアの外観に影響します（**[ハウススタイル]** ▶ **[大譜表オブジェクトの位置]** で設定）。

既存のスコアの再生

Sibelius 6 では、スコアが Sibelius 5 以前のバージョンのように再生されないことがあります。たとえば、次のようになります。

- Sibelius 5 の Sibelius Sounds Essentials を使っていた場合は、スコアは Sibelius 6 に付属の最新のサウンドライブラリ Sibelius Sounds Essentials を使って再生されます。
- 以前再生に使用された Kontakt Silver は、Sibelius 6 ではもう使用されません。Kontakt Silver より多くの音源が含まれる新しい Sibelius Sounds Essentials ライブラリに置き換えられました。
- サウンドセットのない MIDI デバイスを使用しており、ミキサーで各譜表の MIDI チャンネルとプログラム番号を手動で設定して正しく再生していた場合は、Sibelius 6 で再び設定する必要があります。
- 高度な再生エフェクトを適用するために MIDI メッセージを使用していた場合は、Sibelius 6 で同じエフェクトが生まれないことがありますのでご注意ください。特に、違うデバイスでスコアが再生されるようになった場合（たとえば、旧バージョンで使用した再生デバイスが使用不可になった場合）に、この問題が起きます。
- Sibelius 4 以前のバージョンでピッチのない打楽器譜表タイプを独自に定義した場合は、Sibelius 6 では自動的に正しく再生されません。**[ハウススタイル]** ▶ **[楽器の編集]** ダイアログを使用して譜

表タイプを更新し、正しく再生させる必要があります。『リファレンス』の  2.21 パーカッションと 7.12 楽器の編集。

Sibelius 6 で保存した後でスコアをアップデートする

[スコアのアップデート] ダイアログを使用してスコアを更新せず、後でさまざまな新機能を有効にしたい場合は、[ハウススタイル] ▶ [ハウススタイルのインポート] を使用して、用意されているハウススタイルのいずれかをインポートできます。

その他のファイルの復旧

Sibelius の旧バージョンで、プラグイン、譜面用紙、機能セット、アレンジスタイルなどを書くかカスタマイズしていた場合があります。Sibelius のバージョンごとに、これらのファイルを保存する場所が異なります。Sibelius 6 でそれらを使用したい場合は、古い位置から新しい適切な位置に手動でコピーする必要があります。Sibelius 6 がユーザー作成ファイルを保存する場所を見つけるには、次の手順に従います。

Windows :

- [マイ コンピュータ] をダブルクリックするか、[Windows Explorer] ウィンドウを開きます。
- [ツール] ▶ [フォルダ オプション] を選択し、[表示] タブをクリックします。
- [詳細設定] の下で、[すべてのファイルとフォルダを表示する] が選択されていることを確認します。
- [OK] をクリックして、[フォルダ オプション] ダイアログを閉じます。
- Windows のバージョンに適切なフォルダを開きます。
 - Windows XP : C:\Documents and Settings\ユーザー名\Application Data\
 - Windows Vista または Windows 7 : C:\Users\ユーザー名\AppData\Roaming\
- **Sibelius Software** フォルダがあります。それをダブルクリックして開きます。フォルダが見つからない場合は、[ファイル] ▶ [新規フォルダ] を選択し、新しいフォルダを作成して、フォルダ名として「**Sibelius Software**」と入力します。この新規のフォルダをダブルクリックして開きます。
- [ファイル] ▶ [新規フォルダ] を再び選択し、フォルダ名として「**Sibelius 6**」と入力します。この新しいフォルダをダブルクリックして開きます。

Mac :

- 新しい Finder ウィンドウを開きます。
- / ユーザ / ユーザ名 / ライブラリ / Application Support を開きます
- **Sibelius Software** フォルダがあります。それをダブルクリックして開きます。フォルダが見つからない場合は、 N を入力して新しいフォルダを作成し、フォルダ名として「**Sibelius Software**」と入力します。この新しいフォルダをダブルクリックして開きます。
-  N を再び入力し、フォルダ名として「**Sibelius 6**」と入力します。この新しいフォルダをダブルクリックして開きます。

ここがプラグインや譜面用紙などのカスタマイズされたデータを Sibelius 6 が保存する場所で、タイプごとに専用のフォルダがあります。

これらのファイルのいずれかを修正しており、Sibelius 4 からアップグレードする場合は、同じ場所にすでに **Sibelius 5** または **Sibelius 4** フォルダがあります。古いフォルダにあるフォルダを新しい **Sibelius 6** フォルダにドラッグします。

旧バージョンのファイルを開く

Sibelius 1、Sibelius 2、または Sibelius 3 からアップグレードする場合は、ユーザーが編集したファイルは旧バージョンのプログラム フォルダの中にあります（例：Windows 用の Sibelius 3 であれば **C:\Program Files\Sibelius Software\Sibelius 3**、Mac 用の Sibelius 2 であれば / **アプリケーション / Sibelius 2 Folder**）。カスタマイズしたファイル（維持したいファイル）のみを古い場所から新しい場所へ移動してください。

バージョンにかかわらず、アップグレードの際には以下に注意してください。

- ManuScript の変更により、以前のバージョンで作成するか編集したプラグインは Sibelius 6 とは併用できません。詳しくは、**Extras** フォルダにある ManuScript のマニュアルを参照してください。
- サウンドセットの変更に伴い、Sibelius 5 より前のバージョンで作成したサウンドセットは Sibelius 6 では使えません（Sibelius 5 のサウンドセットは Sibelius 6 で使えます）。
- Sibelius 6 の新機能の多くを利用するには、新しい Sibelius 6 ハウススタイルのいずれかを既存のスコアと譜面用紙にインポートするか、Sibelius 6 で最初から譜面用紙を作成する必要があります。

Sibelius 5 の再生設定を復旧する

Sibelius 5 からアップグレードする場合は、引き続き使用したい 1 つまたは複数の再生設定があるかもしれません。

まず、ユーザー階層内の[Sibelius 5]フォルダの中の[**Playback Configurations**]フォルダにある Sibelius 5 の再生設定を見つめます（上記のその他のファイルの復旧参照。）

Sibelius 6 で使いたい再生設定ごとに、Sibelius 5 の [**Playback Configurations**] フォルダから Sibelius 6 の [**Playback Configurations**] フォルダへ [設定名 .xml] ファイルと [設定名 data] フォルダをコピーします。Sibelius 6 の [**Playback Configurations**] フォルダは、Sibelius 6 を一度起動すると、すでに作成されています。

Sibelius 6 を再起動すると、[再生] ▶ [再生デバイス] の一番上の [設定] メニューにカスタムの再生設定が表示されます。

Sibelius Sounds 製品のアップグレード

Sibelius の旧バージョンで使うために Sibelius のサウンド製品を購入している場合は、その製品を Sibelius 6 で使うためにアップデートできます。

Kontakt Silver と Kontakt Gold

Sibelius 3 または Sibelius 4 に付属の Kontakt Silver サウンドまたは別売の KontaktGold サウンドを使っていた場合は、残念ながら、これらのサウンドを Sibelius 6 用にアップデートすることはできません。Kontakt Silver や Kontakt Gold よりも高品質で多くのサウンドを持つ新しいライブラリ Sibelius Sounds Essentials をお使いください。

(例外として、Kontakt Gold を Sibelius6 で引き続き使える場合があります。それは、以前に持っていた Sibelius 3 または Sibelius 4 用の Kontakt Gold を Sibelius 5 用の Kontakt Player 2 で使えるようにアップグレードしている場合です。ただし Kontakt Player 2 と Sibelius Gold ライブラリがインストールされていないとなりません。)

GPO Sibelius Edition

Sibelius 4 用の GPO Sibelius Edition を購入している場合は、Sibelius 6 で使える GPO の Kontakt Player 2 バージョンへのアップデートをダウンロードできます。GPO Sibelius Edition のシリアル番号 (DVD ケースに印刷されている) を確認し、以下のサイトへ入力してください。

http://www.sibelius.com/products/sibelius_sounds/upgrade.html

ウェブサイトの説明に従って GPO Kontakt Player 2 インストーラをダウンロードし、GPO Sibelius Edition の DVD-ROM からハードディスクの新規フォルダへサウンドをコピーしてください。

Sibelius Sounds Rock and Pop Collection

Sibelius 4 用の Sibelius Sounds Rock and Pop Collection を購入している場合は、Sibelius 6 で使える Kontakt Player 2 バージョンへのアップデートをダウンロードできます。Sibelius Sounds Rock and Pop Collection のシリアル番号 (DVD ケースに印刷されている) を確認し、以下のサイトへ入力してください。

http://www.sibelius.com/products/sibelius_sounds/upgrade.html

ウェブサイトの説明に従って Rock and Pop Collection インストーラをダウンロードし、Rock and Pop Collection の DVD-ROM からハードディスクの新規フォルダへサウンドをコピーしてください。また、以下のサイトから Kontakt Player 2.2.4 をインストールする必要があります。

<http://www.sibelius.com/helpcenter/en/a561>

Sibelius 5 用の Rock and Pop Collection を購入している場合は、既存のバージョンをそのまま Sibelius 6 で使えます。1 つまたは複数の Kontakt Player 2 のインスタンスを使った再生設定を作成し、サウンドセットとして **Sibelius Rock and Pop** を選択してください (詳しくは『Sibelius リファレンス』の [☞ 4.12 再生デバイス参照](#))。

Sibelius Sounds Choral と Sibelius Sounds World Music

Sibelius 5 用の Sibelius Sounds Choral または Sibelius Sounds World Music を購入している場合は、既存のバージョンをそのまま Sibelius 6 で使えます。1 つまたは複数の Kontakt Player 2 のインスタンスを使った再生設定を作成し、サウンドセットとして **Sibelius Choral** または **Sibelius World Music** を選択してください (詳しくは『Sibelius リファレンス』の [☞ 4.12 再生デバイス参照](#))。

新機能

マグネティックレイアウト

これまでの Sibelius にも、音符に貼り付き、他のオブジェクトとの衝突を避ける「マグネティック」なスラー、臨時記号、連音符などがありました。新しい「マグネティックレイアウト」は、この機能をスコアのすべてのオブジェクトへ拡張し、何もしなくても美しい楽譜を作成してくれます。

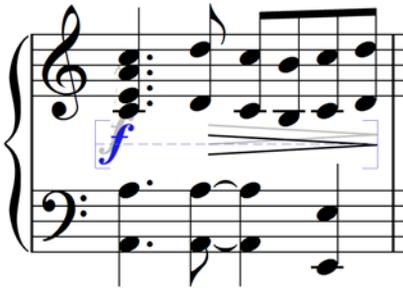
詳しくは、『Sibelius リファレンス』の「 8.2 マグネティックレイアウト」を参照してください。

マグネティックレイアウトでできること

一般的な楽譜作成では、大まかにいって、オブジェクトの種類に応じて譜表に接近する順序の優先順位というものが存在しています。たとえば、音符は常に譜表の上または譜表に最も近いところに置かれます。音符と共に配置されなければならないもの（臨時記号、アーティキュレーション、タイ、付点、スラーなど）や、音符に関連するもの（調号、拍子記号など）なども一緒に置かれます。次に、他の種類のオブジェクトが譜表から外向きに並べられます。歌詞、強弱記号、演奏テクニックなどの重要な指示が譜表の一番近くに置かれ、状況に応じて譜表の上か下に配置されます。これらのオブジェクトの上にくるのがコード記号です。大譜表の幅に合わせられ、読みやすいように音符に合わせて配置されます。コード記号の上には、テンポ記号、1 番括弧と 2 番括弧、他のリピート指示、リハーサルマークなどの大譜表の記号が置かれます。また、譜表の下には、大譜表の幅に合わせて数字付き低音とローマ数字などのテキストが置かれます。最後に、鍵盤楽器用のペダルラインがその下に置かれます。

マグネティックレイアウトは、スコア内のオブジェクトを優先順位に従って順序を強制することにより機能します。大譜表内の譜表に付けられたすべてのオブジェクトを検証し、ルールに従って空いている位置にオブジェクトを再配置し、すべての衝突を解消します。また、大譜表全体あるいは大譜表に沿ってまとめて合わせるべき複数のオブジェクトをグループ化します。これらすべての動作は、リアルタイムで行われます。楽譜を入力したりスコアを編集したりすると、オブジェクトが即座に移動し衝突が回避され、常に見やすく読みやすい状態に保たれます。

マグネティックレイアウトにより移動されたオブジェクトについては、そのオブジェクトを選択すると、元の位置（マグネティックレイアウトがオフの場合にあるべき位置）がグレーで表示されます。



オブジェクトをドラッグすると、マウスポインタ位置に正確に従うのではなく、衝突の生じない位置にスナップされます。オブジェクトの位置がマウスポインタの位置に正確に従うようにするには、**Ctrl** または **⌘** を押したままアイテムをドラッグします。こうすることで、マグネティックレイアウトを一時的にオフに切り換えることができます。

マグネティックレイアウトでできないこと

マグネティックレイアウトでは、音符の間隔（これにより水平方向の使用可能なスペースが決まります）、譜表の間隔（これにより垂直方向の譜表間の空きが決まります）は変更されません。つまり、使用可能な空きスペースを使って、オブジェクト同士の衝突を解消することしかできません。この機能を使って、空きスペースを増やすことはできません。

そのため、ときには衝突を十分に解消できない状況が生じることもあります。そのような場合、1つまたは複数のオブジェクトが適切でない位置に表示されることがあり、そのようなオブジェクトは赤色で表示されます（下の**衝突の検索**を参照）。ほとんどの場合、このような状況に陥ったら、対象となる譜表および譜表の上または下を選択してから**〔レイアウト〕**▶**〔譜表の間隔の最適化〕**を選択するだけで譜表の間隔が調整され、衝突が解消されます（『Sibelius リファレンス』の 8.10 譜表間隔参照）。

まれに、音符の間隔を広げて水平方向のスペースを増やすのが衝突を解消する最善の方法である場合もあります。対象となる小節を選択し、**Shift + Alt + →**または **⇧⇨**を押します（**Ctrl**または **⌘**を同時に押すと大きなステップで移動できます）（『Sibelius リファレンス』の 8.10 譜表間隔参照）。

衝突の検索

衝突が自動解消されなかった場合、衝突しているオブジェクトが赤色で表示されます。衝突するオブジェクトを検索するには、**〔編集〕**▶**〔衝突〕**▶**〔次を探す〕**または**〔前を探す〕**を選択します。次または前の衝突しているオブジェクトが選択され、表示されますので、この衝突の解消方法を定めることができます（上のマグネティックレイアウトでできないことを参照）。

衝突しているオブジェクトは、**〔表示〕**▶**〔マグネティックレイアウトの衝突〕**がオンの場合にのみ、赤色で表示されます。

類似オブジェクトのグループ化

Sibelius では、大譜表の幅に合わせて、あるいは、大譜表の複数の譜表にわたり垂直方向に合わせて、オブジェクトがグループ化されます。

グループに属しているオブジェクトを選択すると、青色の点線がオブジェクトの背後に表示され、グループの範囲が表示されます。

The image shows two staves of music. The top staff has lyrics: "my cry ing cry ing come un to thee". The bottom staff has lyrics: "to thee, let my cry ing come un to thee." Dynamic markings 'f' and 'p' are placed above the notes. Blue dashed lines connect the 'f' markings across both staves, and another set of blue dashed lines connects the 'p' markings across both staves, demonstrating how similar objects are grouped together.

たとえば、ボーカルの譜表にある音符の音高を変更するとその下の歌詞に衝突するような場合、譜表と歌詞の間に適度な間隔が生まれるよう、この譜表に付けられているすべての歌詞が移動されます。歌詞は大譜表の幅に合わせて配置されるため、すべての歌詞が大譜表全体を通して移動されます。

同様に、音符のパスセージにスラーを加えると譜表の下の強弱記号と衝突するような場合、スラーとの衝突を避け、強弱記号が移動されます。いくつかの強弱記号（発想記号テキストとヘアピンの両方を含む）が隣接している場合、グループとして正確に配置されるよう、強弱記号が一緒に移動されます。しかし、すべての強弱記号が大譜表全体の幅で自動的にグループ化されることはありません。この機能では、近隣の強弱記号だけがグループ化されます。たとえば、強弱記号が（例外的に低い音符があるために）大譜表の先頭の譜表から特に遠く離れて置かれている場合、これ以降の大譜表に付けられる強弱記号がすべて譜表から遠く離れて置かれるわけではありません。使用可能なスペースを有効に使用するため、より譜表に近い音符の上に置かれます。

さらに、隣り合う譜表同士で同じリズム位置にある強弱記号もグループ化されます。衝突を避けるために強弱記号の1つが左右に動かされると、隣り合う譜表同士で同じリズム位置にあるすべての強弱記

号と一緒に移動されます。スコアを読んでいる際に、同じ位置に強弱記号の変更がある楽器を一目で見つけることができ便利です。

次の種類のオブジェクトは、大譜表の幅に合わせてグループ化されます。

- 小節番号
- 歌詞
- 強弱記号（発想記号テキストとヘアピン）
- コード記号
- 1 番括弧と 2 番括弧
- リハーサルマーク
- テンポ記号（テンポテキスト、メトロノーム記号テキスト、メトリックモジュレーションテキスト、リタルダンド/アッチェレランドライン）
- 数字付き低音
- ローマ数字
- 機能シンボル
- ペダルライン

次の種類のオブジェクトも、同じリズム位置に検出された場合、垂直方向にグループ化されます。

- 隣り合う譜表の強弱記号
- リハーサルマーク
- テンポ記号

オブジェクトをグループから削除するには、2つの方法があります。

- 水平方向に垂直方向にもグループ化される他のオブジェクトが見あたらないスペースへオブジェクトを移動します（オブジェクトがグループを離れると、青色の点線が消えます）。
- 特定のオブジェクトに対して、衝突の回避を無効にします。グループ内の他のオブジェクトには影響しません（下の**衝突の回避を無視する**を参照）。

まれに、特定の種類のオブジェクトがグループ化されないよう設定したい場合があります。この場合、**[レイアウト] ▶ [マグネティックレイアウトのオプション]** を使ってこれを変更できます（詳しくは『Sibelius リファレンス』を参照）。

衝突の回避を無視する

オブジェクトのマグネティックレイアウト位置を無効にしたい場合があります。マグネティックレイアウトにより移動されたオブジェクトは、選択してからマウスを使ってドラッグしたり、矢印キーを使ったり（**Ctrl** または **⌘** で大きなステップで移動）して動かすことができますが、ドラッグまたはナッジする位置へオブジェクトが配置されないことがあります。これは、マグネティックレイアウトにより、衝突しない位置へとオブジェクトが移動されるためです。

このような場合、特定のオブジェクトに対してマグネティックレイアウトを無効にすると便利です。これは、オブジェクトを選択してから、**[編集] ▶ [マグネティックレイアウト] ▶ [オフ]** を選択して行います。このメニュー項目は、コンテキストメニューからも選択できます。コンテキストメニューは、選択されているオブジェクトを右クリック（Windows）または **Control** + クリック（Mac）すると表示されます。

マグネティックレイアウト

マグネティックレイアウトがオンであるかオフであるかは、オブジェクトが選択されている状態で [プロパティ] の [一般] パネルを見れば分かります。[マグネティックレイアウト] メニューには、[標準設定] (マグネティックレイアウトを特にオフに設定していないオブジェクト。標準設定でマグネティックレイアウトがオフになっているオブジェクトはごくわずかであるため、このような場合、たいていはマグネティックレイアウトがオンであることを意味します)、[オフ] (マグネティックレイアウトをオフに設定しているオブジェクト)、[オン] (マグネティックレイアウトをオンに設定しているオブジェクト) と表示されます。

あるオブジェクトに対してマグネティックレイアウトをオフに設定すると、それ以降、そのオブジェクトはマグネティックレイアウトの処理対象とならず、他のオブジェクトと衝突する可能性があります。

マグネティックレイアウトを再びオンにするには、オブジェクトを再び選択し、[編集] ▶ [マグネティックレイアウト] ▶ [標準設定] を選択します。([オン] を選択するのではなく、この方法を選択してください。[レイアウト] ▶ [マグネティックレイアウトのオプション] でその種類のオブジェクトの標準設定に加えた変更は、自動的に適用されます。)

マグネティックレイアウトの位置を固定

マグネティックレイアウトをオンに切り換えると、スコアを編集するたびに、スコア内の各オブジェクトの位置が変更されます。マグネティックレイアウトにより選択されたオブジェクトの位置が、オブジェクトの実際の位置になるよう、オブジェクトの位置を固定することができます。

より大きなスコアの場合、この操作を行うと、すべてのオブジェクトのマグネティックレイアウト位置を再計算する必要がなくなるため、編集スピードが向上します。

位置を凍結するには、オブジェクト、パッセージ、スコア全体のいずれかを選択し、[レイアウト] ▶ [マグネティックレイアウトの位置を固定] を選択します。選択範囲内のオブジェクトの位置が、現在のマグネティックレイアウトの位置に固定されます。その後、オブジェクトがこれ以降移動しないよう、これらのオブジェクトのマグネティックレイアウトがオフになります。

これ以降、マグネティックレイアウトを再びオンにしたい場合、同じ範囲を選択し、[編集] ▶ [マグネティックレイアウト] ▶ [標準設定] を選択します。[レイアウト] ▶ [位置をリセット] を選択して、Sibelius がオブジェクトの位置を無制限に移動することができるよう設定することもできます。

マグネティックレイアウトをまとめて無効にする

マグネティックレイアウトをまとめて無効にするには、[レイアウト] ▶ [マグネティックレイアウト] をオフにします。すべてのオブジェクトが元の位置へと戻され、スコア全体にオブジェクトの衝突が生じます。そのため、マグネティックレイアウトをオフにする前には、スコア内のアイテムの位置を凍結させておくことをおすすめします。

再生

Sibelius 6 には、より多くの、より良いサウンドが付属しています。これらのサウンドは、まったく新しいサンプルプレーヤーで再生され、しません。また、ReWire を使った他のオーディオソフトウェアとの接続も可能になりました。

Sibelius Sounds Essentials の改良

Sibelius Sounds Essentials は Sibelius に付属しているサウンドライブラリで、Sibelius 6 用にアップデートしたバージョンには、より多くのサウンドを持つ Garritan Personal Orchestra、Garritan Jazz and Big Band、Garritan Concert and Marching Band、Sibelius Sounds Choral、TapSpace Virtual Drumline が含まれています。Sibelius Sounds Essentials は、どんなジャンルの音楽にも柔軟に対応できる最良のサウンドコレクションになるでしょう。



Sibelius Sounds Essentials は、内蔵の Sibelius Player で再生されます。Sibelius Player はシームレスに統合され、何の設定も必要としません。スコアを開くと同時に、Sibelius は必要なサウンドをバックグラウンドで自動的にロードします。スコアの楽器の数によって、これには数秒から 30 秒程度かかりますが、楽譜の入力や編集は通常とおり行えます。すべてのサウンドがロードされる前に再生を開始しようとすると、残りのサウンドがロードされる間進捗バーが表示され、その後再生が開始されます。

Sibelius は、Sibelius Sounds Essentials を使って再生するよう設定されていますが、他の入力デバイスへ切り替えたときは、以下のとおり元に戻せます。

- [再生] ▶ [再生デバイス] を選択します。
- ダイアログの一番上の [設定] メニューから、[Sibelius Sounds] を選択します。
- ダイアログの [アクティブなデバイス] ページの右側にある [アクティブなデバイス] リストに [Sibelius Player] が表示されます。[サウンドセット] は [Essentials] に設定されます。
- [閉じる] をクリックします。

Sibelius 6 に付属しているサウンドの完全なリストは『Sibelius リファレンス』の 4.4 Sibelius Sounds Essentials にあります。

ミキサー

ミキサーには、いくつかの新しいコントロールがあります。たとえば、譜表ストリップでは：



- 各譜表ストリップにはリバーブとコーラス用のロータリー コントロールが追加され、これらのエフェクトのレベルをスコアの譜表ごとに簡単に調整できるようになりました。
- 譜表が内蔵の Sibelius Player を使って再生している場合は、サウンドによって最大 6 つのフェーダーが追加されます。これらのフェーダーを使うと、サウンドの抑揚、音色、歪み（ギターなど）、ト

レモロの速度（ピブラホーンやエレクトリック キーボードなど）などを調整できます。これらの追加フェーダーの1つをリセットするには、そのフェーダーをダブルクリックします。

同様にバーチャルインストゥルメントストリップにも Sibelius Player 専用の新しいコントロールがいくつかあります。



リバーブとコーラス (Sibelius Player のみ)

Sibelius Player はリバーブとコーラスを内蔵しており、これらのエフェクトのリターンレベルは、Sibelius Player の独自のバーチャルインストゥルメントストリップに表示される **Reverb** と **Chorus** のフェーダーを使って調整できます。Sibelius Player のリバーブの全体のレベルは [再生] ▶ [パフォーマンス] のオプションを使って操作でき、コンボリユーションリバーブ（音質が良い）と標準のステレオリバーブ（CPU への負荷が少ない）の選択は [ファイル] ▶ [環境設定]（Mac では Sibelius メニュー）の [再生] ページで行えます。

さらに、すべてのフェーダーのレベル（譜表のボリュームとパン、Sibelius Player のサウンドごとのパラメータ、バーチャルインストゥルメントのボリュームレベル、マスターボリュームレベル）がスコアと共に保存されますので、次にスコアを開いたときも同じサウンドが再生されます。

詳しくは、『Sibelius リファレンス』の「4.3 ミキサー」と「4.5 パフォーマンス」を参照してください。

再生デバイス

Sibelius は、いくつかの再生構成を自動的に作成しますが、これらは [再生] ▶ [再生デバイス] では変更できません。標準設定の再生構成のいずれかを変更したい場合は、[新規] をクリックして既存の標準設定の1つをもとに新しい構成を作成してください。標準設定は以下の通りです。

- **Sibelius Sounds:** Sibelius 6 を初めて起動したときに標準設定で選択される再生構成です。この構成は、内蔵の Sibelius Player と Sibelius Sounds Essentials サウンドライブラリを使って、最大 128 チャンネルの高品質サンプルサウンドを再生します。この構成は、Sibelius Sounds Essentials が正しくインストールされた場合のみ作成されます。
- **General MIDI (enhanced):** [Sibelius Sounds] 構成が使用できない場合に標準設定で選択される再生構成です。この構成は、General MIDI 対応のバーチャルインストゥルメントを使って、最大 32 チャンネルの General MIDI サウンドを再生します。
- **General MIDI (basic):** この再生構成はコンピュータの内蔵サウンドを使用しますが、何らかの理由で [Sibelius Sounds] と [General MIDI (enhanced)] のいずれも使用できない場合のみ選択してください。Windows では、この構成は内蔵の Microsoft GS Wavetable Synth を使って、最大 16 チャンネルの低品質 General MIDI サウンドを再生します。Mac では、この構成は内蔵の DLS Music Device を使って、最大 31 チャンネルの General MIDI サウンドを再生します。
- Sibelius 5 からアップグレードする場合で、Sibelius 5 に付属の Sibelius Sounds Essentials の Kontakt Player 2 バージョンがコンピュータにインストールされている場合は、Sibelius 6 は **[Sibelius Essentials (16 sounds, Kontakt)]** と **[Sibelius Essentials (32 sounds, Kontakt)]** の2つの再生構成を作成し、旧バージョンとの下位互換性を保ちます。ただし、Sibelius Sounds Essentials を使って Sibelius 5 で保存したスコアを開くときは、Sibelius 6 は Kontakt Player 2 ベースの構成ではなく、新しい標準設定の [Sibelius Sounds] 再生構成を使用することに留意してください。Sibelius 6 に Kontakt Player 2 は付属していません。

詳しくは、『Sibelius リファレンス』の「4.12 再生デバイス」を参照してください。

ReWire

ReWire は、バーチャル オーディオ ケーブルとも呼ばれ、Sibelius から Pro Tools などのデジタルオーディオワークステーション (DAW) へオーディオを送ることができます。また、Sibelius の再生と DAW の再生を同期させることもできます。



これは、Sibelius を他のオーディオ ソフトウェアと共に使う様々な可能性を開きます。たとえば、Sibelius から DAW へオーディオをルーティングし、そこでオーディオを録音すると、スコアの再生にソロのアコースティック楽器を加えることができます。逆に、DAW で始めたプロジェクトに Sibelius でデータを加えてゆくこともでき、それぞれのアプリケーションのプロジェクトは互いに同期します。

Sibelius と他のアプリケーションを ReWire で接続するには、まずシーケンサーまたは DAW を起動し、ステレオのオーディオ チャンネルまたは AUX チャンネルを作成して、Sibelius をマルチチャンネルの ReWire インストゥルメントとしてロードします。シーケンサーまたは DAW は自動的に Sibelius を起動します。このとき Sibelius は特別な ReWire モードで起動して、すべてのオーディオをサウンドカードではなくシーケンサーまたは DAW へ送ります。

Sibelius が ReWire モードで起動しているときは、[再生] ウィンドウの一番下の青いパネルに ReWire のロゴ (右図) が表示されます。([再生]▶[再生デバイス]を表示し、[オーディオエンジンのオプション]をクリックすると、オーディオ インターフェースのコントロールが使用できなくなっているのが確認できます。これは Sibelius が単にオーディオをシーケンサーまたは DAW へ送っているからです。)



これで Sibelius または DAW の再生を開始すると、両方のアプリケーションが再生します。ReWire の接続を切るには、DAW を終了し、次に Sibelius を終了します。または DAW のプロジェクト ウィンドウから ReWire のトラックを削除し、次に Sibelius を終了します。

詳しくは、『Sibelius リファレンス』の「 4.16 ReWire」を参照してください。

その他の再生の改良

- 再生ラインは、次の拍または次の音符の近い方へ移動するようになりました。
- 延音記号 (フェルマータ) の再生が大きく改善されました。トリルやトレモロなどの反復音が延音の間も正しい速度で再生されるようになりました。延音の後の最初の音符の前の装飾音符が正しいテンポで再生されるようになりました。
- Sibelius は、完全なテンポ情報を必要とするバーチャル インストゥルメント (Virtual Guitarist など) へその情報を提供します。
- バーチャル インストゥルメントに対して自動レイテンシ補正 (ALC) を妨げていた問題を解決しました。
- 譜表 (ピッチあり) 上でサウンド ID 変更をトリガーする符頭が、正しいリズム位置でトリガーされるようになりました。
- 音符のベロシティがミキサーのボリューム スライダーで変更されることがなくなりました。ミキサーのボリューム スライダーは、譜表のボリューム (MIDI チャンネルのボリューム) にのみ作用します。

ライブテンポ

ライブテンポ (Live Tempo™) を使うと、スコアの再生を「指揮」して、ニュアンスのある音楽的な演奏が行えます。コンピュータのキーボードのキー、MIDI キーボード、またはフットペダルをタップするだけで、Sibelius はそのタップに従って再生を行います。演出の細部をレコーディングし、後で再生したり、その演奏をオーディオや MIDI のファイルにできるのです。

そして本物の指揮者のように、任意の場所で拍子のパターンを変更すれば、Sibelius はそれに従います。rit. を行うために拍を分割したり、最初のパッセージでは 1 小節に 1 回だけタップすることもできます。タップを止めれば、Sibelius はそのまま再生を続けます。フェルマータ（延音記号）では、オーケストラの様に Sibelius は次の合図を待ちます。

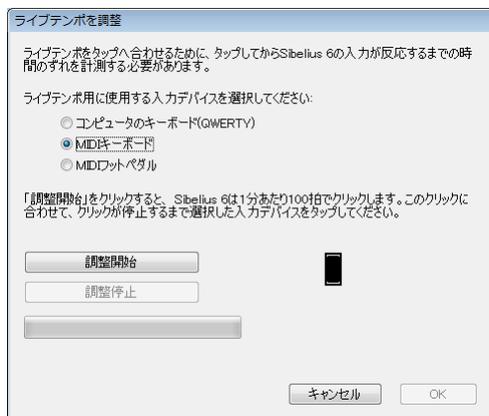
詳しくは、『Sibelius リファレンス』の「 4.7 ライブテンポ」を参照してください。

ライブテンポのレコーディングの準備

タップをレコーディングするには、入力デバイスを選択する必要があります。コンピュータのキーボード、MIDI キーボード、MIDI フットペダルはいつでも切り替えられますが、少なくとも 1 回のライブテンポのレコーディングでは 1 つの入力デバイスを選択して変更しない方がよいでしょう。

レコーディングを行う前に、Sibelius がコンピュータの再生システムのレイテンシとあなた自身の反応速度（別の種類のレイテンシです）を測定できるように、入力デバイスをキャリブレート（校正）します。

ライブテンポをレコーディングするスコアを開き、**[再生]** ▶ **[ライブテンポを調整]** を選択します。以下のダイアログが開きます。

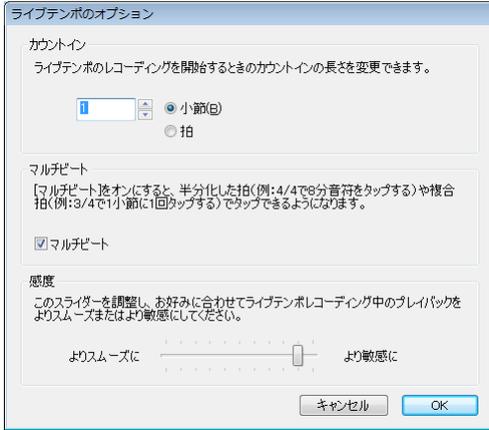


ダイアログの一番上のラジオ ボタンからキャリブレートする入力デバイスを選択し、**[調整開始]** をクリックします。クリックが聴こえます。クリックに合わせてコンピュータのキーボードのキー、MIDI キーボードの鍵盤、または MIDI フットペダルをタップします。

入力デバイスを一度キャリブレートすると、同じ入力デバイスと同じ再生の設定（同じ再生デバイス）を使用する限り、再度キャリブレーションを行う必要はありません。ただし、別の入力デバイスや別の再生の設定を使ってライブテンポをレコーディングする場合は、ライブテンポをレコーディングする前に、**[再生]** ▶ **[ライブテンポを調整]** を実行してください。

ライブテンポのオプション

レコーディングを開始する前に、**[再生]** ▶ **[ライブテンポのオプション]** を選択して、Sibelius がタップを正しく解釈できるように設定を変更してください。



- **[カウントイン]**では、Sibeliusにテンポを確立させるための再生開始前のタップ数を指定します。標準設定では、Sibeliusは1小節分のビートを待ち受けていますが（3/4の場合は3回タップすると4つ目のタップからSibeliusが再生を開始する）、これは変更できます。スコアがアウフタクト（弱起）小節で始まる場合は、カウントインはそのアウフタクトを含みます（スコアが4/4で、4分音符のアウフタクトで始まる場合は、Sibeliusはカウントインが1小節であると想定して4つ目のタップで再生を開始します）。
- **[マルチビート]**オプションは、タップを半分化した拍（例：4/4で8分音符をタップする）または複合拍（例：3/4で1小節に1回タップする）としてSibeliusが解釈するかどうかを決めます。標準設定では、オンになっています。
- **[感度]**は最も重要な設定で、また最も個人の好みに依存する設定です。スライダーを左へ動かすと、Sibeliusは個々のタップに厳密に従うのではなく、タップをスムーズにしてテンポをより安定させます。スライダーを右へ動かすと、Sibeliusは個々のタップに厳密に従ってテンポの調整をより迅速に行います。

設定を終えたら **[OK]** をクリックします。これでタップをレコーディングする準備は整いました。

スコアの楽器の数や全体的なテンポの範囲などの要因によって、**[ライブテンポのオプション]** の設定を何度か変更する必要があるかもしれません。この設定はスコアに保存されます。

ライブテンポをレコーディングする

ライブテンポをレコーディングする前に、**[表示]** ▶ **[パノラマ]** をオンにした方がよいでしょう。ライブテンポは **[パノラマ]** でのみ表示されるからです（下記の**ライブテンポの表示**参照）。

入力デバイスをキャリブレートし、そのスコアに対するライブテンポのオプションを設定したら、ライブテンポのレコーディングを開始する位置へ再生ラインをセットし（例：**Ctrl** + **[または ⌘]** をタイプしてスコアの始めへ再生ラインを移動する）、**[再生]** ウィンドウの **[ライブテンポをレコーディング]** ボタン（右上参照）をクリックするか、または **[再生]** ▶ **[ライブテンポをレコーディング]** を選択します。

まだ入力デバイスをキャリブレートしていない場合は、予期しない結果になるかもしれないというメッセージが表示され、今すぐ入力デバイスをキャリブレートするかどうか尋ねられます。この場合は **[はい]** をクリックしてください。直ちに **[ライブテンポを調整]** ダイアログ（上記参照）が開きます。

ライブテンポ

それ以外の場合は、再生ラインが赤に変わり、Sibelius は最初のタップを待ちます。[再生] ▶ [ライブテンポのオプション] で設定したタップ数または小節数の後、Sibelius は再生を開始し、タップしたテンポに従います。

ライブテンポのレコーディング中は、Sibelius の再生が多少不自然になる場合があります（特に [ライブテンポのオプション] の [感度] スライダーを右へ動かした場合）。これは、タップに合わせてスコアを再生するために、Sibelius が拍の長さを予想しなければならないからです。レコーディングしたライブテンポを再生するときは、テンポの変更はよりスムーズになります。

タップは止めて、そのまま再生を続けたい場合は（思い通りのテンポになった場合など）、単にタップを止めてください。Sibelius は、そのときの速度で再生を続けます。もう一度タップする場合は、単にタップを開始してください。Sibelius は再びタップに従います。

ライブテンポのレコーディングは、スコアの最後まで続きます。スコアに複数の歌曲、楽章、小曲が含まれている場合は、次の終止線または Fine 記号まで続きます。

ライブテンポのレコーディングをスコアの途中で止めたい場合は、**Esc** キーを押すか、[再生] ウィンドウの停止ボタンをクリックしてください。

ライブテンポの表示

[表示] ▶ [パノラマ] をオンにすると、ライブテンポでレコーディングしたテンポを図形で表したものが見られます。ライブテンポをレコーディングし、[表示] ▶ [ライブテンポ] をオンにすると、スコアの一番上の譜表の上にグラフが表示されます。



グラフの垂直の線はスコアの小節線です。グラフの中央の水平の線は、スコアのその位置の既定のテンポを表しています。ライブテンポのレコーディングによる相対的なテンポの変化は、この水平の線の上または下に表示されます。（上図のグラフは、テンポがだんだん速くなり、その後再び遅くなることを表しています。）

スコアでパッセージを選択すると、その選択範囲がグラフに反映され、選択した小節に対応する部分がブロックされます。[再生] ▶ [ライブテンポをクリア] を実行したときにライブテンポのデータがクリアされるのは、この部分です。

タップポイントの追加と削除

タップする位置を予め決めておくと、混合拍子などの複雑な指揮テクニック（指揮者が 1 つの大きな動作の中に 2 つ以上の拍子を示す動作を組み合わせる）を用いることができます。

タップポイントを追加するには、タップするリズムを持つ譜表を見つけ、1 つのパッセージの周りを選択して（タップするリズムを持つ譜表が選択範囲の一番上になるようにして）、[再生] ▶ [ライブ

ライブテンポ

さい。Sibelius は、楽譜のリズムにタップポイントを合わせられるよう破線を表示し、これをクリックすると最も近いリズムの位置へタップポイントがスナップします ([環境設定] の [マウス] ページの設定に従って)。

楽譜の 1 つのパッセージのリズムをもとにタップポイントを作成し、その後その小節のリズムを変更した場合は、タップポイントは自動的に更新されません。これらのタップポイントは、[再生] ▶ [ライブテンポのタップポイント] で変更または再び作成する必要があります。

ライブテンポの表示をダブルクリックしてタップテンポを追加または削除することもできます。

タップポイントを使ったライブテンポのレコーディング

タップポイントをいくつか作成したら、[再生] ▶ [ライブテンポをレコーディング] を選択してタップをレコーディングします。タップポイントを含む小節では、Sibelius は各タップポイントでタップを待ち、自動では進みません。

特定のタップポイントを持つパッセージと、Sibelius にタップの解釈を任せるパッセージは混在させることができます。タップポイントを持つパッセージが終わった後にタップを続ければ、Sibelius は通常通りタップの解釈を開始します。

ライブテンポを再生する

ライブテンポを再生するときは、再生を開始する前に、[再生] ウィンドウの青い [ライブテンポを再生] ボタン (右図参照) または [再生] ▶ [ライブテンポ] をオンにしてください。 

[再生] ▶ [ライブテンポ] をオンにしておくと、MIDI ファイルやオーディオ ファイルをエクスポートするとき、SibeliusMusic.com でスコアを公開するとき、または Scorch ウェブページをエクスポートするときにライブテンポが維持されます。

ライブテンポをクリアする

すべてのライブテンポをクリアするときは、何も選択されていない状態で [再生] ▶ [ライブテンポをクリア] を選択し、スコア全体からライブテンポのデータを削除してもよいか尋ねられたら [はい] と答えます。

1 つのパッセージでライブテンポをレコーディングして作成したテンポの変更をクリアしたいときは、それらの小節を選択して [再生] ▶ [ライブテンポをクリア] を選択します。これで選択したパッセージからライブテンポのデータが削除されます。[パノラマ] を選択し、[表示] ▶ [ライブテンポ] がオンになっている場合は、それらの小節に対するグラフがクリアされるのを見ることができます。

1 つのパッセージからライブテンポをクリアしたスコアを再生すると、ライブテンポのレコーディング中にそのパッセージだけタップしなかったのと同じ結果になります。Sibelius はライブテンポのデータがある最後の位置からその速度で再生を続け、次のライブテンポのデータまたはテンポ記号に従います。

マルチビート

[ライブテンポのオプション] の [マルチビート] をオンにすると、タップを細かく分けたり、小節の拍数よりも少なくタップすることが可能になります。

延音記号 (フェルマータ)

延音記号 (フェルマータ) は、フレーズの途中、強調または休止するポイント、またはフレーズの終わりに付けられます。フレーズの終わりの延音記号の後には短い間隔を空ける場合があります。次のフレーズの前の弱起などです。

標準設定では、Sibelius は延音記号が付いた音符の長さを延長して再生し、そのあと元のテンポで再生を続けます（延音記号の後に新しいテンポ記号がない限り）。ライブテンポのレコーディング中に延音記号に遭遇したときは、Sibelius は次のタップまで音符の長さを延長します。

ただし、スコア全体の延音記号の作用は **[再生]** ▶ **[辞書]** ダイアログで、個々の延音記号の作用は **[プロパティ]** の **[再生]** パネルで変更できます。いずれかの方法で延音記号の後に間隔を空けるよう設定すると、Sibelius はライブテンポのレコーディングのときもこれに従います。1 回目のタップで延音し、2 回目のタップで間隔を空け、3 回目のタップで次の拍へ進みます。

テンポ記号を追加する

[再生] ▶ **[ライブテンポ]** がオンになっている場合は、ライブテンポをレコーディングしたパッセージへ新しいテンポテキスト記号やメトロノーム記号を追加しても、そこでスコアの再生速度は変わりません。ライブテンポがスコアのテンポ記号に優先するからです。ただし、ライブテンポのグラフは更新され、ライブテンポと新しく書かれたテンポの関係が確認できます。

新しいテンポ記号を有効にするには、ライブテンポのデータをクリアしなければなりません（上記の **ライブテンポをクリアする** 参照）。

ライブテンポと ReWire

ライブテンポと ReWire を同時に使うことはできません。Sibelius が ReWire モードで起動しているときは、ライブテンポは使用不可になります。

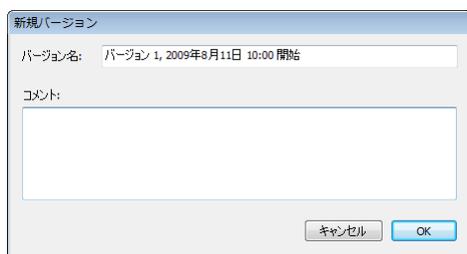
バージョン

新しい「バージョン」機能は、スコアへ加えられた修正を記憶し、そのスコアの前のバージョンを見たり、その後の変更を確認したりすることを可能にします。この機能は、あらゆる人にとって非常に貴重です。学生の場合は、コースワークの進捗を記録し、完成した作品と共に提出する注釈（Microsoft Word やその他のワードプロセッサで編集できる）を簡単に作成できます。教師の場合は、先週から学生がどれだけの作業を行ったかを調べられます。作曲家や編曲家の場合は、前のバージョンを見たり、オーケストラの編曲家、出版者、その他の協力者による変更を確認したりすることができます。

詳しくは、『Sibelius リファレンス』の「 5.22 バージョン」を参照してください。

新しいバージョンの自動保存

標準設定では、編集作業を行っていたスコアを閉じるときに、新規バージョンを作成するよう促すメッセージが表示されます。標準設定では、次のダイアログが表示されます。



バージョン名は任意の名前に変更することができます。Sibelius によって自動的に付けられる名前には、バージョン番号と、このバージョンでの作業が始まった日付と時刻が記載されています。**コメント**を追加することもできます。コメントの長さは自由です。

[OK] をクリックしてバージョンを保存し、スコアを閉じます。[キャンセル] をクリックしても、新しいバージョンを作成しないでスコアを保存するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。

スコアを閉じる際に新しいバージョンを作成するかどうかを尋ねるメッセージを表示させたくない場合、[ファイル] ▶ [環境設定] (Mac では [Sibelius] メニュー) の [バージョン] ページで、新しいバージョンの [作成] をオフにします。

新しいバージョンの手動保存

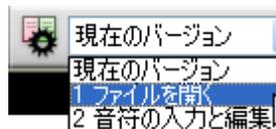
新しいバージョンは、いつでも保存できます。[ファイル] ▶ [バージョンを保存] を選択するか、右のツールバーのボタンをクリックします。このボタンは、スコアを保存し、ファイル名を設定しなければ使用できません。新しいバージョンを保存する際、コメント（標準設定）と名前を付けるよう促すメッセージが表示されます（上を参照）。コメントを付けたくない場合、[ファイル] ▶ [環境設定] (Mac では [Sibelius] メニュー) を選択して [バージョン] ページを開きます。



教室で Sibelius を使って教えている場合、[教室のコントロール] ダイアログを使って、教室内の 1 人または複数の生徒に対して新しいバージョンを保存するよう促すメッセージを表示させることができます（クラスルームコントロール）。

バージョンの表示

スコア内に保存したバージョンは、右のツールバーのドロップダウンを使って表示することができます。（これらのコントロールがツールバーに表示されない場合、ご使用のコンピュータ画面の解像度が低すぎます。）



スコアの現在のバージョンは **[現在のバージョン]** と表示され、メニューの一番上にリストされます。一番古いバージョンが一番下にリストされ、最新のバージョンは **[現在のバージョン]** のすぐ下にリストされます。

リストから別のバージョンを選択するか、**[ファイル]** ▶ **[バージョン]** サブメニューから別のバージョンを選択すると、新しいウィンドウが開き、スコア背景にしわの入った用紙が使用され、古いバージョンであることがひと目でわかります。

バージョンで行えること

編集できるのは、スコアの現在のバージョンに限られます。古いバージョンに変更を加えることはできません。しかし、バージョンを表示すると、再生したり、印刷したり、楽譜とオブジェクトをクリップボードへコピーし現在のバージョンや別のスコアへペーストしたりと便利に活用できます。

古いバージョンからコピーするには、スコア内で選択してから **[編集]** ▶ **[コピー]** (ショートカットは **Ctrl + C** または **⌘C**) を選択してクリップボードにコピーします。その後、素材のペースト先となる現在のバージョンまたは別のスコアへ切り替えてから、**[編集]** ▶ **[ペースト]** (ショートカットは **Ctrl + V** または **⌘V**) を選択します。**Alt** + クリック (またはコード + クリック) を使って古いバージョンからコピーすることはできません。

あるバージョンと別のバージョンを比較することもできます (下のバージョンの比較を参照してください)。

バージョンの編集

[ファイル] ▶ **[バージョン]** ▶ **[バージョンを編集]** ダイアログを使って、スコアのバージョンに対して数々の重要なファイル管理タスクを実行することができます。ダイアログは、右のツールバーボタンを使っても開くことができます。



ダイアログ左の表には、スコアのバージョンの一覧が表示されます。バージョンの **[名前]**、バージョンが **[開始]** された日付、バージョンが **[完了]** した日付のいずれかで並び替えることができます。右には、選択されているバージョンのプレビューが表示されます。プレビューの下のボタンを使って、選択されているバージョンのページをめくることができます。

表の下には、選択されているバージョンのコメントが、「メモ」コメントやバージョンが作成された際に付けられたコメントも含めてすべて一覧で表示されます。ここでは、それぞれのボタンを使って、コメントを **[追加]**、**[編集]**、**[削除]** することができます。

バージョンの表と選択されているバージョンのプレビューの間にあるボタンは次のとおりです。

- **[新規]** では、新しいバージョンを作成できます。このボタンの機能は、**[ファイル] ▶ [バージョンを保存]** を選択した場合と同じです。
- **[名称変更]** では、選択されているバージョンの名前を変更できます。
- **[表示]** では、**[バージョンを編集]** ダイアログを選択し、選択されているバージョンを表示するウィンドウを開くことができます。
- **[現在のバージョンにする]** では、選択されているバージョンを現在のバージョンにすることができます。新しいバージョンが自動的に作成され、現在のバージョンの状態が保存された後、選択されているバージョンが新たに現在のバージョンとなります。
- **[スコアとしてエクスポート]** では、選択されているバージョンを、1つのバージョンのみを含む単体のスコアとしてエクスポートできます。**[現在のバージョン]** を選択して**[スコアとしてエクスポート]** をクリックすると、スコアの現在の状態のコピーが作成されます。このコピーには他の古いバージョンは含まれません。
- **[削除]** では、警告メッセージが表示された後、選択されているバージョンを削除することができます。
- **[ログをエクスポート]** では、各バージョンの違い、各ページの関連コメントとグラフィックを一覧表示するリッチテキストフォーマット (RTF) ファイルをエクスポートできます (下のバージョンのログのエクスポートを参照)。

[閉じる] をクリックして、**[バージョンを編集]** ダイアログを閉じます。

バージョンのログのエクスポート

Sibelius では、各バージョンの違いの一覧、各バージョンに保存されているコメントすべて、各バージョンの各ページのサムネイル画像 (各バージョンの違いを色分け) を含むリッチテキストフォーマット (RTF) ファイルをエクスポートできます。

このファイルは一般的なワープロソフトやテキストエディタで開くことができますが、各ページのサムネイル画像は、Microsoft Word 2002 以降 (Windows) または Microsoft Word 2008 以降 (Mac) などの特定のワープロソフトでしか表示されません。

バージョンの比較

Sibelius では、同一のスコアの2つのバージョンを比較し、違いを一覧表として表示したり、グラフィックを使ってスコア内に表示したりできます。

2つのバージョンを比較するには、**[ウィンドウ] ▶ [比較]** (ショートカットは **Ctrl + Alt + C** または **⌘ + ⌘C**) を選択するか、右のツールバーボタンをクリックします。次のウィンドウが表示されます。



【比較】と名前の付いた1つ目のリストから新しい方のバージョンを選択し、【以下と：】と名前の付いた2つ目のリストから古い方のバージョンを選択してから、 ボタンをクリックします。

進行状況を示すバーが表示されます。数秒後、古い方のバージョンが左側のウィンドウに表示され、新しい方のバージョンが右側のウィンドウに表示されます。2つのウィンドウは、並べて表示されます。2つのウィンドウを並べて表示したくない場合、【ファイル】▶【環境設定】(Macでは【Sibelius】メニュー)の【バージョン】ページを開き、【バージョンを比較するときはウィンドウを並べて表示する】をオフにします。

その後、【相違点の概要】と名前の付いたウィンドウが表示されます。このウィンドウには、2つのバージョン間で行われた変更の内容が詳しく表示されます。たとえば、「82小節へ歌詞が追加された」や「40小節へ発想記号が追加された」などの説明文が表示されます。このウィンドウを閉じるには、【閉じる】をクリックします。このウィンドウを表示させたくない場合、【環境設定】の【相違点の簡単な概要を表示】をオフにします。

【比較】ウィンドウには、2つのバージョンの相違点の詳細な一覧が表示されます。オブジェクトが追加されているか、変更されているか、削除されているかによって、次のように表示されます。

- 新しい方のバージョンに追加されたオブジェクトは、新しい方のバージョンに緑色の背景とともに表示されます。
- 新しい方のバージョンで変更されたオブジェクトは、古い方のバージョンと新しい方のバージョンの両方にオレンジ色の背景とともに表示されます。
- 新しい方のバージョンで削除されたオブジェクトは、古い方のバージョンに赤色の背景とともに表示されます。



相違点をスコアに表示させたくない場合、【表示】▶【バージョン間の違い】をオフにするか、【比較】ウィンドウの一番下のツールバーのボタン(右図)をクリックします。



Sibelius が比較するもの

Sibelius では、バージョン間でなされた編集のひとつひとつが記録されるのではありません。2つのバージョンが比較され、その間の違いが表示されます。このため、2つのバージョン間の特定の違いを示す方法は1つに限られません。

Sibelius では、レイアウト、フォーマット、音符間隔、ドキュメントセットアップの違いは認識されません。比較されるスコアの表示方法ではなく、音楽内容のみが考慮されます。

バージョンを比較するときに対象となるものの完全なリストについては、『Sibelius リファレンス』を参照してください。

2つの個別のスコアの比較

【比較】ウィンドウでは、2つの個別のスコアを比較することもできます。比較したい2つのスコアを開き、【比較】ドロップダウンで新しい方のスコアを、【以下と：】ドロップダウンで古い方のスコアを選択してから、 ボタンをクリックします。

コメント

コメントは、スコアに追加できるスティッキーノートのようなものです。本物と同じ様に、自分自身のメモやスコアを送る人へのメッセージを書くのに使えます。コメントを作成するには、ツールバーの新しいボタンをクリックするか、**[作成] ▶ [コメント]** (ショートカットは **Shift+Alt+C** または **⇧⇧C**) を選択し、タイプします。Sibelius はユーザー名と日付を自動的に加えます。選択したパッセージへコメントを追加すると、そのパッセージの楽器と小節も加えられます。

コメントに何を表示するかは **[ファイル] ▶ [環境設定]** (Mac では **Sibelius** メニュー) の **[その他]** ページの新しいオプションで変更できます。別の人によって書かれたコメントは色分けされ、教師、学生、編曲家、編集者がスコアを共有するのに便利です。

コメントのタイトルバーをダブルクリックすると個々のコメントを最小化または最大化できます。**[表示] ▶ [コメント]** をオフにすると、スコアのコメントがすべて非表示になります。

詳しくは、『Sibelius リファレンス』の「 5.5 コメント」を参照してください。

クラスルームコントロール

Sibelius ライセンスサーバーを使う Sibelius 6 のマルチユーザー版を起動している場合は、**[ファイル] ▶ [クラスルームコントロール]** ダイアログを使って簡単なクラスルーム管理タスクを実行できます。

まず、ライセンスサーバーのコントロールパネルでパスワードを設定し、このパスワードを使ってクラスルームコントロール機能へアクセスします。クラスルームで起動している Sibelius のすべてのコピーのリストと、各ワークステーションにいる学生のユーザー名が表示されます。学生の注意を引きたいとき、学生が作業しているファイルを回収したいとき (学生のユーザー名が付いたフォルダに各ファイルを保存して)、自分のワークステーションから一部または全部の学生のワークステーションへファイルを送りたいとき、新しい「バージョン」機能を使って学生のスコアの新規バージョンを Sibelius に作成させたいときは、自分のワークステーションからクラスルームで起動中の Sibelius を「フリーズ」することができ、その時々を進捗を確認できます。

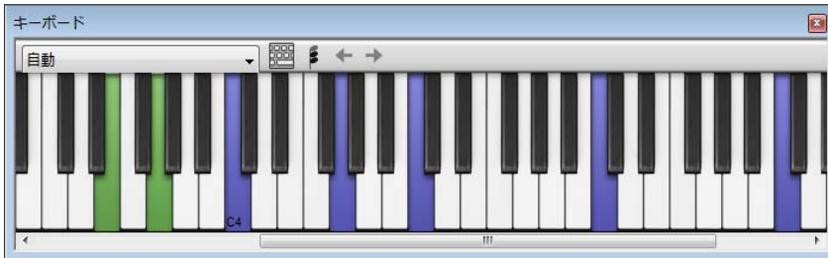
詳しくは、『Sibelius リファレンス』の「 5.3 クラスルームコントロール」を参照してください。

キーボードウィンドウとフレットボードウィンドウ

新しいキーボードウィンドウとフレットボードウィンドウは、譜表ではなくキーボードやギターを使って楽譜を作成したい方に最適です。キーやフレットをクリックするだけで音符や和音を入力できます。ピアノの様にコンピュータの QWERTY キーを「演奏」することもできます。

キーボードウィンドウ

キーボードウィンドウを表示または非表示するには、ツールバーの右にあるボタンをクリックするか、**[ウィンドウ] ▶ [キーボード]** (ショートカットは **Ctrl+Alt+B** または **⌘+B**) を選択します。



キーボードウィンドウの大きさは3つあり (上の図は中)、下端 (Windows では上端も可) をつかんでドラッグすると大きさが変わります。また、左端または右端をドラッグするか (Windows)、右下隅をドラッグすると (Mac)、キーボードウィンドウの幅が変えられます。

マウスでキーボードウィンドウをクリックして音符を入力するには、音符の入力を開始する楽譜の位置を選択し、キーボードウィンドウの鍵盤をクリックします。黒鍵をクリックした後、変化記号を変更したい場合は、音符を入力した直後に **Return** (メインキーボード上) を押します。

音符を入力した後は音符入力カーソルが自動的に進みますから、和音を入力したい場合はキーボードウィンドウの右に表示されている和音モードボタンを押します。これで音符が現在の和音へ追加され、カーソルを進めるには和音モードボタンの右にある右矢印ボタンをクリックしなければなりません。



コンピュータのキーボードを使ってキーボードウィンドウから音符を入力することもできます。通常コンピュータのキーボードを使って音符を入力するときは、入力する音符の名前 (**C**、**G** など) をタイプします。これとは異なり、キーボードウィンドウを使うときは、ピアノの鍵盤の1オクターブの形をしたキーのセットを使います。英語のキーボードの一番上のキー配列に従って、これを QWERTY モードと呼びます。

コンピュータのキーボードのほとんどのキーが何かを実行するよう設定されているため (**T** は **[作成] ▶ [拍子記号]**、**Y** は **[作成] ▶ [音部記号]** など)、QWERTY モードを使うためには、これらの通常のショートカットを無効にしなければなりません。これは、キーボードウィンドウのツールバーの右にあるボタンをクリックするか、**Shift+Alt+Q** または **⌘+Q** ショートカットをタイプして行います。



A は C へ対応し、**W** は C# または D \flat 、**S** は D、**E** は D# または E \flat へ、最後に **K** は 1 オクターブ上の C へ対応します。**Z** は 1 オクターブづつ下げ、**X** は 1 オクターブづつ上げます。**G** は G、**F** は F、**E** は E \flat を入力すると憶えておくと便利でしょう。

キーボードウィンドウとフレットボードウィンドウ

QWERTYモードで和音を入力するときは、2つまたは3つのキーをいっしょに押さえます。コンピュータのキーボードによっては、4つ以上の音符を同時に入力できない場合もあります。

詳しくは、『Sibelius リファレンス』の「 1.3 キーボードウィンドウ」を参照してください。

フレットボードウィンドウ

フレットボードウィンドウを表示または非表示するには、ツールバーの右にあるボタンをクリックするか、**[ウィンドウ] > [フレットボード]** (ショートカットは **Ctrl+Alt+E** または **⌘+E**) を選択します。



フレットボードのツールバーの右端にあるメニューを使って、メイプル、ローズウッド、アコースティックの6弦のギターのフレットボード、またはメイプル、ローズウッドの4弦のベースギターのフレットボード、またはローズウッドの5弦のベースギターのフレットボードが選択できます。

フレットボードウィンドウの大きさは3つあり (上の図は中)、下端 (Windows では上端も可) をつかんでドラッグすると大きさが変わります。

フレットボードウィンドウを使って音符を入力するには、入力を開始する小節または休符を選択します。Sibelius は、選択された楽器の種類をもとに最も適切なフレットボードを選択します。入力したい音符に相当する弦のフレット位置をクリックしてください。

音符を入力した後は音符入力カーソルが自動的に進みますから、和音を入力したい場合はフレットボードウィンドウの右に表示されている和音モードボタンを押します。これでクリックしたフレット位置が現在の和音へ追加され、カーソルを進めるには和音モードボタンの右にある右矢印ボタンをクリックしなければなりません。



音符を入力すること以外にフレットボードウィンドウにできることは、再生中にどの音符が演奏されているかを示すことです。どの楽器に追従するかは、フレットボードウィンドウのツールバーの左側のメニューを使って選択できます。

標準設定では、これは **[自動]** に設定されており、スコアの一番上のギターまたはベースの譜表、それがなければスコアの一番上の譜表をたどります。プレイバックを開始する前に1つまたは複数の譜表を選択している場合は、その一番上の譜表をたどります。再生中に特定の譜表をたどりた場合は、その譜表の名前をフレットボードウィンドウのツールバーの左にあるメニューから選択してください。

フレットボードウィンドウは、再生中は声部1の音符だけをたどり、他の声部は無視します。音符が現在のフレットボードで表示できるよりも高い場合は、一番高い弦の上に右向きの矢印が表示され、音符が現在のフレットボードで表示できるよりも低い場合は、一番低い弦の下に左向きの矢印が表示されます。フレットボードウィンドウはスコアのコード記号をたどることもでき、ギターの押さえ方を表示します。フレットボードのツールバーのメニューから **[コード記号]** を選択してください。

詳しくは、『Sibelius リファレンス』の「 1.8 フレットボードウィンドウ」を参照してください。

コード記号

コード記号は、テキストコード記号、ギターコードダイアグラム（ボイスングを選択して）、またはその両方として表示できるようになりました。これらは同じ種類のオブジェクトとして扱われま

す。コードテキストとコードダイアグラムのいずれか、または両方を表示する場合、コード記号を入力する方法は2つあります。1つはスコアにタイプする方法で、もう1つは MIDI キーボード（MIDI ギター）を演奏する方法です。

詳しくは『Sibelius リファレンス』の  2.10 コード記号と  8.13 コード記号の編集を参照してください。

コード記号作成の概要

- コード記号を追加する譜表上の音符または休符を選択し、[作成] ▶ [コード記号]（ショートカットは **Ctrl + K** または **⌘K**）を選択します。
- 点滅するカーソルが譜表の上に表示されます。以下のいずれかを行います。
 - “Cmaj7” など、目的のコード記号をタイプします（下記のタイプしてコード記号を作成する参照）。または
 - MIDI キーボードで任意のボイスングのコードを演奏します（以下の演奏してコード記号を作成する参照）。
- **スペース** を押してカーソルを次の音符または拍の位置へ進めます（MIDI キーボードでコード記号を入力した場合はカーソルが自動的に進みます）。**Tab** を押すと、次の小節の始めへカーソルが進みます。
- 間違った場合は、**Backspace** を押して前のコード記号を変更するか、**Shift-Tab** を押して前の小節の始めへ戻ります。

コード記号編集の概要

コード記号は、全体として編集することも、個別に編集することもできます。全体の編集には、すべてのメジャー 7th のコードがどの様に表示されるかを選択したり、ギターコードダイアグラムをすべての譜表に表示するかギターの譜表だけに表示するかを選択することなどが含まれます。これらの設定は、[ハウススタイル] ▶ [記譜ルール] の [コード記号] ページ、[ハウススタイル] ▶ [コード記号を編集] で変更できます。詳しくは、『Sibelius リファレンス』の  8.13 コード記号の編集を参照してください。

個別の編集は、選択したコード記号へのみ適用されます。

- 既存のコード記号を編集するときは、コード記号を選択し、**Return**（メインキーボード）を押すか、コード記号をダブルクリックします。
- コード記号のベースを F# ではなく G_b にするなど MIDI キーボードから入力したコード記号を異名同音に変更するときは、コード記号を選択し、[編集] ▶ [コード記号] ▶ [コード記号の異名同音] を選択します。これは、選択したコード記号を右クリック（Windows）または **Control-** クリック（Mac）して選択することもできます。
- 1つのコード記号に対してコードダイアグラムを表示または非表示するときは、コード記号を選択し、[編集] ▶ [コード記号] ▶ [コードダイアグラムを追加 / 削除] を選択します。
- 1つのコード記号に対してコードテキストを表示または非表示するときは、コードダイアグラムを選択し、[編集] ▶ [コード記号] ▶ [コードテキストを追加 / 削除] を選択します。

- 同等のテキストコード記号 (Cm7(b5)、C♯7 など) を順に選択するには、そのコード記号を選択し、[編集]▶[コード記号]▶[コードテキストを変更]を選択します。
- ギターコードダイアグラムの別のボイスを順に選択するには、そのコード記号を選択し、[編集]▶[コード記号]▶[コードダイアグラムをリボイス]を選択します。

タイプしてコード記号を作成する

コンピュータのキーボードを使ってコード記号をタイプ入力するには、ハーフディミニッシュ用の \circ やメジャー (またはメジャー7th) 用の Δ などの特殊な記号をタイプする方法を知っている必要はありません。キーボードショートカットの **Ctrl + K** または **⌘K** で入力を開始し、コードを英語でタイプするだけです。Sibelius は、[ハウススタイル]▶[記譜ルール]の[コード記号]ページと[ハウススタイル]▶[コード記号を編集]の設定に従って必要な記号を自動的に作成します。

根音をタイプするときは、“C#”“Bb” やなど、単にその名前をタイプします。変化ベース音をタイプしたいときは、“/E. のようにスラッシュの後に音符の名前をタイプします。

より複雑なコード記号を作成するための根音に続く要素を接尾辞の要素と呼び、Sibelius はキーボードからタイプされる以下の接尾辞の要素を理解します。

halfdim	add9	6/9	b5
add6/9	maj7	aug	#4
sus2/4	dim9	alt	nc
omit5	dim7	b13	9
omit3	sus9	#11	7
maj13	sus4	13	6
add13	add4	11	5
maj11	sus2	#9	m
dim13	add2	b9	/
dim11	maj	b6	
maj9	dim	#5	

上記のリストのほとんどは自明ですが、“nc” は “no chord” を意味してコード記号の N.C. を作成し、“/” は通常は変化ベース音の前に使いますが、単独でタイプしたときはリズムスラッシュ (ノ) を作成します。

上記の接尾辞の要素を使うと、非常に複雑なコード記号でも簡単にタイプできます (“Cmaj7b13b9b5” とタイプしてみてください)。括弧や区切りをテキストに含める必要はなく、また決まった順序で接尾辞の要素をタイプする必要もありません (実際にコード記号が表示されるときはタイプした順序は無視されます。Sibelius は変化記号を常に降順で表示します)。

コード記号の入力中は、**スペース**で次の音符または拍 (どちらか近い方)、**Tab** で次の小節、**Backspace** で前のコード記号、**Shift-Tab** で前の小節の始めへ移動します。

演奏してコード記号を作成する

これらを演奏してコード記号を入力するには、キーボードショートカットの **Ctrl + K** または **⌘K** で入力を開始し、点滅するテキストカーソルが表示されたら、入力するコードを MIDI キーボードで演奏します。点滅しているカーソルは次の音符または拍へ自動的に進みます。

標準設定では、Sibelius はそのコードのボイスングを使って、コードの種類だけではなくコードがどの様に表記されるかも決めます。たとえばコードを転回して演奏すると、Sibelius は D/F# などの変化ベース音を使ってコード記号を作成します。

Sibelius は、現在の調号をもとに根音（および変化ベース音）に対してコード記号を作成しますが、入力した後で異名同音のコード記号に変更することもできます。（以下のコード記号の異名同音参照）。

Sibelius には認識できないコードを演奏した場合は、Sibelius は演奏された音符を赤で書いてカーソルを進めます。この間違ったコード記号は、戻って修正する必要があります。

複雑なコードをより早く入力したい場合には、[ハウススタイル] ▶ [コード記号を編集] でそのコード用の独自の MIDI 入力ボイスングを設定できます。

MIDI キーボードを使ったコード記号の入力中の移動は、コンピュータのキーボードを使った入力中と同じです（上記のタイプしてコード記号を作成する参照）。

既存のコード記号を編集する

コード記号を編集するには、単にコード記号をダブルクリックするか、またはコード記号を選択して **Return** キー（メインキーボード上）を押します。次に既存のテキストを削除して新しいコード記号をタイプするか、MIDI キーボードで新しいコードを演奏してコード記号を置き換えます。

その他のコード記号に対する編集は、1 つまたは複数のコード記号を選択し、[編集] ▶ [コード記号] のサブメニューから目的の操作を選択して行います。このメニューはコード記号を右クリック（Windows）または **Control**- クリック（Mac）して選択することもできます。

同等のコードテキスト

多くの場合、コード記号で同じ音程のパターンを表すのには複数の方法があります。Sibelius では、これらの候補を簡単に循環させることができるので、演奏して入力したコード記号が目的とは違った場合に便利です。

コードテキストを変更したいコード記号を選択し、[編集] ▶ [コード記号] ▶ [コードテキストを変更]（ショートカットは **Ctrl+Shift+K** または ⌘⇧K）を選択します。選択する度に次の同等のコードテキストが表示され、最後に元へ戻ります。

コードダイアグラムのリボイス

与えられらコードをギターで弾く方法はいくつもあります。各コードは、優先されるコードダイアグラム（[ハウススタイル] ▶ [コード記号を編集] で編集できる）を伴っており、このコードダイアグラムがそれぞれのコードに対して表示されます。

別のギターコードダイアグラムを選択するには、そのコード記号を選択し、[編集] ▶ [コード記号] ▶ [コードダイアグラムをリボイス]（ショートカットは **Ctrl+Shift+Alt+K** または ⌘⇧⌥K）を選択します。選択する度に次のボイスングが表示されます。

コード記号の異名同音

MIDI キーボードでコード記号を入力した後で、根音の異名同音、変化ベース音、またはその両方を変更したい場合があります。これを行うには、1 つまたは複数のコード記号を選択し、[編集] ▶ [コード記号] ▶ [コード記号の異名同音] を選択します。選択する度に、Sibelius は次の異名同音を選択します。

コード記号

その根音に対するすべての有効な異名同音が考慮され、C の場合であれば B \sharp と D \flat へ変化した後 C に戻ります。変化ベース音は、そのコードの根音が二重臨時記号を使って綴られていない限り、二重臨時記号を使って綴られることはありません。

どの様なときにコードダイアグラムが表示されるかを選択する

標準設定では、Sibelius はギターやその他のフレット楽器へ属する譜表譜（タブ譜ではない）を除いて、すべての楽器にコードテキストのみを表示します。コード記号が譜表譜へ付けられたときは、Sibelius は暗示されたギターやその他のフレット楽器の調律に従ってコードダイアグラムの表示を決めます。その楽器がギターやその他のフレット楽器でなく、Sibelius がギターコードダイアグラムを表示するときは、標準の調律の 6 弦ギターのギターコードダイアグラムを表示します。

これは、[**ハウスタイル**] ▶ [**記譜ルール**] の [**コード記号**] ページのオプションを使って変更できます。詳しくは『Sibelius リファレンス』を参照してください。

記譜ルールのオプション

[**ハウスタイル**] ▶ [**記譜ルール**] の [**コード記号**] には大量のオプションがあり、コード記号の標準設定の形を操作できます。詳しくは『Sibelius リファレンス』を参照してください。

[**ハウスタイル**] ▶ [**記譜ルール**] の [**コード記号**] ページで選択した全体的な設定は、個々のコードに対して [**ハウスタイル**] ▶ [**コード記号を編集**] で変更できます。詳しくは、『Sibelius リファレンス』の 8.13 コード記号の編集を参照してください。

旧コード記号の入力

Sibelius の以前のバージョンでは、コード記号はテキストの一種で、特殊なキーボードショートカットを使ってタイプするか、用語メニューの限られたコード記号を選択して入力しなければなりません。下位互換性を保つために、現在のバージョンには [**ファイル**] ▶ [**環境設定**] (Mac では **Sibelius** メニュー) の [**その他**] ページに [**旧コード記号入力を使用**] というオプションがあり、このチェックボックスをオンにすると以前のバージョンと同じ様にコード記号が機能します。

旧コード記号は、[**編集**] ▶ [**コード記号**] のサブメニューによる変更に応答せず、[**ハウスタイル**] ▶ [**記譜ルール**] の [**コード記号**] ページのオプションを変更したときも表示が変わりません。こうしたことから、本物のコード記号の使用を強く推奨します。

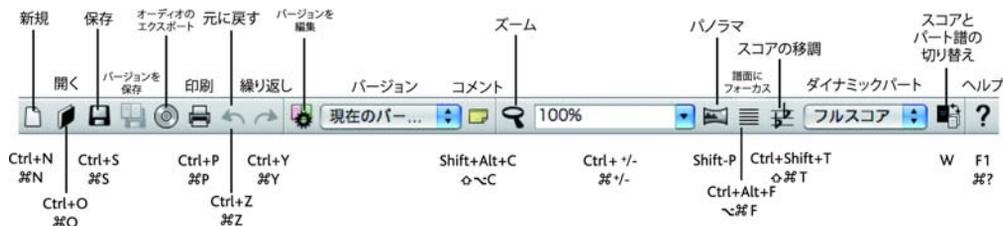
ときに旧コードが必要になった場合は、[**作成**] ▶ [**テキスト**] ▶ [**特殊テキスト**] ▶ [**コード記号**] を選択して、スコアに旧コードを 1 つだけタイプすることもできます。また、キーボードショートカットの 1 つを [**コード記号**] のテキストスタイルへ割り当てておき、旧コードが必要になったときにそのショートカットを使って入力することもできます。

ルック & フィール

Sibelius 5 またはから Sibelius 4 からアップグレードした場合は、Sibelius 6 の外観にはすぐに慣れることでしょう。いくつかの変更が加えられただけなので、すぐに作業を再開できるはずです。それよりも前のバージョンの Sibelius からアップグレードした場合は、少し変わっている部分もありますが、それらはすべてソフトウェアをより使いやすくするためのものです。

ツールバー

ツールバーは次のようになっています。



Sibelius 5 の後に追加されたボタンは、[保存]と[オーディオをエクスポート]の間の[バージョンを保存] (35 ページのバージョン参照) と、ズームボタンのすぐ左の[コメント]だけです。

ツールバーの右側にある一連のボタンは、以下の Sibelius の 11 のフローティングツールウィンドウを表示 / 非表示します。



Sibelius 6 に追加された 3 つのフローティングウィンドウについては、40 ページのキーボードウィンドウとフレットボードウィンドウと 35 ページのバージョンで説明しています。

ご使用のモニターの解像度ではすべてのツールバーボタンを表示できない場合 (推奨する最小限の解像度は 1280 x 1024)、いくつかのボタンが自動的に非表示になります。どのボタンを表示 / 非表示にするかは、[ファイル] ▶ [初期設定] (Mac では Sibelius メニュー) の表示ページのオプションで選択できます (『Sibelius リファレンス』の 5.23 表示メニュー)。

メニュー

メニューアイテムの中には、名前が少し変わったものや、他のメニューに移動したものがあります。Sibelius 5 からの最も重要な変更は、[作成] ▶ [コードダイアグラム] と [作成] ▶ [テキスト] ▶ [コード記号] が 1 つのメニューアイテム [作成] ▶ [コード記号] に置き換えられたことで、これには多くの利点があります (42 ページのコード記号参照)。

85 ページの付録 B : メニューの変更では、その他のメニューの小さな変更と Sibelius の以前のバージョンの変更を説明しています。

キーボードショートカット

いくつかの新しいキーボードショートカットを追加し、いくつかを変更しました。最も重要な変更は、テンキーの第1レイアウトが **F8** ではなく **F7** になったことです。これはレイアウトが5ではなく6になったためです。詳しくは、86ページの付録C: キーボードショートカットで説明しています。

音符の入力

Sibelius 6の音符の入力は、テンキーのキーボードショートカットが変更になった以外、大きな変更はありません。

Sibelius 4以前のバージョンからアップグレードする場合は、音部記号、拍子記号、調号を作成する前にパッセージを選択すると、選択したパッセージの最後で、元の音部記号、拍子記号、調号が自動的に復元される便利な新機能があることを知っておくとよいでしょう。これはパッセージの長さに関係なく行われるので、通常、これらのオブジェクトを作成する前に小節の空白部分をクリックすると（1小節のパッセージが選択され）、小節の最後に元のオブジェクトが自動的に復元されることとなります。1小節、またはそれよりも短い部分を選択した最後に元のオブジェクトに戻す機能を無効にするには、**[ファイル] > [環境設定]** (Macでは**[Sibelius]**メニュー内)の**[音符の入力]**ページで**[単一の小節を選択後に元のアイテムを復元]**をオフにします。

Sibelius 2または3からアップグレードする場合は、Sibelius 4以降に導入された大きな変更にご注意ください。**スペースキー**を使用した休符の入力は使用できなくなりました。休符を入力する場合は、テンキーの**0**キーを使用します。この変更を受けて、次の点も変更されました。

- 以前のバージョンでは、1つまたは複数の音符・休符を選択した状態でテンキーの**0**を押すと、音符と休符の選択が切り替わりました。
- 以前のバージョンでは、音符を選択した状態で**スペースキー**を押すと、選択した音符の後に音符入力カーソルが表示され、そこから続けて音符を入力できました。
- ノートパソコン（ラップトップ）を使用していてキーボードにテンキーがない場合は、**[ファイル] > [環境設定]**の**[メニューとショートカット]**ページで**[ノートブック型（ラップトップ）機能]**機能を設定することをお勧めします。この機能を設定すると、メインキーボードの数字キー行にテンキー機能が割り当てられます（Windowsのみ）。

Sibelius 6の音符入力ショートカットをSibelius 3やSibelius 2に近い動作に変える方法について詳しくは、<http://www.sibelius.com/helpcenter/en/a481>（英語）を参照してください。しかし、これは推奨できません。新しい音符の入力のショートカットを憶えるようにしてください。

キーボードショートカットのカスタマイズについて詳しくは、『リファレンス』の  5.12メニューとショートカットをお読みください。

Windows に関わる改良

- SibeliusはLAA (Large Address Aware) アプリケーションになりました。すなわち、コンピュータに2GB以上のRAMがインストールされていれば、状況に応じて、Sibeliusはコンピュータのより多くのメモリへアクセスできます。
 - 32ビットのWindows XPを使用している場合は、**boot.ini** (<http://tinyurl.com/winxpmem> 参照)の**/3GB**スイッチをオンにすると、Sibeliusは最大3GBのRAMへアクセスできます。
 - 64ビットのWindows XP/Vista/7を使用している場合は、Sibeliusは最大4GBのRAMへアクセスできます。

2GB以上のRAMへのアクセスは、多くの譜表を持つ大きなスコアの再生に役立ち、より多くのサウンドの同時再生を可能にします。

- **[ファイル] ▶ [開く]** ダイアログでは、Windows と Mac 共に、**[すべての音楽ファイル]** (Sibelius スコア、MIDI ファイル、PhotoScore ファイル、MusicXML ファイル) がファイルの種類として標準設定で選択されます。
- タブを持つダイアログ (**[テキストスタイルの編集]**、**[再生] ▶ [辞書]**、**譜表タイプの編集**、**[ライブプレイバックの変換]**、**[スコア情報]** など) では、Tab キーを使ったコントロール間の移動と Alt+アルファベットに対する反応が正しく行われるようになりました。
- モーダルダイアログが表示されているときは、Sibelius のフローティングツールウィンドウのボタン等はクリックできなくなりました。
- **[ファイル] ▶ [スコア情報]** の **[ファイル]** タブの作成日と修正日は、GMT ではなく現地時間の日付と時間を表示するようになりました。
- 横置きスコアのズームレベルを **[ページ全体を表示]** の設定し、**[表示] ▶ [スクロールバー]** をオンにした場合も、スクロールが正しく行えるようになりました (このバグは画面の解像度 1280 x 1024 の Windows XP のテーマにのみ影響を及ぼしました)。
- 「**ツールの使い方**」は、ボタンをクリックした後も引き続き表示されます。
- Sibelius のスプラッシュ画面の表示中に、スプラッシュ画面の後にエラーダイアログが表示されて閉じることができなくなる問題を解決しました (Windows Vista のみ)。
- スクロールバーの位置がより正確になりました。

Mac に関わる改良

- Sibelius は Cocoa のマウスポインタ、Cocoa のアラートウィンドウとメッセージボックス (**[OK]** メッセージボックス、**[はい]** **[いいえ]** ダイアログなど) を使うようになりました。
- Sibelius のメニューを上下に移動するのに再び矢印キーが使えるようになりました。
- スピンコントロール (**[プロパティ]** の **[テキスト]** / パネルの **[サイズ]** など) が正しく機能するようになりました。矢印の 1 つを押さえると、自動的に値が増減します。
- **スペース** を押すことによって、コンボボックスやボタンなどを持つダイアログのコントロールをいつでもアクティブにできるようになりました。
- **Return** を押して **[ファイル] ▶ [新規]** ダイアログの次のページへ移動するときに、何ページか飛ばすことがなくなりました。
- **Esc** を押して、**[作成] ▶ [拍子記号]** の **[連桁と休符のグループ]** ダイアログをキャンセルしたときに、ダイアログが再び表示されることがなくなりました。
- マウスホイールを使ってスコアをスクロールする速度が、システム環境設定の **[キーボードとマウス]** の **[マウス]** ページの **[スクロール]** スライダーの設定を反映するようになりました。
- 複数のページを持つダイアログ (**[環境設定]**、**[記譜ルール]** など) のページのリストを、ページの 1 つにフォーカスを奪われることなく、矢印キーで上下に移動できるようになりました。
- Sibelius のツールバーのコンボボックスにズームレベルを入力した後、**Return** を押してスコアウィンドウへフォーカスを戻すとき、そのズームレベルがプリセットの 1 つと同じでも正しく機能するようになりました。
- 用紙関連のダイアログ (**[ページ設定]** など) がアクティブなときにツールバーのズームのコンボボックスをクリックしても、Sibelius はクラッシュしなくなりました。
- 用紙をクリック & ドラッグしてスコアを上下に移動し、マウスポインタがスコアウィンドウの端を越えたときにスコアが見えなくなってしまうことがなくなりました。
- ディスプレイを 2 つ持つコンピュータのツールバーの後へスコアウィンドウをドラッグすることができなくなりました。

- スコアのアイコンをダブルクリックして Sibelius を起動したとき、スコアウィンドウのタイトルバーが Sibelius のツールバーの下に隠れることがなくなりました。
- **[表示] ▶ [ツールバー]** で Sibelius のツールバーをオンまたはオフにしたとき、開いているスコアウィンドウはツールバーの後に隠れないよう移動します。
- 2番目のディスプレイで Sibelius のスコアを開いて最大化し、ディスプレイの一番上までドラッグした場合、そのスコアを次に開いたときも正しく表示されるようになりました。
- Mac OS X 10.5以降の Sibelius スコアの Quick Look プレビューの処理能力が改善しました。より早くスコアが表示され、プレビューするスコアの縦横比に合わせて Quick Look ウィンドウの大きさが正しく変更されます。
- **[スコアウィンドウを元の位置とサイズに戻す]** (**[環境設定]** の **[ファイル]** ページ) がオンのとき、スコアの 1 つを最大化しても、誤って他のスコアが最大化されることがなくなりました。

その他の改良

- アイテムを移動するためのしきい値はズームレベル応じるようになり、100% のときのドラッグのしきい値 1.5 に対し、800% の様な高いズームレベルのとき、アイテムが移動を開始するまでマウスを延々と動かす必要がなくなりました。
- ハンドル (小節線、スラー、符尾など) はズームレベルに合わせて大きさが変わるようになり、高いズームレベルで選択しやすくなりました。
- Sibelius は必要以上にスコアをページングしなくなり、様々な編集の操作がスピードアップされました。
- 入力と編集のいくつかの操作が Sibelius の前のバージョンよりも格段と早くなりました。**[レイアウト] ▶ [音符間隔をリセット]**、**[音符] ▶ [スコアを移調する]** の切り替え、上下の矢印キーを使った選択範囲の移調、弦間のギタータブの移動、テンキーを使った音符の声部の変更、テンキーを使った臨時記号の追加と削除、**Shift+Alt++/-** または **⇧+/-** を使った符頭タイプの選択などで、特に大きな選択範囲に対して有効です。
- **Sibelius** についてウィンドウでは Sibelius に関わった人の名前をスクロールできます。このウィンドウは、マウスでクリックするか **Esc** または **Return** (メインキーボード) を押すと閉じます。

Sibelius 6 には継承されなかった機能

以下のとおり、前のバージョンのいくつかの機能が Sibelius 6 では削除されました。

- **[表示] ▶ [音符のカラー] ▶ [音高スペクトル]** は削除されました。
- **[プラグイン] ▶ [作曲ツール] ▶ [数字付き低音の音符化]** は削除されました。
- **[プラグイン] ▶ [臨時記号] ▶ [注記の臨時記号の追加]** は削除されました。このプラグインは Sibelius 6 の新しい自動の注記の臨時記号機能に取って代わられました。
- **[プラグイン] ▶ [音符と休符] ▶ [スラッシュ符頭をパートへ追加]** このプラグインは Sibelius 6 のスラッシュ符頭の改良に取って代わられました。

また、Sibelius 6 は Acorn Sibelius、SCORE、Finale のファイルをインポートしなくなり、ASCII タブファイルをインポートおよびエクスポートしなくなりました。可能であれば、これらの形式のファイルは別のアプリケーションで MusicXML へ変換してから Sibelius 6 へインポートしてください。これらのファイルを MusicXML へ変換できない場合は、Sibelius の前のバージョンを使ってインポートし、Sibelius スコアとして保存すれば Sibelius 6 で開くことができます。

その他の改良と修正

その他の Sibelius 6 の新機能と改良については、『Sibelius リファレンス』に記載されている順序に従って以下に要約します。詳しくは『Sibelius リファレンス』の冊子（別途購入した場合）、または [ヘルプ] ▶ [ドキュメント] ▶ [Sibelius リファレンス]（ショートカットは **F1** または **⌘?**）を選択すると画面上に表示されるリファレンスの該当箇所を参照してください。

1.1 音符の入力

[編集] ▶ [リピート]（ショートカットは **R**）は、テンキーの音価と前の音符の音高を常に正しく使うようになりました。

1.2 テンキー

- テンキーのレイアウトは 6 つになりました。以前の 4 番目（**アーティキュレーション**）と 5 番目（**臨時記号**）のレイアウトの間に、新しいレイアウトの**ジャズアーティキュレーション**が追加されています。新しいレイアウトには、1 小節、2 小節、4 小節のリピート（下記の 2.27 リピート小節参照）、音符付きアルペジオライン（下記の 2.2 アルペジオ参照）、ジャズ用のスクープ、フォルム、ドゥイット（下記の 2.19 ジャズのアーティキュレーション参照）があります。このため、テンキーの 1 番目のレイアウトのショートカットは **F8** ではなく **F7** になりました。
- テンキーの左上隅の空白部分（一般的なキーボードの **Num Lock** の位置）には、マウスのポインタのアイコンを入れました。このアイコンをクリックするのは **Esc** を押すのと同じで、選択を解除し、マウスのみを使った音符の入力を中止できます（**Esc** を押す必要がありません）。これは、教室のインタラクティブホワイトボード上で Sibelius を使う場合に特に便利です。
- テンキーのボタンの上にマウスを移動するとツールの使い方が表示されます（Mac のみ）。

1.5 スキャンング

- [ファイル] ▶ [スキャン]は、[ファイル] ▶ [PhotoScoreでスキャン]になりました。[PhotoScoreを開く]ダイアログの名前が [PhotoScore or AudioScore ファイルを開く] になりました。
- PhotoScore と AudioScore からインポートしたスコアの調号はシステム全体に対して正しく作成され、インポートの後に追加した楽器は既存の調号を継承します。

1.6 オーディオ入力

Sibelius 6 には Neuratron の AudioScore Lite が付属しており、マイクを使って歌やアコースティック楽器の演奏を AudioScore に録音するだけで楽譜を入力できます。

AudioScore Lite を使うには、Sibelius のメニューから [ファイル] ▶ [AudioScore で記譜] を選択します。

1.9 選択とパッセージ

- 選択された単一のオブジェクトをドラッグするための新しい修飾キー。これらの修飾キーを使うには、まずオブジェクトを選択し、修飾キーを押す前にマウスのボタンを押さえます。これらの修飾キーは、組み合わせて使うこともできます（例：**Shift** と **Alt** を押すと、オブジェクトの移動を特定の方向に強制し、また添付した位置を変更することなく移動できます）。新しい修飾キーは以下のとおりです。
 - **Shift-** ドラッグ：オブジェクトの移動を最初に移動した方向に強制します。
 - **Alt+** ドラッグまたは **⇧-** ドラッグ：添付した位置を移動することなくアイテムを移動します。

その他の改良と修正

- **Ctrl+** ドラッグまたは **⌘**-ドラッグ: そのアイテムに対するマグネティックレイアウトを一時的に解除し、自由にドラッグできるようにします。**Ctrl** または **⌘** を放すと回避位置へ自動的に移動します。
- 異なる声部および異なる譜表の音符と和音の間を移動するためのキーボード ショートカットが以下のとおり変わりました。
 - **Alt+↑/↓** または **⇧↑/↓** は、和音の次の高い音または低い音を選択します。和音の最も高い音または低い音が選択されている場合は、**Alt+↑/↓** または **⇧↑/↓** をタイプすると符尾上のトレモロ（存在している場合）が選択され、もう一度 **Alt+↑/↓** または **⇧↑/↓** をタイプすると符尾の終端のハンドルが選択され（符尾がその方向にある場合）、もう一度タイプすると音符に最も近いアーティキュレーション（存在している場合）が選択されます。
 - **Shift+Alt+↑/↓** または **⇧⇧↑/↓** は、次の声部の最も高い音または低い音を選択します（たとえば声部 1 の和音の最も低い音が選択されているときに **Shift+Alt+↑/↓** または **⇧⇧↑/↓** をタイプすると、Sibelius は声部 2 の最も高い音または低い音を選択し、声部 2 がなければ声部 3 または声部 4 の最も高い音または低い音を選択します）。
 - **Ctrl+Alt+↓** または **⇧⌘↓** は、下の譜表の最も低い番号の声部にある最も高い音または休符を選択します。**Ctrl+Alt+↑** または **⇧⌘↑** は、上の譜表の最も高い番号の声部にある最も低い音または休符を選択します。

次の声部または譜表の同じ位置に音符または休符がない場合は、Sibelius は同じ小節の前の位置にある音符または休符を選択します。存在しない声部は単に飛ばされ、譜表間を移動するときは非表示の譜表は飛ばされます。

- **Alt+←/→** または **⇧←/→** をタイプして、音符、和音、臨時記号、タイ、付点を左右に移動する方法も改良されました。**Alt+→** または **⇧→** をタイプして左から右へ選択する順序は以下のとおりです。アルベジオライン、スクープまたはプロップ、臨時記号、符頭、付点、フォールまたはドウィット、タイの左端、タイ、タイの右端。
- **[編集中に音符を再生] ([環境設定] の [音符の入力] ページ)** がオンのとき、どの音符が再生されるかが以下のとおり改良されました。
 - **←/→** は、その声部の和音のすべての音を再生します。譜表の音符と和音を移動して全体の流れを聴くことができます。
 - **Alt+←/→** または **⇧←/→** は、選択された符頭だけが再生されます。
 - **Alt+↑/↓** または **⇧↑/↓** は、選択された符頭だけが再生されます。
 - 和音の中の 1 つの符頭をクリックすると、その音だけが再生されます。選択された和音をダブルクリックすると、その和音のすべての音が再生されます。
 - 和音の中の複数の音符を選択する **Ctrl**+クリックまたは **⌘**-クリックは、選択した音符だけを再生するようになりました。
- 臨時記号の追加または削除は（選択された臨時記号を削除することによって、またはテンキーから臨時記号を追加することによって）、対象となる音符を再生するようになりました。
- ユーザー定義の楽器タイプを使ったスコアからコピーするとき、貼り付けた場所での楽器タイプが使用される場合にのみユーザー定義の楽器タイプが目的のスコアへコピーされます。これによって、スコア間でコピー&ペーストするときにはスタイルが肥大化するのを防げます。
- アイテムを選択したときに表示されるコンテキストメニューに、**[編集]**メニューと同じ**[順序]**、**[マグネティックレイアウト]**、**[コード記号]**サブメニューが加えられました。

1.10 入力デバイス

Sibelius は MMC (MIDI Machine Control) に対応しました。MMC を使うと、ハードウェアの入力デバイスから再生、停止、早送り、巻戻しなどのコマンドを送信できます。ご使用の入力デバイスが MMC に対応している場合は、そのデバイスを使って Sibelius の [再生] ウィンドウを操作できます。

1.11 HyperControl™

Sibelius は、M-Audio Axiom Pro コントローラー キーボードで使われている MIDI マッピング技術の HyperControl に対応しました。HyperControl は、つまみ、フェーダー、ドラムパッド、キーボードのテンキーを Sibelius の再生、ミキサー、音符入力のコントロールへ自動的にマップし、双方向のリンクを使ってキーボードのコントロールと Sibelius の設定を同期させます。Axiom Pro の LCD ディスプレイには常に最新の値が表示され、シームレスな編集を可能にし、パラメータのジャンプを防ぎます。

2.1 臨時記号

Sibelius は、必要な場所すべてに注記の臨時記号を追加します。これで演奏するときに音符を間違えることが少なくなるでしょう。この新しいオプションは、[ハウススタイル]・[記譜ルール]の[臨時記号と付点]ページにあり、注記の表示方法を以下の中から選択できます。

- 前の音符が異なる臨時記号を持っている場合は小節の始めに
- 前の小節のいずれかの音符が臨時記号を持っている場合
- 続く小節の最初の音符以外の音符が臨時記号を持っている場合
- 前の小節の音符と続く小節の最初の音符以外の音符が異なる臨時記号を持っている場合
- 臨時記号を持つ音符が小節線を越えてタイで結ばれている場合は、次の小節の同じ音高の音符にその臨時記号を「取り消す」注記
- 異なるオクターブの前の音符が異なる臨時記号を持っている場合 (例: C#5 C4 を書いた場合、Sibelius は C4 に注記のナチュラルを表示する) で、[自動注記をすべてのオクターブに表示] がオンになっている場合

Sibelius が小節の最初の音符にのみ注記を表示するかどうか選択できるようになりました。次の小節の最初の音符が臨時記号を持った前の小節の音符と同じ音高の場合です。

Sibelius は、音符が大譜表の改行をわたってタイで結ばれている場合、タイで結ばれた 2 番目の音符に臨時記号を表示できるようになりました (この臨時記号を括弧の中に書くかどうか決められません)。

1 つの譜表で複数の声部を使う楽譜の場合 (2 人の奏者または歌手が同じ譜表を読む場合や、ピアノやギター用の多声の楽譜の場合など)、Sibelius は同じ小節の別の声部で臨時記号が表示された音符に注記の臨時記号を表示することもできます。

これらの新しい自動の臨時記号は、その一部または全部を括弧の中に書くかどうか選択できます。

以前のバージョンでは、小節の途中で音部記号を変更した場合、Sibelius は臨時記号を取り消していました (たとえば D メジャーで、F ナチュラルがある小節の途中で音部記号を変更し、その後 F を書くと F# が生じました)。これは一般的な表記法ではないため、[ハウススタイル]・[記譜ルール]の[音部記号と調号]ページに新しいオプション [音部記号変更時は現在の調号へ臨時記号をリセット] を追加しました。このオプションは既存のスコアではオンになり (Sibelius の以前の動作を保つため)、新たに作成したスコアではオフになります。このオプションをオフにすると、音部記号の前の臨時記号は音部記号の後も引き続きその小節の終わりまで作用します。この自動の注記の臨時記号

その他の改良と修正

を書く新しいオプションをオンにすると、あいまいさを避けるため、Sibelius は小節の途中の音部記号（調号とは異なる）の後の音符の臨時記号を再記述します。

Sibelius の以前のバージョンで作成したスコアを開くときは、[**スコアのアップデート**] ダイアログが表示されますが、このダイアログには新しいオプション [**臨時記号注記を自動的に描く**] があります。このオプションをオンにすると、Sibelius は新しいオプション [**以前の小節の臨時記号が調号と異なる場合は臨時記号注記を表示**]、[**自動注記をすべてのオクターブに表示**]、[**改行を渡って音符にタイが付けられたときは臨時記号を再記述**]、[**タイに再記述された臨時記号は括弧内に表示**]、[**新規ボイスに見つかったときは臨時記号を再記述**] をオンにします。

2.2 アルペジオ

新しい音符付きアルペジオラインがテンキーのレイアウト**ジャズアーティキュレーション**に追加されました。/ (Mac では =) が通常のアルペジオラインを作成し、* (Mac では /) は一番上に矢印が付いた「上向き」のアルペジオラインを作成し、- (Mac では *) は一番下に矢印が付いた「下向き」のアルペジオラインを作成します。

各アルペジオラインはそのコードの高さに合わせて作成され、音符を追加または削除すると自動的に長くなったり短くなったりします。

標準設定の長さや音符付きアルペジオラインの符頭からの距離は、[**ハウススタイル**] ▶ [**記譜ルール**] の [**ライン**] ページの新しいオプションで調整します。

個々のアルペジオラインの長さを調整するには、いずれかの端をクリックし、上下にドラッグするか ↑/↓ を使います。アルペジオラインの長さをリセットするには、アルペジオラインを選択し、[**レイアウト**] ▶ [**位置をリセット**] を選択します。アルペジオラインを選択し、Alt+←/→ または ⇐/⇒ をタイプすると、個々のアルペジオラインを左右に移動できます。

2.3 アーティキュレーション

Sibelius 6 にはアーティキュレーションの標準設定の配置について多くの改善があり、これらは [**ハウススタイル**] ▶ [**記譜ルール**] の [**アーティキュレーション**] ページに追加された新しいオプションで操作できます。

- 標準設定では、スラーの最初または最後の音符のスタッカート、スタッカーティシモ、楔、テヌートは常にスラーの内側（符頭とスラーの終端の間）に描かれ、アクセントやマルカートなどはスラーの外側に描かれます。ただし、アクセントやマルカートなどのアーティキュレーションをスラーの内側に描く表記法もあります。これは、各アーティキュレーションの [**スラーの内側**] チェックボックスをオンすると適用されます。
- 同様に、Sibelius は連音符の内側のアーティキュレーションの配置についても異なる表記法に対応します。標準設定では、上げ弓と下げ弓の記号は常に連音符の括弧の外側に描かれ、他のアーティキュレーションは内側に描かれます。どのアーティキュレーションを内側に描くかは、[**連音符の内側**] チェックボックスで変更できます。
- どのアーティキュレーションをスラーの弧の内側または外側に配置するかは、[**スラーの内側**] チェックボックスを使って決めてください。これらのチェックボックスは、[**マグネティックレイアウト**] がオンで、スラーがその弧の下のオブジェクトと衝突しないよう設定されている場合のみ作用します。既存のスコアでは、これらのチェックボックスはすべてオンになり、Sibelius の以前のバージョンと同じ様に動作します。新規作成したスコアでは、上げ弓、下げ弓、フェルマータ（延音記号）を除くすべてのアーティキュレーションがスラーの弧の内側に配置されます。スラーと連音符の両方がある場合は、[**連音符の内側**] の設定が [**スラーの中央の内側**] の設定に優先します。通常はスラーよりも連音符の方が音符に近く、従って優先度が高いからです。

- スラーの最初または最後の音符の上げ弓や下げ弓のアーティキュレーションが、スラーの内側に配置される他のアーティキュレーション（スタッカートやテヌートなど）と重なった場合は、Sibelius はスラーの外側にこれらの用弓記号を配置します。
- **[常に上]** チェックボックスをオンにしたアーティキュレーションは、決して音符の下へは反転しません。**[常に上]** に設定した用弓記号やその他のアーティキュレーションは、複数の声部を使っていて「符尾が下向き」の声部（声部 2 など）に用弓記号がある場合を除き、決して譜表の下には表示されません。（Sibelius の以前のバージョンの動作を保つには、新しいオプション **[常に上]のアーティキュレーションが下に反転することを許可** をオンにしてください。）
- 新しいオプション **[n スペース、譜表の上にはアーティキュレーションは不可]** を使うと、譜表の一番上または一番下のラインと譜表の外側に表示されるアーティキュレーション（譜表の第 1 間または第 2 線上の符尾が下向きの音符のスタッカートなど）との間隔を変えることができます。
- Sibelius は、アクセント、マルカート、楔、スタッカーティシモ（標準設定で譜表内への表示が許可されたもの）がスペース内の符頭にあるとき、これらを次のスペースには表示しません。その様なアーティキュレーションは、可読性を高めるため、符頭から 1 スペース離します。（Sibelius の以前のバージョンの動作を保つには、新しいオプションの **[譜表内のアクセントとマルカートに余分のスペースを許可]** をオフにしてください。）
- **[マグネティックレイアウト]** がオンのときは、タイや臨時記号との衝突を避けるため、アーティキュレーションは垂直方向への移動を許可されます。
- 新しいオプション **[アーティキュレーションの新しい配置ルール]**（新規スコアではオン）は、以下のとおりアーティキュレーションの配置に関する問題を解決します。
 - 譜表の外側のアーティキュレーション（異なる音高の音符上）の垂直位置を一定にする
 - 4 分休符上のフェルマータ（延音記号）を譜表に接触させない
 - 譜表内への表示を許可されたアーティキュレーション（スタッカートなど）は符頭から 1 スペース余分に離したりしない
 - 符尾が下向きの声部（声部 2 や声部 4）上のアーティキュレーションは、反転したときも正しく配置する
 - 符尾が下向きの声部上のフェルマータは、同じ小節の符尾が上向きの声部（声部 1 や声部 3）に休符がある場合は、譜表の下へのみ表示する
 - 音符とアーティキュレーションが共に反転しているとき、譜表の中央のラインより下の音符に対してスタッカートのドットを正しい位置に表示する

Sibelius 6 には個々のアーティキュレーションの配置を調整するための機能改善もあります。

音符の上または下で重なったアーティキュレーションの個々の間隔が調整できます。複数のアーティキュレーションが音符の上または下で重なった場合は、音符に最も近いアーティキュレーションを移動すると、他のアーティキュレーションも同じ分だけ移動します。特定の 2 つのアーティキュレーションの間隔を空けたい場合は、符頭から一番遠いアーティキュレーションを選択して移動してください。アーティキュレーションの反転や移動による位置の変更のすべてを取り消すには、音符を選択して **[レイアウト] ▶ [位置をリセット]** を選択します。個々のアーティキュレーションを元の位置へ戻すには、そのアーティキュレーションだけを選択して **[レイアウト] ▶ [位置をリセット]** を選択します。

用弓記号などが音符の符尾の上であり、スタッカートとテヌートが音符の符頭の下にある様な場合は、それぞれのアーティキュレーションの垂直位置を別々に調整できます。音符を選択して **[レイアウト] ▶ [位置をリセット]** を選択すると、すべてのアーティキュレーションが標準設定の位置へリセットされます。音符の上と下のアーティキュレーションを個別にリセットするには、リセットするアーティキュレーションだけを選択し、**[レイアウト] ▶ [位置をリセット]** を選択します。

2.4 小節線

音部記号の変更がある小節線への特別な小節線（または複縦線を追加する調号）の追加は、Sibelius 終了の原因にはなりません。

2.5 小節と小節休符

小節休符のタイプのドロップダウンメニューは [プロパティ] の [小節] パネルから削除されました (下記の 5.17 プロパティ参照)。

- リピート小節はキーボードから作成します (下記の 2.27 リピート小節参照)。
- 非表示の小節休符は、通常の小節休符を隠すことによって作成します。
- 2全体符は、[ハウススタイル] ▶ [記譜ルール] の [小節休符] ページの新しいオプション [4/2では2全体符を使用] を選択することにより、適当な拍子記号 (4/2) に対して自動的に作成されます。このオプションは新規スコアではオンになります。

2.6 連桁グループ

- 羽根付き連桁が、テンキーの第3レイアウトの新しいボタンを使って簡単に作成できるようになりました (ショートカットは F9)。**0** はアツェレランドの羽根付き連桁を作成し、**.** は (ピリオド) はリタルダンドの羽根付き連桁を作成します。連桁は、改行または改ページをわたる場合は羽根付きにできません。2 音符のトレモロの間に表示される「連桁」には羽根を付けることができます。ただし、[ハウススタイル] ▶ [記譜ルール] の [音符とトレモロ] ページの [外側のトレモロを符尾に接触] オプションが選択されている場合を除きます。
- [作成] ▶ [拍子記号] の設定 [連桁と休符グループ] の [隣接した音符から連音符を分離] オプションは、新たに作成した拍子記号に対して標準設定ではオフになります。

2.7 連桁の位置

- [記譜ルール] の [連桁と符尾] ページの新しいチェックボックス [中央の休符に対しても] を選択すると、[中央にある音符が次のスペースまで割り込んだら水平化 n スペース] オプションが、中央に休符がある連桁グループへも適用されます。これをオンにすると、音符だけの連桁グループに対するのと同じ様に連桁の角度が修正されます。
- 音符で始まる (または終わる) 連桁グループとまったく同じ様に、休符で始まる (または終わる) 連桁グループの連桁の角度を変更することができます。
- 連桁グループが休符で始まるときも連桁を選択できます。
- 中央の譜表ライン上に表示された連桁付き音符が下の譜表と交差したとき、その音符の符尾が音符の間違った側へ表示されることがなくなりました。
- [元の譜表へ移動] は、[音符] ▶ [譜表をまたぐ音符] サブメニューへ戻り、特に音符が3つの譜表をまたぐ場合の連桁の問題が取り消しやすくなりました。

2.8 連桁下の休符とステムレット

連桁グループ内の休符にステムレット (ハーフステム) が使えるようになりました。[ハウススタイル] ▶ [記譜ルール] の [連桁と符尾] ページの新しいオプション [連桁下の休符でステムレットを使用] をオンにすると表示されます。

- ステムレットの最小限の長さ、ステムレットを譜表内へ伸ばすか譜表の外側で止めるか、ステムレットを持つ連桁グループの連桁を常に水平にするか音高に合わせて角度をつけるかなどが選択できます。

- ステムレットの長さは個別に調整できます。連桁内のステムレットの終端をクリックすると、小さなハンドルが表示されます。マウスでクリック&ドラッグするか、↑/↓ (Ctrlまたは⌘でより大きな段階) を使って長さを調整してください。[プロパティ]の[一般]パネルのYパラメータを使って、ステムレットの長さを数値で調整することもできます。ステムレットを標準設定の長さへリセットするときは、ステムレットを選択し、[レイアウト]▶[位置をリセット]を選択します。
- テンキーの第3レイアウトの新規ステムレットボタン(ショートカットはWindowsでは-, Macでは*)を使うと、個々の連桁下の休符に対してステムレットを追加または削除できます。連桁下の休符を標準設定の状態へ戻すときは、連桁下の休符を選択し、[レイアウト]▶[デザインをリセット]を選択します。

[ハウススタイル]▶[記譜ルール]の[連桁と符尾]ページには、他にも以下のオプションがあります。

- [休符を越えて連桁を伸ばす]オプションと[休符まで連桁を伸ばす]オプションが、[作成]▶[拍子記号]の設定[連桁と休符のグループ]から移動しました。これらのオプションは、個々の拍子記号にではなく、スコア全体に適用されるようになりました。
- 新しいオプション[休符を避けるため符尾の長さを調整する]が、新規スコアではオンになります。このオプションをオンにし、連桁下の休符を上下に移動すると、Sibeliusは連桁と休符が衝突しないように連桁の位置を調整します。
- 新しいオプション[第2連桁を切る]は、[連桁下の休符]がオンのときだけ選択できます。標準設定ではオフになっています。オンにすると、Sibeliusは連桁下の休符の上または下に第1連桁のみを描き、休符と連桁の衝突を回避するための移動を少なくして連桁グループをコンパクトにします。

Sibeliusの以前のバージョンで作成したスコアを開くときに表示される[スコアをアップデート]ダイアログには、連桁下の休符を操作する2つの新しいオプションがあります。

- Sibelius 3以降で作成したスコアを開くときは、[カスタム連桁グループを維持する]がオンになりません(標準設定)。オンにすると、Sibeliusは連桁グループに対して行われた変更(テンキーを使うなどして)を維持します。後で[記譜ルール]の[休符を越えて連桁を伸ばす]オプションや[休符まで連桁を伸ばす]オプションを変更した場合もです。Sibeliusは、スコアの最初の拍子記号の連桁グループの設定をもとに、これらの新しい[記譜ルール]オプションを設定します。連桁を標準設定へ戻したい場合は、パッセージまたはスコア全体を選択し、[音符]▶[連桁グループをリセット]を選択してください。
- [休符を避けるため符尾の長さを調整する]は、そのスコアの[記譜ルール]の当該オプションをオンにします。

2.11 音部記号

[作成]▶[音部記号]ダイアログで矢印キーとマウスのスロー ホイールが正しく動作するようになりました (Macのみ)。

2.15 ギターの記譜とタブ

- 音符譜のバンドラインの標準設定の形が改良されました。
- 音符譜のバンドの中央の位置が調整できるようになりました。角度は別々に変更できます。
- ギターのバンドラインは、バンドラインを選択するか、または[表示]▶[ハンドル]をオンにすると、ハンドルを表示します。
- 音符譜とタブ譜のバンドの終端の位置は、改行または改ページの両側で別々に編集できるようになりました。
- バンドが改行または改ページを越えるとき、バンドが見やすいように、バンドの続きがタブ譜の上に表示されます。

- ギターのバンドが改ページで誤って反転することがなくなりました。

2.16 ギター スケール ダイアグラム

新しいダイアログ [作成] ▶ [その他] ▶ [ギター スケール ダイアグラム] は、特殊なコード ダイアグラムを作成するためのもので、同じダイアグラムに複数のドットを表示することによって 1 つのスケールのすべての音符の演奏方法を示します。Sibelius には約 30 種類のスケール用に 1,500 以上のコード ダイアグラムのライブラリが付属していますが、独自のコード ダイアグラムを作成することもできます。

- ギタースケール ダイアグラム (通常のコード ダイアグラムではなく) の同じ弦へ複数のドットを追加します。ドットを削除するには、ドットを右クリック (Windows) または **Control-** クリック (Mac) します。
- ダイアグラム上の既存のドットを **Shift-** クリックすると、ドット用の様々な記号 (黒丸、白丸に黒枠、黒角、白角に黒枠、黒菱、白菱に黒枠) を順に選択できます。これらの記号は、スケール ダイアグラムに異なる運指などを表します。(コード ダイアグラムでも必要に応じて複数のドット形が使えます。)
- スケール ダイアグラムのドットをダブルクリックすると、ドットの内側にテキストをタイプでき (黒い形には白いテキスト、白い形には黒いテキスト)、スケール ダイアグラムに運指や音符の名前を表示するのに便利です。(コード ダイアグラムでも必要に応じて運指が追加できます。) テキストの編集集中に臨時記号を含む用語メニューを表示するには、右クリック (Windows) または **Control-** クリック (Mac) します。またはテンキーの **Ctrl+7/8/9** または **⌘7/8/9** を使ってこれらをタイプします。

[ハウスタイル] ▶ [記譜ルール] の [ギター] ページには以下のギター スケール ダイアグラム用の新しいオプションがあります。

- 新しいオプション [弦の音高を左側に表示] をオンにすると、水平方向のスケール ダイアグラムに弦の音高が表示されます。[ダイアグラムからの距離 : n スペース] は、音高名とスケール ダイアグラムの左側との間隔を決めます。
- [第 3、5、7、9、12 番目のフレット] をオンにすると、水平方向のスケール ダイアグラムの下にフレット番号が表示されます。[ダイアグラムからの距離 : n スペース] は、フレット番号とスケール ダイアグラムの下側との間隔を決めます。このオプションがオンのとき、ダイアグラムに表示される一番下のフレットのフレット番号 (5fr. など) は、水平方向のコード ダイアグラムやスケール ダイアグラムには描かれません。

2.18 楽器

- [作成] ▶ [楽器] ダイアログを使って譜表を削除したとき、その譜表が削除される前のパッセージまたは一個の選択が正しく維持されるようになりました。
- 楽器変更をキューサイズにしたとき、楽器変更テキストの音楽テキストフォントの文字の間隔が正しく表示されるようになりました (Windows のみ)。
- 新規作成したスコアの [ワーグナーチューバ (B \flat)] と [ワーグナーチューバ (F)] の移調が修正されました。

2.19 ジャズのアーティキュレーション

スクープ、フォール、ドゥイット、プロップが、テンキーの新しい第 5 レイアウト (ショートカットは **F11**) から簡単に音符へ追加できるようになりました。もうシンボルを使う必要はありません。他のアーティキュレーションと同じ様に、これらは自動的に配置されて音符と共に移動します。ま

新機能

た個別に移動することもできます。フォールとドゥイットは、適切な再生デバイス（Garritan Jazz and Big Band など）を使うと自動的に再生されます。

[ハウススタイル] ▶ [記譜ルール] の新しいページ [ジャズのアーティキュレーション] では、これらの新しいアーティキュレーションの標準設定の位置を決めることができます。これらは、マウスでドラッグするか、選択してから **Shift+Alt+←/→** または **⇧⇧←/→** をタイプすることによって、個別に移動することもできます。

2.20 調号

[作成] ▶ [調号] ダイアログで矢印キーとマウスのスロール ホイールが正しく動作するようになりました（Mac のみ）。

2.21 ライン

- ヘアピンは、新規スコアでは標準設定でボーカル譜表の上に表示されます（詳しくは下記の 3.1 テキストの作成と編集、8.12 標準設定の位置、8.14 楽器の編集を参照）。
- 主声部と副声部用の譜表に付ける新しいラインが [作成] ▶ [ライン] ダイアログにあります。
- トリル、アルペジオ、グリッサンドなどの波線の終端を選択するのが簡単になりました。終端のハンドルがラインから離れずに表示されるようになったからです。
- 改行をわたるラインの 1 番目のセグメントの右側の終端の垂直位置と、2 番目のセグメントの左側の終端の垂直位置を、ライン全体の右側の終端とは別に移動できるようになりました。
- 改行または改ページをわたるヘアピンの 2 番目のセグメントを、1 番目のセグメントの垂直位置とは別に上下にドラッグできるようになりました。
- [作成] ▶ [ライン] ダイアログと [ハウススタイル] ▶ [ラインの編集] ダイアログで矢印キーとマウスのスロールホイールが正しく動作するようになりました（Mac のみ）。
- [作成] ▶ [ライン] (および [ハウススタイル] ▶ [ラインの編集]) に選択したラインの名前が表示されるようになりました。

2.23 譜面用紙

すべての譜面用紙は、Sibelius 6 の最新の機能を使うために完全にアップデートされました。[ブラスバンド] の譜面用紙のトロンボーンや [ポップグループ] の譜面用紙の誤植などのマイナーバグも修正されています。室内アンサンブル用の譜面用紙には、最初の大譜表の後には楽器名が表示されなくなりました。

Sibelius 6 に付属している譜面用紙には以下の変更があります。

- [レイアウト] ▶ [ドキュメントセットアップ] :
 - 標準設定の譜表の大きさは、ほとんどの譜面用紙で以前の通り 7mm (0.28") になりました。
 - A4 ページの上下左右の余白はすべて 12.7mm (0.5") です。
 - タイトルなどのテキストに場所を空けるため、最初のページが一番上の譜表の余白は 38.1mm (1.5") になりました。
 - 著作権などのテキストに場所を空けるため、最初のページが一番下の譜表の余白は 12.7mm (0.5") になりました。
 - その後のページが一番上と一番下の譜表の余白は、それぞれ 12.7mm (0.5") と 7.6mm (0.3") です。
- [ハウススタイル] ▶ [記譜ルール] :

- 大譜表をわたってタイで結ばれた音符用の括弧付き臨時記号、複数の声部のパッセージの声部ごとの注記（[臨時記号] ページのオプション）などの自動の注記の臨時記号が標準設定で表示されます。
 - スタッカート、アクセント、マルカート、ハーモニックスのアーティキュレーションは、すべてに [譜表内でも許可]（[アーティキュレーション] ページ）に設定されます。
 - スタッカートと楔のアーティキュレーションは標準設定でスラーの内側に表示され（[スラーの内側] オプションを使って）、様々な状況でアーティキュレーションの位置が改善されます（[アーティキュレーションの新しい配置ルール] オプションをオンにすることによって）。
 - 譜表内に許可されたアクセント、マルカート、楔、スタッカートは、音符が譜表の一番上または一番下のスペースにある場合、符頭から 1 スペース離して表示されます（[アーティキュレーション] ページの [譜表内のアクセント、マルカート、楔、スタッカートに余分のスペースを許可] オプションをオンにすることによって）。
 - 上げ弓と下げ弓のアーティキュレーションは、連音符の括弧の内側への表示は許可されません（[アーティキュレーション] ページの [連音符の内側] オプションを使って）。
 - 連続する 1 小節のリピート小節には 4 小節ごとに番号が付けられ、この小節番号は括弧内に表示されます（[小節休符] ページのオプションを使って）。
 - 長さが 8 つの 4 分（クロシェット）拍の小節（4/2 など）は、標準設定で 2 全休符を表示します（[小節休符] ページのオプションを使って）。
 - ステムレットを使う連符下の休符は標準設定で水平方向に設定され、ステムレットが譜表内へ伸びることを許可します（[連符と符尾] ページのオプションを使って）。
 - 音部記号は、小節途中の音部記号変更の前にある音符の臨時記号をリセットしなくなりました（[音部記号と調号] ページのオプションを使って）。
 - 新しいページ [コード記号] のオプションで適切な標準設定を設定できます。
 - Sibelius は、括弧付きの楽器グループ間は 3 スペース余分に空け、ボーカル譜表の下には 3 スペース余分に空け（歌詞用）、大譜表オブジェクトを表示するよう設定された譜表の上は 3 スペース余分に空けます。また、Sibelius は鍵盤楽器の大括弧が付いた 2 つの譜表の間隔を調整しなくなりました。
 - 大と小のヘアピンの開口部は共に 1.25 スペースに設定され、次ページへ継続したときの大と小の開口部は共に 0.75 スペースに設定されています。
 - 音符の符尾の近くのスラーの位置が改善されました。
- [ハウススタイル] ▶ [楽器の編集] :
- 以下の楽器の音域が快適かつ専門的に調整されました。バス (E_b)、バス (B_b)、ユーフォonium (B_b)、テナーホルン (B_b)、バリトン (B_b)、フリューゲルホルン (B_b)、コルネット (B_b)、ソプラノコルネット (E_b)。
 - 以下の新しい楽器が追加されました。トランペット (D) [調号なし]、トランペット (E_b) [調号なし]、トランペット (F) [調号なし]、トランペット (A) [調号なし]、ベースギター [タブ] (リズムを持つタブ楽器)、コントラバスフルート、サブコントラバスフルート、ダブルコントラバスフルート、フレックスアトーン、エレクトリックピアノ (FM)、ミュージックボックス、パーカッション、ロックオルガン、リードオルガン、シンセベース 1、シンセベース 2、シンセストリングス 1、シンセストリングス 2、シンセボイス、オーケストラヒット、シンセベース 1、シンセベース 2、茶瓶、口笛、リード 1 (矩形)、リード 2 (鋸歯)、リード 3 (蒸気オルガン)、リード 4 (チフ)、リード 5 (チャランゴ)、リード 6 (ボイス)、リード 7 (5 度)、リード 8 (ベース+リード)、パッド 1 (ニューエイジ)、パッド 2 (暖かい)、パッド 3 (ポリシンセ)、パッド 4 (合唱)、パッド 5 (弓)、パッド 6 (メタリック)、パッド 7 (ハロー)、パッド 8 (スイープ)、FX1 (雨)、FX2 (サウンドトラック)、FX3 (クリスタル)、FX4 (アトモスフィア)、FX5 (ブライトネス)、FX6 (ゴブリン)、FX7 (エコー)、FX8 (Sci-fi)、三味線、琴、

フィドル、シャナイ、ティンカーベル、メロディックタム、シンセドラム、リバースシンバル、息の音、銃声、太鼓ドラム [5 線]

- **[すべての楽器]**アンサンブルの**[キューバ、ピッチなしパーカッション]**ファミリーの名前を**[ラテンアメリカ、ピッチなしパーカッション]**に変更し、一部の楽器の出所をより正確に表しました。
- すべての一般的なギター用に、リズムを表示しないギタータブが**[一般的な楽器]**アンサンブルに含まれました。
- ボーカル（ソプラノ、テナーなど）用の譜表では、標準設定で譜表の中央ライン上の符尾が下向きになります。また、すべてのボーカルには新しい**[ボーカルの譜表]**オプションがあり、譜表の下に歌詞用の場所を空けるため強弱記号を譜表の上に配置します（標準設定）。
- 標準設定のドラムセット/キットには、Norman Weinbergの著書Standardized Drumset Notationに記されているスネアドラムのリムショット用の符頭が含まれています。
- ピッコロトランペット（A）とピッコロトランペット（B_♭）の移調が修正されました。
- **ライン：**
 - 主声部と副声部用の新しいラインが**[作成] ▶ [ライン]**にあります。
 - クレッシェンドとディミヌエンドのヘアピンの標準設定の位置が、ボーカルの譜表の上に表示されたときも適切になるよう設定されています。
 - すべてのヘアピンが譜表の上 -4.5 スペースです（以前のバージョンでは -4.31 でした）。
- **[レイアウト] ▶ [マグネティックレイアウト]**は標準設定でオンになります。
- **[ハウススタイル] ▶ [音符間隔ルール]**：
 - **[空白小節の幅は拍子記号によって決まる]**がオンになります。
 - 歌詞の標準設定の間隔は 0.75 スペースになりました。
- **[再生] ▶ [辞書]**の**[譜表テキスト]**の用語「palm mute」、「pm」、「P.M.」は、次の音符までではなく、次のサウンド ID 変更までサウンド ID 変更を生成するよう設定されました。
- **[作成] ▶ [シンボル]**：
 - 2 小節と 4 小節のリピート記号の垂直位置が修正されました。
 - **[クラスター]**列上の 9 度の音程を描く黒いクラスター用のシンボルが修正されました。
- **テキストスタイル：**
 - 新しいテキストスタイル**[リピート小節番号]**。連続するリピート小節の番号用です。
 - 新しいテキストスタイル**[コメント]**。**[作成] ▶ [コメント]**で使います。
 - 新しいテキストスタイル**[コードダイアグラムのフレット番号]**と**[コードダイアグラムの弦の名前]**。水平方向のコードダイアグラムとギタースケールダイアグラムで使います。
 - テキストスタイル**[数字付き低音]**のラインの間隔が 70% に設定されました。
 - **[発想記号]**の標準設定の位置が、ボーカルの譜表の上に表示されたときも適切になるよう設定されています。
 - **[運指]**は、標準設定で中央揃えだったのが左揃えになりました。
 - **[ブロック歌詞]**は、譜表の一番下から 18 スペースになりました（以前は 15 スペース）。
 - **[タイトル]**、**[サブタイトル]**、**[献辞]**は、すべて標準設定で譜表の上 8 スペース高くなりました。
 - **[作曲者]**、**[作詞者]**は、標準設定で譜表の上 2 ペース高くなりました。

2.25 符頭

[音符] ▶ [スコアを移調する] のオンとオフを切り替えたとき、移調楽器のスラッシュ符頭が誤って移調されなくなりました。

2.27 リピート小節

1小節、2小節、4小節のリピートがテンキーの新しい第5レイアウト [ジャズアーティキュレーション] (ショートカットは F11) から直接作成できるようになりました。Sibelius は 2小節と 4小節のリピートのすべての小節を常に同じ大譜表に維持し、またマルチレストへは統合しません。

[ハウスタイル] ▶ [記譜ルール] の [小節休符] ページに 1小節のリピートに番号を付ける新しいオプションがあります。リピート小節には 1、2、4、または 8小節ごとに番号を付けることができ、番号に括弧をつけたり、複縦線やリハーサルマークで番号を付け直すことができます。

Sibelius 6 は、他に再生される音符がリピート小節にない限り ([プロパティ] の [再生] パネルの [繰り返しオプション] チェックボックスが 1 つも選択されていない音符を除く)、1小節、2小節、4小節のリピートを再生できます。Sibelius は、強弱記号などの記号をリピート小節のパスセージにわたって再生しますが、サウンドを変更する記号 (pizz. など) はリピート小節のパスセージの最後でのみ適用されます。サウンドを変更する記号が複数ある場合は、最後の記号だけが適用されます。

2.28 スラー

Sibelius 6 のスラーは、他のどのプログラムよりも美しく、操作性が高くなっています。[マグネティックレイアウト] をオンにすると、マグネティックなスラーは、その形を変えたり終端の位置を移動することによって、スラーの弧の下のオブジェクト (音符、臨時記号、アーティキュレーションなど) との衝突を自動的に避けます。

[マグネティックレイアウト] は、Sibelius 6.1 で新たに作成したスコアではオンになっています。Sibelius 6 より前のバージョンの Sibelius で作成したスコアを開くときは、[スコアのアップデート] の [マグネティックレイアウトを使用する] チェックボックスをオンにすると、スラーの衝突回避が行えます。Sibelius 6.0 で作成したスコアを Sibelius 6.1 で開くと、スラーの衝突回避を行うかどうか尋ねられます。[はい] をクリックすると、Sibelius は [記譜ルール] の必要なオプションをオンにして、衝突回避が正しく行われるようにします。

スコアのすべてのスラーの衝突回避をオフにするには、[ハウスタイル] ▶ [記譜ルール] を選択し、[スラー] ページの [弧の下の衝突を避けるため形を調整] をオフにします。

個々のスラーの衝突回避をオフにするには、スラーを選択し、[プロパティ] の [ライン] パネルの [弧の下の衝突を避ける] チェックボックスをオフにします。このスラーは他のオブジェクト (テキスト、歌詞、ラインなど) との衝突は避けますが、弧の下で音符などと衝突するのを避けるために自分自身の形を変えることはしません。どの様な衝突に対してもスラーを無抵抗にするには、そのスラーを選択し、[編集] ▶ [マグネティックレイアウト] ▶ [オフ] を選択します。

[弧の下の衝突を避ける] をオフにした特定のスラーを選択すると、そのスラーの周りに表示される枠が赤くなります。非マグネティックなスラー (選択すると赤くなる) は、他のオブジェクトの衝突を回避できず、常に赤い枠を表示します。[マグネティックレイアウト] が全体としてオフになっている場合、または [記譜ルール] の [弧の下の衝突を避けるため形を調整] オプションがオフになっている場合は、選択したスラーはすべてグレーの枠を表示します。

衝突を回避する設定になっているスラーの位置、終端、形も通常の方法で調整できます。それに合わせて Sibelius はスラーを最適な形にします。Sibelius がスラーの形をどの様に調整するかは、以下の [記譜ルール] の新しいオプションを使って決めます。

- **[スラーの周りの最小の間隔 n スペース]**は、弧の下のオブジェクトに対してスラーがどれだけ接近できるかを決めます。
- **[スラーが以下の高さを超えたら終端を移動 n スペース]**は、スラーの終端をスラーの付いた音符から離す前に、スラーの弧をどれだけ急勾配にするかを決めます。この値を増やすとスラーの弧がより急になり、この値を減らすとスラーの弧がより穏やかになります。

あらゆる状況でスラーの標準設定のデザインと配置が向上しているだけでなく、最低 6 つのハンドルを使ってスラーの形を整えることができます。

- 以前のバージョンと同じく、各終端にハンドルがあります。
- 2 つの終端の間のスラーの弧の内側のコントロール ポイントは、スラーの形を変えることなくスラー全体を移動します。通常は、スラーは上下のみへ移動しますが、スラー全体を左右に移動することも可能です。
- 2つの終端の間のスラーの弧の外側のコントロール ポイントは、左右対称にスラーの湾曲の高さを変えます。このハンドルを上下または左右に移動すると、スラーの他のコントロール ポイントもいっしょに移動します。
- スラーの湾曲を決める左右のコントロール ポイントは、それぞれ別に調整できます。このコントロール ポイントのどちらかを選択すると、他のコントロール ポイントはすべて選択されていない状態になります。このコントロール ポイントは、[プロパティ]の[ライン]パネルの新しいコントロール **[スラーの左曲線]** と **[スラーの右曲線]** でも操作できます。

個々のスラーを調整するときは：

- 改行または改ページをわたるスラーの 2 つのセグメントの湾曲を別々に調整できるようになりました。
- スラーの1つのコントロール ポイントを選択して**[レイアウト] ▶ [デザインをリセット]**を選択すると、選択したコントロール ポイントの位置だけがリセットされるようになりました。
- **[作成] ▶ [その他] ▶ [複円弧スラー]**は削除されました。以前のバージョンで作成したスコアの複円弧スラーは Sibelius 6 にも表示され、以前のバージョンと同様に限られた方法で操作できます。しかし Sibelius 6 では、より細かくスラーの形を操作できる新しいコントロール ポイントを使って S 形スラーを作成することをお勧めします。

スラーの標準設定の形をさらに向上させるため、**[ハウススタイル] ▶ [記譜ルール]**の**[スラー]**ページにいくつかの新しいオプションが追加されました。

- 新しいオプション **[短いスラーの肩 n%]** と **[長いスラーの肩 n%]**：スラーの長さによって標準設定のスラーの肩の形が変わり、スラーが長くなるほど湾曲の立ち上がりの度合いが微妙に変わります。
- 新しいオプション **[高さの割合 n%]**：標準設定では、短いスラー（長さにして 2 スペースのスラー）の高さは 1 スペースになり、これより長いスラーの高さは漸近線にアプローチする指数関数を使って決められますが、標準設定でスラーが 4 スペースより高くなることはありません。**[高さの割合]** コントロールを調整すると、標準設定のスラーの高さを調整できます（値を 200% にすると 8 スペースの高さに向かうスラーになり、値を 50% にすると 2 スペースの高さに向かうスラーになります）。さらに、新しいオプション **[長いスラーの高さを制限する]** が追加されました。これは、スラーの曲線を強調したいが、極端には曲げたくないといった場合に便利です。
- 新しいオプション **[中央の太さ]**：標準設定のスラーの太さを設定します（個々のスラーの太さは [プロパティ] の **[ライン]** パネルの新しいコントロール **[スラーの太さ]** を使って調整できます）。太さはスペース単位で表されます。ただし、この値はスラーの最小限の太さを引いたスラーの幅の太さであることに留意してください（たとえば値を 0.5 スペースにすると、スラーは 0.5 スペースよりも少し太くなります）。
- 以前の **[最小の幅]** は、その意味をより正確に表すため **[輪郭の幅]** に名前が変更されました。

Sibelius は、スラーに囲まれたすべての音符の符尾の向きをもとに音符の上または下へスラーを正しく配置します。これは [ハウススタイル] ▶ [記譜ルール] の [スラー] ページの新しいオプション [上下の符尾が混在している場合はスラーを音符の上に配置する] で操作します。このオプションは、新しく作成したスコアでは標準設定でオンになっています。2 つの声部の同じ位置にある音符へスラーを追加したときも、Sibelius はこれを識別してスラーを配置します。

以前のバージョンにあったスラーに関するいくつかの問題も解決しました。

- 矢印キーを使ってスラーの位置や形を調整したときに、スラーが間違った方向へ移動することがなくなりました。
- スラーを回転させても (スラーの左端または右端をドラッグして)、スラーの角度によってスラーの太さが変わることがなくなりました。
- 小さな譜表上のスラーの形が改善されました。
- キューサイズの音符のスラーの終端の配置が改善されました。
- アーティキュレーションを持つ音符と装飾音符にスラーを付けた場合は、スラーを反転すると、アーティキュレーションが通常の位置へ戻ります。

2.29 譜表

- 1 つの小節のパスセージの上または下にオssia 譜表を作成するときは、オssia の始めて譜表ラインが小節線を越えることがなくなりました。
- スコアの終わりから 2 番目の小節にオssia 譜表を作成したとき、オssia の終わりに誤って終止線が表示されることがなくなりました。
- 非表示のリピート小節記号は、空の譜表を非表示にする妨げにはなりません。

2.30 符尾と加線

2 分音符、全音符、小節休符上の加線の標準設定の幅が改良されました。さらに、[ハウススタイル] ▶ [記譜ルール] の [音符とトレモロ] ページの新しいオプション [音符を超える加線の長さ n%] で、この様な休符上の加線の幅を正確に操作できます。

2.31 シンボル

- [作成] ▶ [シンボル] ダイアログと [ハウススタイル] ▶ [シンボルの編集] ダイアログの中を矢印キーを使って移動できるようになりました。Ctrl+←/→ または ⌘←/→ を押すと行の最初または最後へ移動し、Page Up/Page Down または Ctrl+↑/↓ または ⌘↑/↓ を押すと画面の一番上または一番下へ移動します。
- 両方のダイアログに選択したシンボルの名前が表示されるようになりました。
- 大譜表シンボル (または大譜表テキスト オブジェクト、リハーサルマーク、大譜表ライン) の各断片の垂直位置は、一番上の断片から独立しています。すなわち、1 つの大譜表オブジェクトの任意の断片を上下にドラッグしても、他の大譜表オブジェクトの垂直位置は変わりません。

2.32 タイ

- [ハウススタイル] ▶ [記譜ルール] の [タイ1] ページの新しいコントロール [太さ] を使って、スラー (上記の 2.28 スラー参照) の標準設定の輪郭の幅と中央の太さを別々に調整できるようになりました。
- 改行または改ページをわたるタイの 2 つのセグメントの湾曲を別々に調整できるようになりました。

- 改行または改ページをわたるタイの1番目のセグメントの右端と2番目のセグメントの左端の水平位置を変更できるようになりました。

2.35 3 連符とその他の連音符

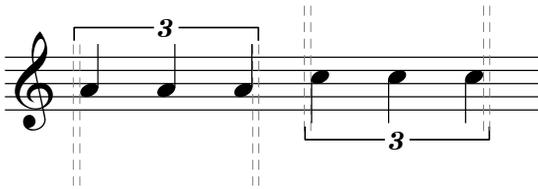
連音符の数字と括弧は、連音符のすべての音符の符尾が下向きの場合や連音符の音符を含む連桁が強制的に符尾を下向きにする場合を除いて、音符の上に配置されるようになりました。

この新しいルールは [ハウススタイル] ▶ [記譜ルール] の [連音符] ページの [すべての音符に連桁があるかの様に連音符を配置する] ラジオボタンをオンにすると適用されます。このルールは新規作成のスコアで適用されます。既存のスコアでは適用されません（体裁が変わるのを防ぐため）。

連音符の最初の音符と最後の音符に対する連音符の括弧の終端の位置が見直されました。

- [作成] ▶ [連音符] ダイアログの以前のオプション [全音価] は、2つのラジオボタンに置き換えられました。[連音符の後の最初の音符へ延長] が以前のオプション [全音価] の新しい名前で、標準設定のオプションは [連音符の最後の音符へ延長] です。
- 既存の連音符の長さは、[プロパティ] の [音符] パネルのドロップダウンを使って [連音符の最後の音符へ延長] と [連音符の後の最初の音符へ延長] を切り替えることができます。
- [ハウススタイル] ▶ [記譜ルール] の [連音符] ページの [音符からの水平距離] コントロールは、連音符の括弧の右端と左端をより正確に配置できるように、4つの新しいコントロールに置き換えられました。

n スペース、最初の
音符の符尾から離す n スペース、最後の
音符の符尾から離す



n スペース、最初の
音符の符頭から離す n スペース、最後の
音符の符頭から離す

上図の [n スペース、最初の音符の符頭から離す] と [n スペース、最後の音符の符頭から離す] の両方が 0.5 スペースに設定されているのは入力例です。連音符の括弧は符頭の端に合わせるのが一般的であるため、標準設定ではこれらの設定は 0 スペースに設定されています。[n スペース、最初の音符の符尾から離す] と [n スペース、最後の音符の符尾から離す] は、連音符の括弧と符尾が重ならないように標準設定では 0.5 スペース（上図と同じ）に設定されています。

新しいコントロール [n スペース、連音符の次の音符から離す] は、[連音符の次の音符へ延長する] オプションを使うとき、連音符の括弧の端を次の音符からどれだけ離すかを設定します。

最後に、連音符の自動括弧の動作が改良されました。[ハウススタイル] ▶ [記譜ルール] の [連音符] ページに新しいオプション [第2連桁で音符が結合されたときは括弧を非表示] が追加されました。このオプションは、標準設定ではオフになっています。オンにすると、連音符が自動括弧を使っているとき、Sibelius は以下の場合に括弧を非表示にします。

- 連音符全体が連桁の中に含まれている
- 連音符の開始前の最後の音符が8分音符、または連音符の最初の音符に [第2連桁の開始] オプションが設定されている
- 連音符の後の最初の音符が 8 分音符、または [第2連桁の開始] オプションが設定されている

その他の改良と修正

- 連音符のすべての音符の長さが連音符の最初の音符と最後の音符以下で、どの音符にも **[第2連符の開始]** が設定されていない

Sibelius 6 の連音符のその他の改良：

- 比率が 1:4 と 4:1 までの連音符が作成できるようになりました。以前のバージョンの Sibelius では、比率の範囲は 1:2 と 2:1 の間でした。複合の羽根付き連符に適切なリズムを示すなど、特別な目的のために極端な比率の連音符を使うことができます。
- **[ハウススタイル]** ▶ **[記譜ルール]** の **[連音符]** ページの新しいオプション **[常にボーカル譜表の上]**。オンにすると、連音符（括弧の有無を問わず）がボーカル譜表の上に配置されます。

3.1 テキストの作成と編集

- **[環境設定]** の **[用語メニュー]** ページが改良されました。用語メニューの用語が、単純テキストではなく、実際に用語メニューに表示される通り表示されるようになりました。この変更に伴い、**[適用]** ボタンが **[テキスト]** と **[ショートカット]** の両方のフィールドに適用されるようになりましたので（前のバージョンではテキスト フィールドへのみ適用された）、用語メニュー用のキーボードショートカットを変更した後は、忘れずに **[適用]** をクリックしてください。
- 発想記号テキストは、Sibelius 6 で作成した新規スコアでは標準設定でボーカル譜表の上に表示されます（上記の 2.21 ライン、下記の 8.12 標準設定の位置と 8.14 楽器の編集参照）。
- 大譜表テキスト オブジェクト（または大譜表シンボル、リハーサルマーク、大譜表ライン）の各断片の垂直位置は、一番上の断片から独立しています。すなわち、1つの大譜表オブジェクトの任意の断片を上下にドラッグしても、他の大譜表オブジェクトの垂直位置は変わりません。
- Sibelius は、スコアのテキストオブジェクトの大きさを再びキャッシュに保存するようになりました。一度テキスト文字列を描くと、次に描くときに再び大きさを測る必要がありません。これにより、処理能力が若干向上します。

3.5 小節番号

- 繰り返し部分の最初の小節の小節番号 **[小節番号なし (小節を数えない)]** は、**[リピートを数える]** をオフにしたときに小節番号を混乱させることがなくなりました。
- **[表示]** ▶ **[譜表名と小節番号]** によって表示される小節番号は、小節番号形式の一部として指定した接頭辞や接尾辞のテキストをすべて表示します。

3.7 リハーサルマーク

リハーサルマーク（または大譜表テキストオブジェクト、大譜表シンボル、大譜表ライン）の各断片の垂直位置は、一番上の断片から独立しています。すなわち、1つの大譜表オブジェクトの任意の断片を上下にドラッグしても、他の大譜表オブジェクトの垂直位置は変わりません。

3.9 テキストスタイルの編集

[テキストスタイルの編集] の **[一般]** ページの **[用語メニュー]** のリストはアルファベット順になりました（Mac のみ）。

4.5 パフォーマンス

- **[再生]** ▶ **[パフォーマンス]** の **[リバーブ]** コントロールは、内蔵の新しい Sibelius Player のプリセット用にアップデートされました。
- ReWire 用の新しいオプションが追加されました（26 ページの再生 参照）。

- セクションの最後を終止線と同様に扱う新しいオプションが追加されました (下記の 4.6 リピート参照)。

4.6 リピート

[再生]・[パフォーマンス]にあった[繰り返し再生]の機能が[再生]・[リピート]ダイアログへ移動しました。このダイアログには以下のオプションがあります。

- **リピートは再生しない**：このオプションを選択すると、Sibelius はスコアのすべてのリピートを無視します (以前の[繰り返し再生]をオフにした状態)。
- **リピート自動再生**：このオプションを選択すると (新規スコアの標準設定)、Sibelius はリピート小節、1 番括弧、2 番括弧、D.C. al Coda などの指示に従ってスコアのリピートを再生します。(以前の[繰り返し再生]をオンにした状態)
- **リピート手動再生**：このオプションを選択すると、その下のテキストボックスで指定した順序でスコアの小節が再生できます。小節を再生する順序は、カンマ区切りで小節番号をタイプすることによって厳密に指定できます。始めに自動再生する場合の順序が表示されますから、これを編集してください。[標準設定の順序に戻す]をクリックすると自動再生の順序になります。この機能は、自動再生できない複雑なリピートを設定するのに便利です (複数のコーダを持つ歌曲など)。同じスコアに複数の歌曲、小品、楽章がある場合は、それぞれの小節番号のセットの間に空白行を入れると、Sibelius はそこで間隔を空けます。

[リピート自動再生]を選択したときは、[D.S. や D.C. のジャンプの後にリピートを再生する]をオンにできます (新規スコアでは標準設定。既存のスコアでは、再生する順序が変わらないようオフになっている)。オンにすると、以前のバージョンの様にジャンプの後で常にエンディングを選択するのではなく、Sibelius は D.S. や D.C. ジャンプの後のすべてのリピートを再生します。

n 番括弧の扱いが改良されました。以前のバージョンでは、どのようなリピート構造でも最後のエンディングには右端が開いた括弧 (括弧の右端に縦の線がない) が必要でした。そして、最後のエンディングを正しく使わないと再生が正しく行われなかった場合があります (リピートが無限に行われる、小節番号が失われ小節が再生されない、次の n 番括弧が飛ばされるなど)。Sibelius は、これらの状況に寛容になり、n 番括弧の次の小節に別の n 番括弧 (右端の開いた) がなければ、その n 番括弧を最後のエンディングとして解釈します。

[n 回再生]形式の大譜表テキストの指示は、誤ってすべてのリピート セクションへ適用されることなくなくなりました。これらは、次のリピート終了小節へのみ適用されます。

同じスコアに複数の歌曲、小品、楽章が書かれている場合の複雑なリピート構造の再生が改良されました。

- 歌曲、楽章、小曲が終止線以外の小節線 (複縦線やリピート終了小節線など) で終わっている場合、[プロパティ]の[小節]パネルの[セクションの最後]をオンにしておくと、Sibelius はこれをスコアの最後の小節として認識します。この作用は、[再生]・[パフォーマンス]の新しいチェックボックス[セクションの最後の後に空きも再生する]で操作でき、新規スコアでは標準設定でオンになっています。
- Sibelius は、それぞれが D.C./D.S. ジャンプを行う同じスコア内の複数の歌曲、楽章、小曲を正しく再生できるようになりました。
- D.C. または D.S. の指示がリピート終了小節線と同じ位置にある場合、Sibelius は常に D.C./D.S. ジャンプを行うのではなく、1 回目はリピート小節線を再生します。

4.9 再生辞書

- **[再生] ▶ [辞書]**の**[アーティキュレーション]**ページへ新しいコントロールが追加され、次のフレーズの始めをはっきりさせるために、フェルマータ（延音記号）の後に短い間隔を設定できます。これは**[プロパティ]**の**[再生]**パネルを使って個別に設定することもできます。
- **[サウンド ID の変更]**コントロールの動作が改良されました。

4.12 再生デバイス

- **[再生] ▶ [再生デバイス]**のすべてのコントロールをタブ移動できるようになりました (Windows のみ)。
- 新しい再生構成に付けようとする名前が既存の再生構成の1つと同じ場合は、Sibeliusは新しい再生構成の名前を自動的に変更します。

4.17 MIDI メッセージ

MIDI メッセージの MIDI コントローラー 10 (パン) は、左一杯 (0) から右一杯 (127) まで正しく作用するようになりました。

5.7 フィルターと検索

[編集] ▶ [フィルター] ▶ [詳細フィルター]が大いに改善されました。

- **[音符と和音]** ページでは以下にフィルターが適用できます。
 - 通常の音符と同様に装飾音符へ
 - **[正確に n 符頭]**、**[最多 n 符頭]**、**[最小 n 符頭]** の和音
 - 特定の符頭タイプ (クロスやスラッシュなど) を使った音符
 - 異名同音の音高を別々に (F# ではなく G \flat を選択するなど)
 - 記譜音および実音
 - 音高の範囲 (A3 と C5 の間の音符など)
 - 長さの範囲 (長さで 8 分音符と 2 分音符の間の音符など)
 - 弱拍位置の音符 (複数の周期的な位置に周期的なオフセットを加えた位置など)
- **[休符と小節休符]** ページでは、**[音符と和音]** ページの改善に従って、休符の長さの範囲、弱拍位置の休符に対してフィルターを適用できます。
- **[ライン]** ページでは、一度の操作で複数のラインスタイルに対してフィルターを適用できます。**Shift**-クリックまたは **Ctrl**+クリックまたは **⌘**-クリックして複数のラインスタイルを選択してください。
- **テキスト** ページには以下の改善があります。
 - スコアでは選択できない「特別な」テキストスタイル (ヒットポイントやコードダイアグラムのフレット番号など) は表示されなくなりました。
 - 新しいオプション **[すべてのテキストスタイル]** がダイアログへ追加され、すべてのテキストスタイルの特定の文字列が検索しやすくなりました。
 - テキスト一致が標準設定で大文字と小文字を区別しなくなりました。大文字と小文字を区別した検索を行いたい場合は、新しいチェックボックス **[大小文字を区別]** をオンにしてください。

- 新しいページ[**音部記号**]が追加され、音部記号の変更に対してフィルタを適用できるようになりました。一度のフィルター操作で異なるタイプの音部記号を選択または選択解除できます。**Shift-**クリックまたは**Ctrl+**クリックまたは**⌘**-クリックして複数の音部記号を選択してください。
- 新しいページ[**シンボル**]が追加され、個々のシンボルに対してフィルタを適用できるようになりました。一度に1つのシンボルに対してのみフィルタを適用できます。

[編集]▶[フィルター]サブメニューに以下のフィルターが追加されました。

- [コメント]：選択範囲のすべてのコメントを選択
- [楽器の変更]：選択範囲のすべての楽器変更を選択
- [装飾音符]：選択範囲のすべての装飾音符を選択
- [非表示オブジェクト]：選択範囲のすべての非表示のオブジェクトを選択
- [ペダルライン]：選択範囲のすべてのキーボードのペダルラインを選択
- [リハーサルマーク]：選択範囲のすべてのリハーサルマークを選択（大譜表の選択が必要）
- [リピート小節]：選択範囲のすべてのリピート小節を選択
- [休符]：選択範囲のすべての休符と小節休符を選択
- [譜表テキスト]：選択範囲のすべての譜表テキスト（発想記号、テクニック、単純テキストなど）を選択
- [大譜表テキスト]：選択範囲のすべての大譜表テキスト（テンポ、メトロノーム記号など）を選択（大譜表の選択が必要）
- [シンボル]：選択範囲のすべての譜表に付いているシンボルを選択（大譜表が選択されている場合は大譜表に付いているシンボルも選択される）
- [テクニックテキスト]：選択範囲のテクニックのテキストスタイルを使ったすべてのテキストアイテムを選択（テクニックをもとにしたユーザー定義のテキストスタイルを含む）

[編集]▶[フィルター]サブメニューの以下の既存のフィルターが改善されました。

- [強弱記号]：標準設定のすべてのタイプのヘアピン、およびヘアピンをもとにしたユーザー定義のライン、発想記号テキストを使ったすべてのテキストオブジェクト、および発想記号をもとにしたユーザー定義のテキストスタイルを使ったテキストオブジェクトを選択
- [スラー]：標準設定のすべてのタイプのスラー（点線、破線などを含む）およびスラーをもとにしたユーザー定義のラインを選択
- [ヘアピン]：標準設定のすべてのタイプのヘアピン、およびヘアピンをもとにしたユーザー定義のラインを選択
- [編集]▶[フィルター]サブメニューを短くするため、[声部 1]、[声部 2]、[声部 3]、[声部 4]、[声部 1 だけ]、[声部 2 だけ]、[声部 3 だけ]、[声部 4 だけ]は新しいサブメニュー[編集]▶[フィルター]▶[声部]へ移動しました。これらのフィルターは音符と同様に休符も選択するようになりました。
- [最上位の音符]、[2 番目の音符]、[3 番目の音符]、[最下位の音符]、[最上位の音符または単独音符]、[2 番目の音符または単独音符]、[3 番目の音符または単独音符]、[最下位の音符または単独音符]は2つの新しいサブメニューへ移動しました。[編集]▶[フィルター]▶[和音の音符(コピー用)]と[和音の音符(削除用)]です。コピー用のフィルターは選択範囲の連音符の括弧 / 数字を選択し、これらが正しくコピーされるようにします。削除用のフィルターは選択範囲の連音符の括弧 / 数字は選択せず、連音符全体ではなく選択した音符だけが削除されるようにします。これらのフィルターは通常の音符に加えて装飾音符も選択します。

5.12 メニューとショートカット

- キーボードショートカットを設定できるテキストスタイルとラインスタイルの数の上限が200から600に増えました。
- **[機能セットの編集]** ダイアログの**[複製]** ボタンと**[名前変更]** ボタンが正しく動作するようになりました。

5.13 パノラマ

再生中に Sibelius がスコアを移動するときは、画面左側の音部記号と調号を表示している余白を考慮して移動します。スコアがスクロールしたときに楽譜が余白の陰に隠れることはありません。

5.14 順序

テキストやインポートしたグラフィックなどのアイテムを譜表の前面に表示するか背面に表示するか指定できるようになりました。新しいサブメニュー **[編集] ▶ [順序]** には **[最前面]**、**[前面]**、**[背面]**、**[最背面]** があり、選択したオブジェクトを描く順序を変更できます。アイテムを元の位置へリセットするには、**[編集] ▶ [順序] ▶ [標準設定へリセット]** を選択します。

[プロパティ] の [一般] パネルの新しいオプション **[順序のカスタマイズ]** を使うと、オブジェクトを特定のレイヤー（1 と 32 の間）へ移動することができます。

5.15 環境設定

[ファイル] ▶ [環境設定] ダイアログ（Mac では **[Sibelius]** メニュー）へ以下の新しいオプションが追加されました。

- **[表示]** ページ：新しいコントロール **[ツールバー]** を使って、Sibelius のツールバーにどのボタンを表示するかを選択できます（46 ページの **ルック & フィール** 参照）。
- **[ファイル]** ページスコアを開くときに、**[表示] ▶ [ページ]** のどのオプションを使うかを定めるオプション（下記の 5.23 **表示メニュー** 参照）。新しいオプション **[マグネティックレイアウトを使用している場合は、パノラマでも使用する]**（22 ページの **マグネティックレイアウト** 参照）。必要に応じて Sibelius のスコアの標準設定のファイルの関連を修復する新しいボタン **[修復]**（Windows のみ）。**[標準設定の用紙サイズ]** の新しいオプション（下記の 8.6 **ドキュメントセットアップ** 参照）
- **[入力デバイス]** ページ：新しいオプション **[終了時に MIDI デバイスを解放]**。コンピュータを再起動しないと Sibelius を再起動できない場合以外はオフにしてください（Windows のみ）。
- **[その他]** ページ：新しいチェックボックス **[[コードダイアグラムをリボイス] はユーザー定義のコードダイアグラムを使用]** と **[旧コード記号入力を使用]**
- **[再生]** ページ：内蔵の Sibelius Player 用の新しいオプション（26 ページの **再生** 参照）
- **[テキストチャー]** ページ：スコアに保存したバージョンに対して異なる標準設定の用紙とデスクのテキストチャーを指定します（35 ページの **バージョン** 参照）。
- 新しいバージョン機能のオプションがある新しいページ **[バージョン]**（35 ページの **バージョン** 参照）。

[環境設定] ダイアログの **[OK]** をクリックすると、Sibelius が終了するときではなく、直ちに変更が保存されます。

学校のネットワークで Sibelius のマルチユーザーライセンスを起動するなど、Windows のネットワーク環境での環境設定が改善されました。

- Sibelius のネットワーク版を起動し、管理者ユーザーとしてログインしている場合は、[環境設定] の [その他] ページに特別なボタンが表示され、現在の環境設定をそのコンピュータ上のすべてのユーザーの標準設定として設定できます (**HKEY_CURRENT_USER** ではなく **HKEY_LOCAL_MACHINE** に環境設定を保存します)。通常は、Sibelius は常に環境設定を **HKEY_CURRENT_USER** に保存しようとします。もしこれがネットワーク ポリシーによって禁じられている場合は、環境設定の保存は予告なく失敗します。
- Sibelius が起動するときは、まず **HKEY_CURRENT_USER** から、次に **HKEY_LOCAL_MACHINE** から環境設定をロードしようとし、どちらにも環境設定が見つからない場合は出荷時の標準設定になります。

5.16 印刷

- [ファイル] ▶ [印刷] の [PDF で保存] オプションで作成した PDF ファイルは、Apple Preview でジャギーにならなくなりました (Mac のみ)。
- パートを PDF へ印刷するとき ([印刷] ▶ [すべてのパートを印刷] など)、PDF のファイル名にスコアのファイル名が 2 回含まれることがなくなりました。

5.17 プロパティ

[プロパティ] ウィンドウの各パネルへ以下の新しいオプションが追加されました。

- [一般] パネル: 新しいコントロール [スケール n%] は、選択したコード ダイアグラムやギター スケール ダイアグラムの大きさを変更します (上記の 2.16 ギター スケール ダイアグラム参照)。新しいコントロール [順序のカスタマイズ] は、選択したオブジェクトのレイヤーを変更します (上記の 5.14 順序参照)。新しいコントロール [マグネティックレイアウト] は、個々のオブジェクトに対してマグネティック レイアウトをオンまたはオフにします (22 ページのマグネティック レイアウト参照)。
- [再生] パネル: 個々のフェルマータ (延音記号) を再生するかどうかを決める新しいコントロール。
- [ライン] パネル: スラーのハンドルと個々のスラーの太さに対する新しいコントロール (上記の 2.28 スラー参照)。
- [小節] パネル: 小節休符のタイプのドロップダウンメニューは削除されました。リピート小節はテンキーの新しいレイアウトを使って作成します (上記の 2.27 リピート小節参照)。2 全休符は拍子記号 4/2 で自動的に使われます。「非表示の小節休符」は削除されました。通常の小節休符を非表示にしてください (上記の 2.5 小節と小節休符参照)。
- [音符] パネル: 新しいパラメータ [休符: Y] は、譜表内で休符を上下に移動します。

5.20 移調

[オープンキー/無調] 調号で始まり、後で普通の調号を使う大譜表のパスセージを移調するときは、[音符] ▶ [移調] の [調号の移調] オプションはオフにはならず、1 回の操作で普通の調号を移調できるようになりました。

5.23 表示メニュー

新しい [表示] ▶ [ページ] サブメニューでは、画面上でスコアのページがどのようにレイアウトされるかを設定するオプションを選択できます。

- [横に見開き] が標準設定で、以前のバージョンの Sibelius と同じページの並べ方です。ページは左から右へ並べられ、見開きのページがいっしょに表示されます。

その他の改良と修正

- **[横に片面]** は新しいオプションで、単一のページを左から右へ並べます。この設定は、小冊子や見開きとして提供されることがあまりない楽譜（1 番目のページに「1」と番号が付いていてもその右のページが見開きではない連続用紙のパート譜など）に便利です。
- 新しいオプション **[縦に見開き]** では、ページが見開きで縦に並べられます。たとえば、ページ 2 とページ 3 が隣り合わせで表示され、ページ 4 とページ 5 がその下に表示されます。
- 新しいオプション **[縦に片面]** では、スコアのページが 1 列に並べられます。たとえば、ページ 1 の下にページ 2 が、ページ 2 の下にページ 3 が並べられます。

Sibelius では、**[表示] ▶ [ページ]** の設定が各スコア（と各ダイナミックパート）に対して保存され、スコア（またはパート）を再び開くとその設定に戻ります。この作用は **[環境設定]** の **[ファイル]** ページの新しいオプションで操作できます（上記の 5.15 環境設定参照）。

Sibelius 6 の拡大 / 縮小の改善：

- **Ctrl** または **⌘** を押さえてマウスのホイールをスクロールしたときの拡大 / 縮小の方向が逆になり、他のアプリケーションと同じになりました。ホイールを前へスクロールすると拡大し、後へスクロールすると縮小トします。
- Mac では、**⌘** を押さえてマウスのホイールをスクロールして拡大 / 縮小できるようになりました。
- マウスのホイールを使って拡大 / 縮小するときの変化率が下げられ、拡大 / 縮小がよりスムーズになりました。

以下のとおり、**[表示]** メニューにその他の 4 つの新しいアイテムが追加されました。

- **[表示] ▶ [ハンドル]**。標準設定ではオフ。オンにすると、オブジェクトのすべてのハンドルが明るいグレーで表示され、ハンドルが見つげやすくなります。
- **[表示] ▶ [コメント]**。標準設定ではオン。オンにすると、**[作成] ▶ [コメント]** で作成した「スティックキーノート」がスコアに表示されます。オフにすると表示されません。
- **[表示] ▶ [バージョン間の違い]** メニュー。標準設定ではオン。オンにすると、Sibelius はオブジェクトの後に色をつけてバージョン間の違いを示し、**[比較]** ウィンドウを使ってスコアを比較します（35 ページのバージョン参照）。
- **[表示] ▶ [マグネティックレイアウトの衝突]**。標準設定ではオン。オンにすると、Sibelius は他のオブジェクトと衝突したオブジェクトに赤い色をつけます（22 ページのマグネティックレイアウト参照）。

5.24 ウィンドウメニュー

3 つの新しいフローティング ウィンドウが Sibelius 6 へ追加されました。**[ウィンドウ] ▶ [比較]** は、バージョンとスコアを比較し（35 ページのバージョン参照）、**[ウィンドウ] ▶ [キーボード]** と **[ウィンドウ] ▶ [フレットボード]** は、それぞれピアノの鍵盤とギターフレットボードを画面上に表示します（40 ページのキーボードウィンドウとフレットボードウィンドウ参照）。

[ウィンドウ] ▶ [上下に並べて表示] と **[左右に並べて表示]** が Sibelius の Mac バージョンに追加されました。

[ナビゲーター] ウィンドウの改善：

- **[ナビゲーター]** は、ページが横に並べられているか縦に並べられているかを反映します（上記の 5.23 表示メニュー参照）。
- **[ナビゲーター]** は、非常に低い倍率でスコアの最後のページを表示するときは、ウィンドウの右側に「空白」を表示しません。

6.1 プラグインを使った作業

独自のプラグインの作成に興味のある方は、Sibelius の内蔵 Manuscript 言語の最新の文書をお読みください。この文書は、[ヘルプ]▶[ドキュメント]▶[Manuscript 言語リファレンス]を選択すると表示されます。Manuscript は Sibelius 6 で大いに拡張されています。新しい機能の詳細は Manuscript の文書に記述されています。

6.2 臨時記号プラグイン

[プラグイン]▶[臨時記号]▶[フラットをシャープに書き換え]と[シャープをフラットに書き換え]は、和音のすべての音符を正しく書き換えるようになりました。

6.3 分析プラグイン

[プラグイン]▶[分析]▶[譜表を比較]は、1つの譜表で非表示になっているオブジェクト、1つの譜表でキューサイズになっているオブジェクトの違いが分かるようになりました。

6.4 バッチ処理プラグイン

- 新しいプラグイン [プラグイン]▶[バッチ処理]▶[Sibelius の以前のバージョンへフォルダを変換]は、Sibelius 6 スコアのフォルダを Sibelius 5、Sibelius 4、Sibelius 3、または Sibelius 2 形式でエクスポートします。
- 新しいプラグイン [プラグイン]▶[バッチ処理]▶[各譜表をオーディオとしてエクスポート]は、スコアの各譜表を別々のオーディオファイルとしてエクスポートし、他のシーケンサーや Pro Tools などの DAW のプロジェクトへインポートできるようにします。
- [フォルダ内の Acorn Sibelius ファイルを変換]、[フォルダ内の Finale ファイルを変換]、[フォルダ内の SCORE ファイルを変換]は、すべて [プラグイン]▶[バッチ処理] サブフォルダから削除されました。Sibelius 6 は、これらの形式へはファイルを変換しません。

6.5 コード記号プラグイン

[プラグイン]▶[コード記号]▶[コード記号の追加]と[プラグイン]▶[コード記号]▶[コード記号の分数化]は、新しいコード記号オブジェクトを作成するために作成し直されました。

6.6 作曲ツール プラグイン

新しいプラグイン [プラグイン]▶[作曲ツール]▶[音符または休符を挿入]は、音符や休符の挿入、既存の音符、和音、休符の長さの変更や削除、適切な値に従った楽譜のシャッフルを行います。

6.7 音符と休符プラグイン

- [プラグイン]▶[音符と休符]▶[Boomwhacker の音符の配色]は、[音高スペクトル]機能を使わなくなりました。その代わりにスコアの音符に直接色をつけます。このプラグインは、1つの音符にのみ正しく色をつけます。このプラグインを和音に対して実行すると、和音のすべての音符が同じ色になってしまいます。
- [プラグイン]▶[音符と休符]▶[アーティキュレーションとスラーをコピー]は、通常のアーティキュレーションに加えてスクープ、フォルム、ドゥイット、プロップをコピーします。

6.8 その他プラグイン

- [プラグイン]▶[その他]▶[小節の分割]がアップデートされました。小節が分割される位置で、どの小節線を使うかを選択できるようになりました（標準設定では非表示）。
- 新しいプラグイン [プラグイン]▶[その他]▶[小節を併合]は、[小節の分割]の逆の作用をします。

6.10 校正プラグイン

- 新しいプラグイン[プラグイン]▶[校正]▶[第1類対旋律をチェック]は、FuxのGradus ad Parnassumの規則に従って、第1類（2声部、音符対音符）対旋律の誤りをチェックします。
- 新しいプラグイン[プラグイン]▶[校正]▶[余分をチェック]は、連続した同一の音部記号、拍子記号、楽器変更、調号、リハーサルマークをチェックし、非表示または削除します。

6.11 記譜の簡略化プラグイン

- [プラグイン]▶[記譜の簡略化]▶[休符の削除]は、エラーを起こさなくなりました。
- [プラグイン]▶[記譜の簡略化]▶[パフォーマンスの再表記]は、アウフタクト(弱起)小節で始まるスコアでも正しく作用するようになりました。

6.12 テキスト プラグイン

- 新しいプラグイン[プラグイン]▶[テキスト]▶[ライブプレイバックから強弱記号を追加]は、音符のライブプレイバックのペロシティをもとに適切な発想記号テキストを自動で追加します。
- [プラグイン]▶[テキスト]▶[テキストを検索し置換]がアップデートされました。同じ文字列内で同じテキストが複数回置換されても正しく動作するようになりました。複数行のテキストオブジェクトでは改行を維持します（太字、斜体、下線などの書式は失われます）。また、変更したテキストをハイライトするときの色を選択できます。
- [プラグイン]▶[テキスト]▶[小節番号]は、より多くのオプションと共に改善され、必要に応じてリハーサルマークと特別な小節線で番号を付け直すことができるようになりました。

6.13 変換プラグイン

- 新しいサブメニュー[プラグイン]▶[変換]には、旋律のデータを変更するための便利なツールとなる9つの新しいプラグインがあります。
 - **増音程**：選択範囲の連続した音符の音程を指定した値で増やします。
 - **減音程**：選択範囲の連続した音符の音程を指定した値で減らします。
 - **音高を不規則化**：選択範囲内の音高を、不規則に生成された新しい音高で置き換えます。
 - **音高を逆行**：音符の長さを変更しないで音高の順序が反転される（最後の音高が最初の音高になり、最後から2番目の音高が最初から2番目の音高に、となる）よう、選択範囲を書き換えます。
 - **リズムを逆行**：音符の音高を変更しないでリズムの順序が反転される（最後の長さが最初の長さになり、最後から2番目の長さが最初から2番目の長さに、となる）よう、選択範囲を書き換えます。
 - **リズムと音高を逆行**：音高とリズムの両方の順序が反転されるよう、選択範囲を書き換えます。
 - **リズムを循環**：音符の音高を変更しないで音符の長さが1音符分右へずれる（最後の音符の長さが最初の音符長さになり、最初の音符の長さが最初から2番目の長さに、となる）よう、選択範囲を書き換えます。
 - **リズムと音高を循環**：音符の長さと言高の両方が1音符分右へずれる（最後の音符が最初の音符になり、最初の音符が最初から2番目の音符に、となる）よう、選択範囲を書き換えます。
 - **音高をシャッフル**：音符の音高が不規則に再配置され、新しい音高を使用しないで旋律が不規則に変化するよう、選択範囲を書き換えます。

これらのプラグインのすべては選択したパッセージに対して実行され、そのほとんどはダイアログを表示しません。ダイアログを表示するプラグインも、最初に実行するときだけダイアログを

表示し、その後は表示しません。これらは、選択範囲に対して繰り返して実行できるように設計されているからです。リズムを変更するプラグインでは、連音符は1つの完全な構成単位として移動され、装飾音符はそれらが添付されている通常の音符に合わせて移動されます。

- [音符と休符]サブメニューの[音価の2倍化]と[音価の半化]、[作曲ツール]サブメニューの[反行]、[音高マッピング]、[逆行]、[音階の変換]は、[変換]プラグインへまとめられました。
- [プラグイン]▶[変換]▶[逆行]は、不完全な小節で開始または終了する選択範囲で実行できるよう改善されました。

7.1 パート譜での作業

複数の声部と多くの小節を持つスコアのパート譜の作成は、声部が1つの場合と同じ速さになりました。

7.3 複数のパートの外観

1つまたは複数のパートを選択した状態で[パート]ウィンドウの[複数のパートの外観]ボタンをクリックしたときに表示されるメッセージが変わり、[次回からは表示しない]チェックボックスが追加されました。

7.4 パート譜の作成

- [レイアウト]▶[ブレイク]▶[大譜表の分割](コーダの前の間隔など)は、ダイナミックパートを作成したときも正しく維持されます。
- ページ番号の変更は、ダイナミックパートを別々のファイルとして作成したときも失われません。

8.6 ドキュメントセットアップ

[ファイル]▶[環境設定](MacではSibeliusメニュー)の[ファイル]ページに新しいオプションが追加され、新規スコアを作成するときやMIDI、PhotoScore、MusicXMLのファイルをインポートするときの用紙サイズ[ヨーロッパサイズ(A4、A3など)]または[USサイズ(レター、タブロイドなど)]が選択できます。

8.8 ハウススタイル

[ハウススタイル]▶[ハウススタイルのインポート]で選択できる要素が増え、便利な[すべて選択解除]ボタンと[すべて選択]ボタンが追加されました。

8.9 音符間隔

[ハウススタイル]▶[音符間隔ルール]の新しいオプション：

- 空白の小節を固定したスペース数にするか(Sibeliusの以前のバージョンと同じ)、またはリズムに合わせた長さにするか(一部の浄書家が好む)を選択できるようになりました。この新しい設定にするには、[空白小節の幅は拍子記号によって決まる]ラジオボタンを選択します(新規スコアでは標準設定で選択されています)。
- 新しいオプション[コードの間の最小間隔 n スペース]。標準設定では1スペース。Sibeliusが楽譜の間隔を調整するときは、これがコード記号間の最小の距離となります。
- 新しいオプション[アルペジオの前 n スペース]。標準設定では0.5スペース。音符に付けられたアルペジオラインの前の最小の距離を指定します。(上記の2.2アルペジオ参照)。

[レイアウト]▶[音符間隔をリセット]は、平均してSibelius 5の2倍の速さになりました。

音符の周りの括弧の間隔は、複数の声部の音符の臨時記号を正しく考慮するようになりました。

8.10 譜表間隔

新しい機能 [レイアウト] ▶ [譜表の間隔を最適化] は、譜表の上または下のアイテムが衝突しないように譜表間の間隔を調整します。Sibelius が譜表の間隔を調整するときの最小の水平方向と垂直方向の距離は、[ハウスタイル] ▶ [記譜ルール] の [譜表] ページで設定します。

その他の新しいコントロールが [ハウスタイル] ▶ [記譜ルール] の [譜表] ページにあります。

- [n スペース余分に、譜表のグループ間] は、括弧または大括弧で結ばれた一番下の譜表とその下の譜表との間隔を余分に空けます。
- [n スペース余分に、ボーカル譜表の下 (歌詞用)] は、ボーカルの譜表とその下のとの間隔を余分に空けます。この値が適用されるかどうかは、その譜表の楽器タイプの [ボーカルの譜表] オプションがオンになっているかどうかで決まります (下記の 8.14 楽器の編集参照)。
- [n スペース余分に、大譜表オブジェクトの位置用] は、テンポテキストなどが上の譜表に衝突しないよう [ハウスタイル] ▶ [大譜表オブジェクトの位置] で選択した譜表の上の間隔を余分に空けます。これはスコアの一番上の譜表 (譜表オブジェクトを表示する譜表だが通常は何も衝突しない) には作用しません。
- [大譜表楽器の両方の譜表を位置調整] は、同じ楽器へ属する、括弧が付いた 2 つ (またはそれ以上) の譜表 (ピアノ譜など) 間の距離を、垂直方向の位置調整の対象にするかどうかを決めます。
- [複譜表楽器のすべての譜表を位置調整] は、同じ楽器へ属する譜表 (Flute (a)、Flute (b)、Flute (c) など) 間の距離を、垂直方向の位置調整の対象にするかどうかを決めます。

Sibelius 6 のスコアを Sibelius 5 以前の形式へエクスポートしたときは、「n スペース余分に～」オプションで設定した譜表の間隔が維持されますが、[～を位置調整] チェックボックスで設定した譜表の間隔の変更は、これらのオプションのいずれかがオフになっていると維持されません。

初めて譜表を垂直方向に移動したとき、または [レイアウト] ▶ [譜表上部スペースをリセット] を実行した直後に、譜表が必要以上に下へジャンプすることがなくなりました。

8.11 音楽フォント

以下のとおり、コード記号のフォントが改善されました。

- 変化記号が重なった様々な新しい組み合わせのコード記号に対応するために、新しい文字が Opus Chords、Opus PlainChords、Opus Chords Sans、Opus Chords Sans Condensed、Inkpen2 Chords、Reprise Chords へ追加されました。
- Reprise Chordsg フォントへダブルシャープが追加されました。
- Opus Chords、Opus Chords Sans、Opus Chords Sans Condensed、Inkpen2 Chords、Reprise Chords の上付きの大文字の M の大きさが小さくなり、ベースラインの小さな大文字の M と同じになりました。
- コード記号のフォントの様々な文字の間隔が改善されました。Reprise Chords の「OMIT」の後の余分な間隔の削除、すべてのコード記号のフォントにおける 3 つ重なった臨時記号の整列、すべてのコード記号のフォントにおける大文字の「SUS」の間隔などです。

Reprise Special のスコープとフォールの記号の形が改善されました。

8.12 標準設定の位置

[ハウスタイル] ▶ [標準設定の位置] の新しいオプション [ボーカルの譜表では異なる標準設定の位置] は、発想記号テキストやヘアピンなどのオブジェクトをボーカル譜表では譜表の上へ、他の楽

器では譜表の下へ表示します。これは、新しいオプション[**ボーカルの譜表**]をオンにした楽器へ適用されます（下記の 8.14 楽器の編集参照）。

8.14 楽器の編集

[**新規の楽器 / 楽器の編集**] ダイアログの新しいオプション：

- [**ボーカルの譜表**] チェックボックス：このオプションをオンにした楽器タイプでは、Sibelius は歌詞を配置するための余分の間隔を譜表の下に空け（上記の 8.10 譜表間隔参照）、発想記号テキストとヘアピンを譜表の上に配置します（上記の 8.12 標準設定の位置参照）。

- [**調弦に使うタブ楽器**] オプション 楽器の上に表示するコード ダイアグラムに、どのギタータブ楽器を使うかを指定します（42 ページのコード記号参照）。標準設定では、すべての楽器が一般的なチューニングの 6 弦のギターとしてコードダイアグラムを表示します。別のチューニングを使う様々なフレット楽器は、それぞれの楽器用のコードダイアグラムを表示するよう設定します。

すでにスコアで使っている楽器を編集するときに表示されるメッセージが、[**はい**]/[**いいえ**]/[**次回から表示しない**] メッセージボックスになりました。

8.15 ラインの編集

- ラインを選択して[**ハウススタイル**] ▶ [**ラインの編集**] を選択すると、[**ラインの編集**] ダイアログではそのラインスタイルが選択された状態になります。
- [**スタート**] の下の [**テキスト**] ラジオボタンをクリックすると表示される [**テキスト**] ダイアログのテキストスタイルのリストがアルファベット順になりました（Mac のみ）。

8.16 符頭の編集

[**ハウススタイル**] ▶ [**符頭の編集**] ダイアログで矢印キーとマウスのスローロール ホイールが正しく動作するようになりました（Mac のみ）。

8.17 シンボルの編集

- [**ハウススタイル**] ▶ [**シンボルの編集**] のグリッドを矢印キーで上下に移動できるようになりました（上記の 2.31 シンボル参照）。
- [**ハウススタイル**] ▶ [**シンボルの編集**] で記号を選択せずに [**削除**] をクリックしても Sibelius はクラッシュしなくなりました。

9.5 MIDI ファイルを開く

- 不適切な拍子記号を持つ MIDI ファイルを開いても、Sibelius はフリーズしなくなりました。
- [**MIDI ファイルを開く**] の [**メトロノーム記号を表示**] をオフにしたとき、MIDI ファイルのテンポ変更は、チルダ (°) に続く通常のメトロノーム記号としてではなく、非表示のメトロノーム記号としてインポートされるようになりました。
- 3,000 小節以上ある MIDI ファイルも正しくインポートできるようになりました。

9.6 MusicXML ファイルを開く

- MusicXML 2.0 ファイルは、W3C の XML スキーマ定義に対応しました。Sibelius は、引き続き DTD にも対応します。

- MusicXML ファイルから破線と点線のスラーをインポートできるようになりました。スラーの配置と方向のパラメータはインポートされません。MusicXML ファイルからインポートしたスラーは Sibelius の標準設定の配置ルールに従います。
- n 番括弧の様々な線が正しくインポートできるようになりました。MusicXML ファイルが指定する括弧が Sibelius にはない場合は、その括弧の形と動作に合わせて新しいラインスタイルが作成されます。
- セーニョ、コーダ、D.C. や D.S. のジャンプなど複雑なリピー構造が MusicXML ファイルからインポートできるようになりました。MusicXML ファイルのリピーイベントを検知すると、Sibelius は MusicXML ファイルが指定する形をそのまま再生成するのではなく、再生を正しく行うために必要なテキストまたはシンボルを使用します。
- ブレスマークと中間休止シンボルがインポートされるようになりました。
- アーティキュレーションのスcoop、プロップ、ドゥイット、フォルがインポートされるようになりました。
- アーティキュレーションの上げ弓、下げ弓がインポートされるようになりました。
- ギターのベンド、ハンマーオン、プルオフがインポートされるようになりました。
- ペダルライン（ピアノなど）がインポートされるようになりました。
- 4分音の臨時記号がインポートされるようになりました。
- 色のついたオブジェクトがインポートされるようになりました。
- アルペジオラインがインポートされるようになりました。
- 羽根付き連桁がインポートされるようになりました。
- テンポの指示などの大譜表のマークが改良されました。
- Sibelius は、複数のページで繰り返されるページ番号を探し、可能であればページごとに別々のヘッダーテキストオブジェクトを作成する代わりにページ番号のワイルドカードを使った 1 つのヘッダーテキストオブジェクトを作成します。
- その他の指示テキスト（通常は印刷しない）は、コメントとしてインポートされます。
- 括弧、副括弧、大括弧、小節線のグルーピングがインポートされます。
- テキストオブジェクトのテキスト形式の変更（太字や斜体への変更など）がインポートされるようになりました。
- MusicXML ファイルをインポートするときに、メリスマ様式の音節上の歌詞ラインが正しい長さで作成されるようになりました。
- アウフタクト（弱起）小節が MusicXML ファイルから正しい長さでインポートされるようになりました。
- 音符のない位置にコード記号がある MusicXML ファイルからコード記号をインポートするとき、その水平方向の位置が改良されました。
- インターネットに接続していないときも MusicXML ファイルを開くことができるようになりました。
- 複雑な複数の声部の場合は、最も高い音高が上向きの符尾を持つ声部を使い、最も低い音高が上向きの符尾を持つ声部を使うものとして、Sibelius が適切な声部を選択します。
- オクターブライン（8va）がインポートされるようになりました。
- 場合によってはメトロノーム記号を含む MusicXML ファイルをインポートできない問題が解決されました。

9.7 以前のバージョンのスコアを開く

Sibelius の以前のバージョンで作成したスコアを開くときに表示される [スコアをアップデート] ダイアログには様々な新しいオプションがあります (マグネティック レイアウトをオンにする、既存のコード記号テキストを新しいコード記号オブジェクトに変換する、カスタム連桁を維持するなど)。

Sibelius の以前のバージョンで作成したスコアに対するオプションの詳細については、『Sibelius リファレンス』のこのトピックをお読みください。

9.8 グラフィックのエクスポート

- [ファイル]▶[エクスポート]▶[グラフィック]の新しいチェックボックス[アンチエイリアス]は、エクスポートしたカラーまたはグレースケールのビットマップのグラフィックにアンチエイリアスを適用するかどうかを決めます。
- EPS ファイルをエクスポートするとき、スコアで使用している TIFF ファイルが 8 ビットのグレースケールの画像の場合は、[カラーのオブジェクトを含める]をオフにしてください。このオプションをオンにすると、使用している TIFF ファイルが白黒またはグレースケールであっても、すべて 24 ビットのカラー画像としてエクスポートされます。
- ページ全体のビットマップ画像を 600dpi 以上の高解像度でエクスポートできるようになりました (Windows のみ)。
- グラフィックをエクスポートするとき、コピー&ペーストと [ファイル]▶[エクスポート]▶[グラフィック]のどちらでもページ番号のワイルドカードが正しく置き換えられるようになりました。

9.9 MIDI ファイルのエクスポート

- [MIDIファイルのエクスポート]ダイアログの新しいオプション[ミュートされた楽器を無視]。標準設定ではオン。オンにすると、Sibelius は MIDI ファイルをエクスポートするときに [ミキサー]でミュートされた楽器を無視します。オフにすると、Sibelius はスコアのすべての楽器を MIDI ファイルへエクスポートします。
- MIDI ファイルをエクスポートの新しいチェックボックス [弱起小節を休符を加えた完全な小節としてエクスポート]は、標準設定でオンになっています。この設定では、スコアの始めにあるアフタクト (弱起) 小節が、休符を加えた完全な小節としてエクスポートされます。しかし、Sibelius からエクスポートした MIDI ファイルを ReWire 同期のためシーケンサーや DAW でテンポトラックとして使用する場合は、アフタクト小節を拍子記号の異なる短い小節としてエクスポートした方が便利です。その場合は、このオプションをオフにしてください。

付録

付録 A : Sibelius5.2.5 までの改良

以下は Sibelius5.2.5 までの最も重要な改良を一覧にしたものです。一般に、バグ修正はこの一覧には記述されていません。

改良には追加先のバージョンごとに (v2)、(v3)、(v4)、(v5) などと注記されています。Sibelius 1.x からのアップグレードの場合は、Sibelius 6 の新機能以外に、Sibelius 2、Sibelius 3、Sibelius 4 で追加された 800 以上の改良も導入されています。

詳しくは、『Sibelius リファレンス』の該当箇所を参照してください。

機能	改良
臨時記号	和音での臨時記号の配置を改良しました (v2)。臨時記号の非表示機能を追加しました (v3)。
アレンジ (Arrange™)	楽譜を 140 以上のスタイルが用意された (「エクスプロード (拡散)」と「リダクション (要約)」を含む) 楽器の組み合わせに適切にコピーすることで、アレンジやオーケストレーションの時間の短縮を実現しました。また、独自の楽譜を作成できます (v2)。
アーティキュレーション	反転が可能。アーティキュレーションは音符の符尾側に自動配置され、その場合は符尾の中央に配置されます (v2)。
小節線	古楽の小節線 (譜表の小節線の間、ティック、ショート) と標準設定の小節線タイプを設定するオプションを含んでいます (v2)。
小節番号	小節番号は複雑な構成で変化 (v5)。小節番号用に記譜ルールを拡張 (v5)。マルチレストはその下に小節番号の範囲を示し、小節番号はどんな距離間でもドラッグできます。また、小節番号は、そのテキストスタイルの水平位置オプションを考慮した上で設定されます (v4)。
連桁	休符を越える連桁、連音符の連桁、連桁グループの編集などの連桁の処理機能がさらにパワーアップ (v3)。連桁の位置 (オプティカル) のアルゴリズム、改行や改ページをまたぐ連桁、分断された連桁の方向の反転、フランス式連桁機能が改良されました (v4)。
括弧と大括弧	大譜表の左側に小節線がない場合には、括弧と大括弧は非表示になります (v3)。
ブレイク	簡単な空白ページと特殊な改ページを使った余白の変更 (v5)。作成されたパート譜では、休符のあとで自動ページの自動改ページが行われます (v3)。
コードダイアグラム	コードダイアグラム (ギターフレーム) は移調し、ライブラリに保存して簡単に共有できます (v3)。また、その上下に運指を表示できます (v4)。
コード記号	Inkpen2 Chords と Opus Chords、新しい Opus Roman Chords および Opus Japanese Chords フォントには新しい文字が含まれています (v4)。
音部記号	スコアが実音と移調にあるとき異なる音部記号を表示 (v5)。
カラー	スコア内のたいていのオブジェクトのカラーを変更します (v3)。
キュー	マウスクリック 1 回で楽器のパート譜用のキューを作成 (v5)。
表示設定	新しい表示スモーキングオプションを含んでいます (v3)。多数の高品質な背景テクスチャー (デスクトップや紙の色) により作業環境がより快適になりました (v2)。

機能	改良
ドキュメントセットアップ	左ページと右ページにそれぞれ余白が設けられました。新しい「譜表の余白」機能により、楽器名に関連する譜表の位置を特定できます (v2)。新しい標準ページサイズをパート譜用に作成しました (v4)。最初のページと次のページで異なる譜表の余白 (v5)。
ダイナミックパート	楽器パート譜はフルスコアと同じファイルに保存されます。スコア内の変更はパート譜に自動的に反映されます (逆も同様)。すべてのパート譜を自動的に印刷します。新規 [自動レイアウト] ダイアログには自動改行と自動改ページ機能が含まれています (v4)。
テキストスタイルの編集	新しい [すべてのフォントを編集] ダイアログを使って、スコア内で使用するフォントをすばやく変更できます (v3)。
オーディオのエクスポート	スコア内のデジタルオーディオファイルを保存し、CD に直接書き込む準備ができます (v3)。
グラフィックファイルのエクスポート	PNG グラフィックをエクスポート (v5)。グラフィックを他のアプリケーションにコピー & 貼り付けします (v4)。フォントを ESP ファイルに埋め込み、選択したプログラムに最も適したエクスポートフォーマットを自動的に選択できます (v2)。
MIDI ファイルのエクスポート	タイプ 1 またはタイプ 2 の MIDI ファイルをエクスポート (v5)。ティックの分解能を変更 (v5)。
ファイル	プログラムの初回起動時に、新しい [クイックスタート] ダイアログが表示されます (v3)。新しいスコアダイアログを使って、わずか 5 ステップでスコアを作成できます (v3)。Sibelius 2、Sibelius 3、G7、Sibelius Student フォーマットでスコアをエクスポートできます (v4)。
フィルターと検索	新しい [詳細フィルター] ダイアログや [検索 / 次を検索] ダイアログ、および多数の新しい「クイックフィルター」機能を追加しました (v2)。新しい「クイックフィルター」 (v5)。
フレキシタイム	楽譜を 2 つの声部に自動的に分割します。スタッカートやテヌート用にユーザー指定可能なしきい値を持ちます (v3)。
譜表にフォーカス	表示したくない譜表をすべて非表示にし (音符が含まれている場合でも)、作業したい譜表だけを表示します (v3)。
ギタータブ	バンドやスライドなどのギタータブ記号を総括的にサポート (およびそれを再生)。キーボードを使った新しいタブ入力方法、新しいタブ譜表タイプ、タブ内の符尾の長さを設定するための新しいオプションを含んでいます (v2)。
オブジェクトの非表示	スコア内のたいていのオブジェクトを非表示にできます。たとえば、非表示のキューを使ってスコアを書き込んだ場合は、作成したパート譜で再表示されます (v2)。
ハイライト	蛍光ペンで楽譜に書き込みを行います (v2)。
ハウススタイル (House Style™)	新しい [ハウススタイル] メニューにはスコアの外觀の調整に必要なすべての設定が含まれています (v2)。多くの場合でハウススタイルは用意されており、中には異なるテキストフォントを使用するものもあります (v4)。
アイデア	楽譜の抜粋をキャプチャー、タグ付け、再利用できます。2,000 以上の作成済みのアイデアが付属しています (v5)。
グラフィックをインポートする	カラーとモノクロームの TIFF グラフィックをインポートします (v2)。
入力デバイス	M-Audio キーボードのつまみ、フェーダー、ボタンに対応 (v5)。

機能	改良
楽器	楽器の重奏を簡単にする楽器変更機能 (v5)。独自の楽器の作成 (v5)。600 以上の異なる楽器に対応 (v5)。各楽器には「一般奏者用」音域と「プロ奏者用」音域の 2 種類の音域があり、赤色の 2 つの濃淡レベルで表示しています (v2)。楽器ダイアログを使うと、譜表を作成後に並べ替えることができます (v3)。
インターネット出版	Mac の Scorch にはテンポスライダが付いています (v4)。Scorch には高度な再生機能とグラフィックのカラー印刷機能が搭載されています (v2)。サイトを訪れた人が Scorch を使って自分のスコアを印刷して保存できるかどうかを選択できます (v2)。
キーボードショートカット	合計 200 以上のキーボードショートカットが用意されているため、マウスを使わずにたいの作業ができるようになりました。独自のキーボードショートカットを作成したり、不要な機能を無効にしたりできます (v3)。
調号	別の譜表にそれぞれ異なる調号を入力できます (v2)。
Kontakt Player	Sibelius には、高品質な再生機能を提供する Native Instruments のソフトウェアサンプル再生デバイスが含まれています (v3)。Sibelius Sounds には、追加のサウンドライブラリも幅広く用意されています (別売) (v4)。
ライン	個々のヘアピンの開口部の調整 (v5)。rit./accel. の再生用の新しい大譜表ライン (v2)。
ライブプレイバック	フレキシタイムから入力、または MIDI ファイルからインポートした楽譜のタイミングと強弱を正確に再現することで、パフォーマンスの微調整を行うことができます (v3)。
歌詞	歌詞の自動ハイフネーション (v5)。テキストファイルからの歌詞の自動割当 (v5)。歌詞を他のプログラム (ワードプロセッサなど) にコピー & 貼り付けしたり、あるいは他のプログラムにコピー & 貼り付けします (v2)。歌詞の間隔と日中韓文字の言語の歌詞用に新しいオプションが設けられています (v3)。
ManuScript 言語	内蔵 ManuScript プログラム言語に多数の改良が加えられました。
譜面用紙	60 以上のあらかじめ定義されている譜面用紙が用意されています。
メニューとショートカット	Sibelius Coloured Keyboard (色付きキーボード) とノートブック (ラップトップ) コンピュータ用に新たにキーボードショートカットを用意しました (v4)。
ミキサー	サイズ変更可能なミキサーウィンドウはサウンドダイアログを置き換えるため、再生をリアルタイムで調整できます (v2)。
マルチレスト	マルチレストが長いほど水平方向の幅も広がります (v4)。
音楽フォント	新しい手書きフォント Reprise(v5)。前衛と古楽のフォントを大量に追加 (v5)。Helsinki 音楽フォントを新たに追加しました (v4)。Opus Metronome および Opus Figured Bass フォントを新たに追加しました (v4)。古い Inkpen フォントに代わって、Inkpen2 音楽フォントを新たに追加しました (v2)。
符頭	無音および符尾なしの符頭など新しい 30 の標準設定の符頭タイプ (v5)。

機能	改良
音符の入力	カーソルは音符の入力時の位置を示します。コンピュータのキーボードを使って音符を入力するときに、テキスト、調号、和音などを作成します。複数コピー機能を使って、強弱記号をバンド/オーケストラの各譜表にコピーしたり、または小節にオスティナートパターンを挿入します (v2)。「シャドー音符」は作成しようとする音符の声高を示し、音符はマウスを使って空白の小節内の任意の位置に作成できます。声高の再入力機能が改良されたおかげで、既存の音符を再入力せずにその声高を変更できます (v3)。Sibelius では、音符の入力および編集時に、画面が頻繁に移動することはあまりありません (v4)。
音符間隔	音符間隔 (オプティカル) を取ることで衝突を避け、連音符間隔などをうまく調節できます (v3)。
MIDI ファイルを開く	マーカーをヒットポイントとしてインポートします (v4)。連音符の認識機能が改良されました (v4)。
MusicXML ファイルを開く	Finale またはその他の音楽アプリケーションで作成された MusicXML ファイルをインポートします (v4)。
ページ番号	複雑なページ番号構成に対応したページ番号の変更 (v5)。ページ番号はページ余白の代わりに譜表の余白に揃えることができるようになりました (v3)。
パノラマ	スコアを 1 つの大譜表として無限の幅の用紙に表示 (v5)。
パーカッション	新しいバズロール (符尾上の Z 記号) オプションにより、拍子なしのトレモロとして再生を行います (v4)。
パフォーマンス	新しいルバートとリズムクフィーの再生オプションにより、よりリアルな音で再生します (v2)。
再生	rits.、accels.、グリッサンド、ギターバンド、スライドを再生します (v2)。複雑なリピート (D.C.、D.S.、Coda など) やメトリックモジュレーションなどを再生します (v3)。新しい再生ウィンドウには高度な移調管理機能が搭載されています (v4)。VST や Audio Unit のバーチャルインストゥルメントに対応 (v5)。
再生辞書	再生辞書の拡張、スコアのすべてのオブジェクトの最適な再生を可能にしました (v5)。
プラグイン	コード記号の音符化 (v3)、アーティキュレーションとスラーをコピー (v4)、簡単な和音を追加 (v4)、オブジェクトに解析 (v4)、エクスプロード/リダクション (v5)、パフォーマンスの再記譜 (v5)、一連の連音符プラグイン (v5) など、80 を超える新しいプラグインが内蔵されています。
印刷	フッターに日付と時刻を印刷します。2 面割付け印刷モードを新たに搭載 (v4)。
プロパティ	新しいプロパティウィンドウには 6 つの折りたたみ可能なパネルが含まれており、このパネルを使ってオブジェクトを個々または一度に調整できます (v2)。
リハーサルマーク	リハーサルマークのカスタムの接頭辞と接尾辞に対応 (v5)。
スキャンング	PhotoScore Lite は同じ譜表上の 2 つの声部を読み取り、移調スコアの処理とギタータブの読み取り作業を行います (v3)。また、すべてのページを自動的にスキャンして読み取ることもできます (v4)。PDF ファイルを読むこともできます (v5)。
Sibelius リファレンス	ユーザーガイドの内容を表示するには、画面上の [ヘルプ]、[Sibelius リファレンス] を参照してください (v4)。

機能	改良
サウンドセット	総合的なサウンドセットエディターにより、ユーザーは非対応の MIDI デバイス用のサウンドセットを作成できます (v3)。
譜表間隔	[譜表の整列] ダイアログではスコア全体にわたって譜表の位置を正確に設定できます。[譜表のルーラー] は譜表間の距離を表示します。譜表を移動するにはキーボードショートカットを使用できます (v2)。
譜表	Sibelius では、1 つまたは複数の譜表が大譜表内で非表示になっている部分には青色の破線が表示されます。大譜表は右側からインデントすることができるようになりました (v3)。
シンボル	180 以上の新しいシンボルを追加 (v5)。シンボルは譜表だけでなく大譜表にも付けることができます (v3)。
テキスト	テキストには譜表サイズに関係なく一定のサイズを設定できるようになりました。新しいワイルドカード機能を使うと、[ファイル]、[スコア情報] の値を、スコアのテキストオブジェクトに自動的に代用できます。また、用語メニューも改良され、数字付き低音にも完全対応 (v4)。用語メニューの表示サイズ変更 (v5)。キューサイズのテキスト作成 (v5)。新しい空白ページのテキストスタイル (v5)。
タイ	タイ (オブティカル) は標準設定ではきれいな形のタイになります。タイの終点は任意の距離までドラッグできます (v4)。
タイムコード	再生時はツールバーのテンポとタイムコードの値が表示されます。スコアの演奏時間を計算し、最後にその情報を印刷します。各小節線の上にタイムコードをさまざまなフォーマットで書き込みます (v2)。リピートを考慮に入れます (v3)。新しいフレームレートを追加しました (v4)。タイムコードとヒットポイント専用のテキストスタイルを用意しました (v4)。
移調	調および音程による移調 (v5)。
トレモロ	トレモロの外観を決めるハウスタイルオプションを含んでいます (v2)。トレモロを再生するかどうかを決めるプロパティオプションを含んでいます (v4)。
3 連符とその他の連音符	スラーのように適切に配置された「マグネティック」3 連符 (v2)。
チュートリアルビデオ	20 のビデオに目と通すことで、Sibelius の主な機能をすべて理解することができます (v4)。
ビデオ	ビデオをスコアに追加し、同期再生することで、楽譜を画像に書き込むことができます (v4)。
表示メニュー	声部に応じて音符を色付けしたり、または実音ピッチに応じて音符を色付けする (「声高スペクトル」といった、新しい音符のカラーオプションを含んでいます (v2)。
ウィンドウメニュー	新しい [ウィンドウ]、[ツールウィンドウを非表示] オプションと、ツールウィンドウ用のツールバーボタンを新たに追加しました (v4)。
ワークシートクリエーター	ワークシートクリエーターからは 1700 の既成のワークシート、プロジェクト、練習問題、曲、楽器、ポスター、参考資料など、その他多くのリソースを選択することができます (v4)。

付録 B：メニューの変更

新規メニューアイテムを除く、Sibelius 5 から Sibelius 6 へのメインメニューの変更は以下のとおりです。

- Sibelius 6 には音高スペクトル機能がないため、[表示] ▶ [音符カラー] ▶ [音高スペクトラム] は削除されました。
- [作成] ▶ [コードダイアグラム] が [作成] ▶ [コード記号] になりました ([作成] ▶ [テキスト] ▶ [コード記号] は削除されました。)
- S型スラーは通常のスラーを使って作成されるようになったため、[作成] ▶ [その他] ▶ [複円弧スラー] は削除されました。

Sibelius 4 から Sibelius 5 への主なメニュー変更：

- [作成] ▶ [その他] ▶ [譜表タイプの変更] と [移調の変更] は [作成] ▶ [その他] ▶ [楽器変更] に置き換えられました。
- [再生] メニューの様々なオプションが削除され、入力デバイスの設定は [ファイル] ▶ [環境設定] (Mac では Sibelius メニュー) の新しい [入力デバイス] ページへ移動しました。
- [レイアウト] ▶ [譜表にフォーカス] は [表示] は表示メニューへ移動しました。
- [レイアウト] ▶ [楽器と譜表] は [作成] ▶ [楽器] に戻りました。

Sibelius 3 から Sibelius 4 への主なメニュー変更：

- Sibelius 4 には単一のマルチページ [ファイル] ▶ [環境設定] ダイアログ (Mac では [Sibelius] メニュー) ができ、[表示] ▶ [スムージング] や [表示] ▶ [テキストチャー] など、旧バージョンの他の多くのダイアログ、およびさまざまな新しいオプションが 1 つにまとめられました。
- ファイルをエクスポートするすべての操作 (以前のバージョンの Sibelius や MIDI ファイル、グラフィックファイルとして保存するなど) を、[ファイル] ▶ [名前を付けて保存] ではなく、[ファイル] ▶ [エクスポート] を通じて行うようになりました。
- [ハウススタイル] ▶ [マルチレストを使用する] は [レイアウト] ▶ [自動レイアウト] ダイアログに移動しました。ただし、**Ctrl+Shift+M** または **⌘⇧M** のショートカットは従来どおり使用できます。

Sibelius 2 から Sibelius 3 への主なメニュー変更：

- 最近作業したファイルの一覧は [ファイル] ▶ [最近使ったファイルを開く] サブメニューに移動し、ファイル数も 10 個に増えました。
- [作成] メニューが簡略化され、使用頻度の低いアイテムは [作成] ▶ [その他] サブメニューに移動しました。

Sibelius 1.x から Sibelius 2 への主なメニュー変更：

- フレキシタイムが [音符] メニューに移動しました。
- エスプレッシーボ、スイング、リバーブは、[再生] ▶ [パフォーマンス] ダイアログに移動しました。
- [表示] メニューのいくつかのアイテムが [ウィンドウ] メニューに移動しました。
- [ファイル] ▶ [ハウススタイル] ダイアログの名前が [記譜ルール] になり、スコアのハウススタイルのあらゆる面を編集する新機能と共に新しい [ハウススタイル] メニューへ移動しました。

付録 C：キーボードショートカット

以下に説明するように、Sibelius 6 には多数の新しいショートカットと、変更された既存のショートカットがあります。

新しいキーボードショートカット

以下は Sibelius 6 の新しいキーボードショートカットの一覧表です。

機能	Windows ショート カット	Mac ショートカット
[編集] ▶ [コード記号] ▶ [コードテキストを変更]	Ctrl+Shift+K	⇧⌘K
[作成] ▶ [コメント]	Shift+Alt+C	⇧⌘C
[作成] ▶ [その他] ▶ [楽器変更]	Ctrl+Shift+Alt+I	⇧⌘⇧I
[ウィンドウ] ▶ [比較]	Ctrl+Alt+C	⌘⇧C
[ウィンドウ] ▶ [キーボード]	Ctrl+Alt+B	⌘⇧B
[ウィンドウ] ▶ [フレットボード]	Ctrl+Alt+E	⌘⇧E
QWERTY モード切り替え (キーボードウィンドウ用)	Shift+Alt+Q	⇧⌘Q
QWERTY モード、オクターブ上	X	X
QWERTY モード、オクターブ下	Z	Z
QWERTY モード、C	A	A
QWERTY モード、C#/D♭	W	W
QWERTY モード、D	S	S
QWERTY モード、D#/E♭	E	E
QWERTY モード、E	D	D
QWERTY モード、F	F	F
QWERTY モード、F#/G♭	T	T
QWERTY モード、G	G	G
QWERTY モード、G#/A♭	Y	Y
QWERTY モード、A	H	H
QWERTY モード、A#/B♭	U	U
QWERTY モード、B	J	J
QWERTY モード、上の C	K	K

旧バージョンのショートカットに加えられた変更

以下の表に、Sibelius 6 で旧バージョンのショートカットに加えられた変更を一覧します。

機能	旧	Sibelius 6
[作成] ▶ [コード記号] (以前の [作成] ▶ [コードダイアグラム])	Shift-K	Ctrl+K または ⌘K
[編集] ▶ [コード記号] ▶ [コードダイアグラムをリボイス] (以前の [編集] ▶ [コードダイアグラムの変更])	Ctrl+Shift+K または ⌘⌘K	Ctrl+Shift+Alt+K または ⌘⇧⌘K
[編集] ▶ [フィルター] ▶ [和音の音符 (コピー用)] ▶ [最下位の音符または単独音符]	Ctrl+Alt+B または ⇧⌘B	Ctrl+Shift+Alt+B または ⌘⇧⇧B
テンキーレイアウト	F8-F12	F7-F12
[再生] ▶ [パフォーマンス]	Shift-P	ショートカットなし
巻き戻し / 早送り	←/→	[/]
[編集] ▶ [表示 / 非表示] ▶ [表示]	Ctrl+Shift+S または ⌘⌘S	Ctrl+Shift+H または ⌘⇧H
[ウィンドウ] ▶ [ミキサー] (Mac のみ)	⇧⌘M	M
ノート型パソコンのテンキー用のショートカット (Windows のみ)	Ctrl+Alt+Q/W/E/R/A/S/D/Z/X/C/R	代わりに、[ノートブック型 (ラップトップ) 機能] を使用してください。ショートカットなし
[ファイル] ▶ [パート譜の作成]	Ctrl+Shift+X または ⌘⇧X	ショートカットなし
[表示] ▶ [音符のカラー] ▶ [範囲外の音符]	Ctrl+Alt+N または ⇧⌘N	ショートカットなし
[表示] ▶ [音符のカラー] ▶ [音高スペクトル]	Ctrl+Alt+P または ⇧⌘P	ショートカットなし
[作成] ▶ [コードダイアグラム] (旧ショートカットは [作成] ▶ [ギターフレーム])	U	Ctrl-K または ⌘K
[作成] ▶ [テキスト] ▶ [メトロノーム記号]	Ctrl+M または ⌘M	ショートカットなし
[音符] ▶ [音符の入力]	V	N
[ウィンドウ] ▶ [プロパティ]	Ctrl+I または ⌘I	Ctrl+Alt+P または ⇧⌘P

Sibelius 1.x (英語版) のショートカットに加えられた変更

Sibelius 1.x のショートカットは大幅に変更されました。Sibelius で使用されるキーボードショートカットの完全なリストについては、『Sibelius リファレンス』の「 5.12 メニューとショートカット」を参照してください。